

令和2年度  
(2020年4月～2021年3月)

# 事業実績書

(病虫害防除関係)

宮崎県総合農業試験場 病虫害防除・肥料検査課  
(宮崎県病虫害防除・肥料検査センター)

# 目次

## I 組織と業務

1 名称及び所在地	-----	1
2 管轄区域	-----	1
3 職員及び業務	-----	1
4 業務分掌表	-----	1

## II 事業実績

### 1 農作物有害動植物発生予察事業

#### 1) 調査の種類及び方法

(1) 指定病害虫	-----	3
(2) 指定外病害虫	-----	4
(3) 巡回調査ほ場数	-----	5

#### 2) 主要農作物の病害虫発生概況（令和2年産）

(1) 早期水稻	-----	6
(2) 普通期水稻	-----	6
(3) カンショ	-----	6
(4) 大豆	-----	7
(5) ジャガイモ	-----	7
(6) かんきつ類（露地栽培）	-----	7
(7) 茶	-----	7
(8) 冬春きゅうり	-----	7
(9) 冬春ピーマン	-----	8
(10) 冬春トマト	-----	8
(11) いちご	-----	8
(12) 秋冬だいこん	-----	8
(13) サトイモ	-----	9

#### 3) 水稻、かんきつ病害の初発日ならびにウンカ類の初飛来日

##### (1) 水稻、かんきつ病害の初発日

ア 水稻	-----	10
イ かんきつ	-----	10

##### (2) 予察灯におけるウンカ類、ツマグロヨコバイ、コブノメイガの初飛来日

#### 4) 予察灯（白色60W）における水稻害虫の誘殺状況

(1) 延岡	-----	11
(2) 佐土原	-----	12
(3) 国富	-----	13
(4) 都城	-----	14

5) フェロモントラップによる誘殺状況		
(1) チャハマキの誘殺状況	-----	1 5
(2) チャノコカクモンハマキの誘殺状況	-----	1 7
(3) チャノホソガの誘殺状況	-----	1 9
(4) ハスモンヨトウの誘殺状況	-----	2 1
(5) タバコガ・オオタバコガの誘殺状況	-----	2 3
(6) コブノメイガの誘殺状況	-----	2 5
6) 果樹カメムシ類の誘殺状況		
(1) 予察灯における誘殺状況	-----	2 6
(2) 合成集合フェロモンによる誘殺状況	-----	3 0
7) 農作物有害動植物の発生及び防除状況		
(1) 発生経過、発生要因及び防除の概要	-----	3 4
(2) 発生面積及び防除面積等	-----	4 1
8) 有害動植物発生予察事業実施状況		
(1) 発表情報一覧（警報、注意報、特殊報、防除情報）	-----	4 7
(2) 情報の内容	-----	4 8
2 特殊病虫害侵入警戒調査事業		
1) ミバエ類侵入警戒調査	-----	8 5
2) アリモドキゾウムシ侵入警戒調査	-----	8 7
3) イモゾウムシ侵入警戒調査	-----	9 0
4) ミカンキジラミ侵入警戒調査	-----	9 0
3 その他の調査、検定等		
1) BLASTAMによる葉いもちの発生好適条件の判定と現地の発生状況	-----	9 1
2) 斑点米カメムシ類の発生状況調査	-----	9 3
3) ヒノキ毬果口針鞘数による果樹カメムシ類離脱予測	-----	9 4
4) サツマイモ基腐病に関する調査	-----	9 5
5) 令和2年(2020年)におけるツマジロクサヨトウの発生状況	-----	1 0 0
6) ヒラズハナアザミウマの薬剤感受性検定	-----	1 0 1
7) マイナー作物農薬登録の推進について	-----	1 0 4
III その他		
1 病虫害防除員の設置状況	-----	1 0 5
2 巡回調査ほ場の分布図	-----	1 0 6
IV 令和2年度気象概況	-----	1 0 7

# I 組織と業務

## 1 名称及び所在地

宮崎県総合農業試験場 病虫害防除・肥料検査課

(兼 宮崎県病虫害防除・肥料検査センター ※ H23.4～)

宮崎県宮崎市佐土原町下那珂 5 8 0 5 番地

## 2 管轄区域

県内全域 (9市14町3村)

## 3 職員及び業務

職 員	業 務
課長(所長) 吉 留 浩	1 病虫害の発生予察及び情報の提供に関すること 2 病虫害の適正防除指導に関すること 3 病虫害の診断及び検定に関すること 4 重要病虫害の侵入警戒調査に関すること 5 農薬指導取締に関すること 6 農薬安全使用指導に関すること 7 その他植物防疫に関すること 8 肥料の分析及び取締に関すること
主 幹 松 浦 明	
主 査 森 下 勝	
専門技師 寺 本 敏	
専門技師 福 田 武 美	
技 師 阿 萬 祐 樹	
技 師 椎 葉 駿 輔	
農薬登録研究員 今 村 幸 久	
(兼務職員)	
土壌環境部	
副 部 長 永 井 浩 幸	
主任技師 吉 留 悠 太	
技 師 田 上 遊 里	

## 4 業務分掌表 (病虫害防除関係のみ記載)

主担当	副担当	分 掌 事 務
吉 留	松 浦	1 病虫害防除・肥料検査課の総括に関すること
松 浦	阿 萬	1 植物防疫および肥料関係事業の総括に関すること 2 病虫害発生予察並びに情報作成の総括に関すること 3 農薬取締および肥料取締に関すること 4 各種協議会の総括に関すること
森 下	寺 本	1 情報ネットワーク保守・管理に関すること

主担当	副担当	分 掌 事 務
寺 本	椎 葉	1 果樹・茶等の病虫害発生予察に関すること 2 病虫害診断対策に関すること 3 農薬取締および肥料取締に関すること
阿 萬	寺 本	1 普通作物等の病虫害発生予察に関すること 2 特殊病虫害侵入警戒調査対策事業に関すること 3 病虫害診断対策に関すること 4 農薬取締および肥料取締に関すること
椎 葉	松 浦	1 野菜、花きの病虫害発生予察に関すること 2 発生予察関連資料の作成に関すること 3 農薬取締および肥料取締に関すること
今 村	—	1 マイナー作物の農薬登録促進に関すること 2 薬品の保管管理に関すること

## Ⅱ 事 業 実 績

### 1 農作物有害動植物発生予察事業

病虫害発生予察事業は、病虫害の防除を適時で経済的なものにするため、その発生分布・繁殖・気象・農作物の生育状況等を調査し、病虫害による損害の発生を予察し、これに基づく発生予察情報を関係者に提供するものである。

農作物有害動植物発生予察事業実施要綱及び同実施要領に準拠し、予察ほ場の定点調査及び巡回調査を行って病虫害予察方法の確立に努め、発生予報・警報・注意報・特殊報・防除情報を発表して病虫害防除対策の資料にした。

#### 1) 調査の種類及び方法

##### (1) 指定病虫害

区分	対象作物名	有 害 動 植 物 名 (種類数)
普通作物	イネ	稲こうじ病、いもち病、縞葉枯病、ばか苗病、もみ枯細菌病、紋枯病、イネミズソウムシ、コブノメイガ、セジロウンカ、ツマグロヨコバイ、トビイロウンカ、ニカメイガ、斑点米カメムシ類(クモヘリカメムシ、アカスジカスミカメ、ホソハリカメムシ、シラホシカメムシ、ミナミアオカメムシ)、ヒメトビウンカ、フタオビコヤガ(15)
	サツマイモ	ハスモンヨトウ (1)
	ジャガイモ	疫病、アブラムシ類(ジャガイモヒゲナガアブラムシ、ワタアブラムシ、モモアカアブラムシ)、ハスモンヨトウ(3)
	ダイズ	アブラムシ類(ダイズアブラムシ)、吸実性カメムシ類(ミナミアオカメムシ、アオクサカメムシ、イチモンジカメムシ)、ハスモンヨトウ(3)
果樹等作物	カンキツ	かいよう病、黒点病、そうか病、アブラムシ類(ワタアブラムシ、ミカンクロアブラムシ)、ハダニ類(ミカンハダニ)、果樹カメムシ類(ツヤアオカメムシ、チャバネアオカメムシ)(6)
	チャ	炭疽病、チャノホソガ、ハマキムシ類(チャノコカクモンハマキ、チャハマキ)、ハダニ類(カンザワハダニ) (4)
野菜	キュウリ	うどんこ病、褐斑病、灰色かび病、べと病、アザミウマ類(ミナミキイロアザミウマ)、アブラムシ類(ワタアブラムシ)、コナジラミ類(タバココナジラミ)、ハスモンヨトウ (8)
	ピーマン	うどんこ病、アブラムシ類(ワタアブラムシ、モモアカアブラムシ)、ハスモンヨトウ、オオタバコガ(4)
	トマト	疫病、灰色かび病、葉かび病、アブラムシ類(ワタアブラムシ、モモアカアブラムシ)、コナジラミ類(タバココナジラミ、オンシツコナジラミ)、ハスモンヨトウ(6)
	ダイコン	アブラムシ類(ニセダイコンアブラムシ)、ハスモンヨトウ、コナガ、ヨトウガ(4)
	イチゴ	うどんこ病、炭疽病、灰色かび病、アザミウマ類(チャノキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマ)、アブラムシ類(ワタアブラムシ)、ハダニ類(ナミハダニ、カンザワハダニ)、ハスモンヨトウ(7)
	計	61種類

## (2) 指定外病害虫

区分	対象作物名	有 害 動 植 物 名
普通作物	イネ	萎縮病、ごま葉枯病、白葉枯病、苗立枯病、黄萎病、黄化萎縮病、内類褐変病、アワヨトウ、イチモンジセセリ、イネゾウムシ、イネヒメハモグリバエ、イネヨトウ、スクミリンゴガイ、イネシンガレセンチュウ（14）
	サツマイモ	立枯病、つる割病、紫紋羽病、アブラムシ類、イモキバガ、エビガラズメ、ナカジロシタバ（7） ※サツマイモ基腐病
	ジャガイモ	ニジュウヤホシテントウ、葉巻病（2）
	ダイズ	立枯性病害、さび病、紫斑病、葉焼病、べと病、モザイク病、ウコンノメイガ、シロイチモジマダラメイガ、ダイズサヤタマバエ、ハダニ類、フタスジヒメハムシ、コガネムシ類（マメコガネ）、マメシンクイガ、マメヒメサヤムシ類、食糧性鱗翅目幼虫（ミツモンキンウワバ）（15）
果樹等作物	カンキツ	青かび病、緑かび病、黄斑病、日やけ炭疽病、灰色かび病、アブラムシ類、吸蛾類、コアオハナムグリ、アザミウマ類（チャノキイロアザミウマ）、ケシキスイ類、ミカンハモグリガ（11）
	チャ	網もち病、白星病、もち病、輪斑病、クワシロカイガラムシ、アザミウマ類（チャノキイロアザミウマ）、チャノミドリヒメヨコバイ、ツカメムシ類（マクロアオカスミカメ）（8）
野菜	キュウリ	疫病、キュウリ退緑黄化病、キュウリ黄化えそ病、菌核病、炭疽病、つる枯病、つる割病、斑点細菌病、モザイク病、ウリノメイガ、ウリハムシ、チャノホコリダニ、ハモグリバエ類（13）
	ピーマン	青枯病、疫病、黄化えそ病、菌核病、軟腐病、灰色かび病、斑点細菌病、斑点病、モザイク病、黒枯病、コナジラミ類、タバコガ類、チャノホコリダニ、ハダニ類、アザミウマ類（15）
	トマト	青枯病、萎凋病、うどんこ病、すすかび病、モザイク病、トマト黄化葉巻病（TYLCV）、褐色輪紋病、菌核病、軟腐病、斑点病、輪紋病、ハモグリバエ類（12）
	ダイコン	萎黄病、べと病、モザイク病、炭疽病、軟腐病、キスジノミハムシ、ハムシ類（ダイコンサルハムシ）（7）
	イチゴ	萎黄病、じゃのめ病、菌核病、輪斑病、コナジラミ類（5）
	サトイモ	疫病（1）
	計	110種類

## (3) 巡回調査ほ場数

地域 対象作物	中部	南那珂	北諸県	西諸県	児湯	東臼杵	西臼杵	計
早期水稻	11	6			12	4		33
普通期水稻	5		10	8		10	8	41
ダイズ	1		6					7
サツマイモ		4	4		4			12
ジャガイモ	2		4		4			10
カンキツ	8	4			2	4		18
チャ	2	1	4	2	4		4	17
冬春キュウリ	9	1	2			3		15
冬春ピーマン	3	2			6			11
冬春トマト	3				5	2		10
ダイコン	6					4		10
冬春イチゴ	2		3	3	4			12
サトイモ	2		4	4				10
計	54	18	37	17	41	27	12	206



## 2) 主要農作物の病害虫発生概況（令和2年産）

### (1) 早期水稲

スクミリンゴガイは、4月中旬の発生面積率が平年並、発生程度がやや多であったが、その後発生が増え、5月中旬の発生面積率は平年比やや多、発生程度は平年比多であった。

葉いもちは、初発生が6月9日で平年よりも遅い発生であった。その後、いもち病に好適な気象条件が続き、6月下旬の発生面積率は平年並み、発生程度はやや多であった。

紋枯病は出穂期頃から見られ、成熟期の発生面積率、発生程度はいずれも平年比多であった。

斑点米カメムシ類は、6月上旬のイタリアンライグラス等飼料作物での生息密度は平年比多、6月中旬の本田での発生面積率、発生程度も平年比多（病害虫予察注意報第3号（R2.6.19））であり、過去10年間で最も多い発生量であった。その後の6月下旬の本田での発生面積率、発生程度いずれも平年比やや多であった。

### (2) 普通期水稲

葉いもちは、7月中旬から発生が確認された。梅雨前半（6月上旬～中旬）は少雨傾向であったため抑制的であったが、平年より梅雨明けが遅れたことから発生が助長され、一部ではずりこみ症状がみられた。梅雨明け（7月下旬）以降は高温傾向が続いたことから発生が抑制され、8月中旬の発生面積率は平年比やや少、発病度は平年並であった。

紋枯病は、8月中旬から確認され、9月中旬の発生面積率は平年並、発生程度はいずれも平年比やや多であった。

セジロウンカは、初飛来が平年より早い5月18日で、7月上旬に予察灯で数百頭の誘殺が確認され、その後も断続的な飛来があり百頭を超える誘殺が数回確認された。

トビイロウンカは、初飛来が平年並みの6月27日で、7月上旬に予察灯への数百頭の主要飛来を確認し、その後も断続的な飛来が確認され、県内への飛来回数、飛来量いずれも多かった。また、本田では7月上旬から確認され、7月中旬の発生面積率、発生程度いずれも平年比多であった（病害虫予察注意報第4号（R2.7.17））。その後、8月下旬の発生面積率は平年並み、発生程度は平年比多となり、坪枯れが発生し始めた（病害虫予察注意報第6号（R2.9.1））。7月下旬以降、高温・小雨傾向が続き、ウンカ類の増殖に好適な条件だったこと、また度重なる飛来により、トビイロウンカの世代が複雑になり、防除効果が得られにくい状況であったと考えられる。

コブノメイガは、初飛来が6月11日で平年より早かった。7月から8月の発生面積率は平年比やや多、発生程度は平年比やや多～多で推移した。

斑点米カメムシ類は、8月中旬の発生面積率、発生程度はいずれも平年比やや多であったが、その後の発生量は平年比からやや少なく推移した。

### (3) カンショ

ナカジロシタバやハスモンヨトウの発生量は期間を通して平年並～やや多で推移した。イモキバガの発生量は期間を通して平年並から少で推移した。また、4月下旬にサツマイモ基腐病の本ぼでの初発が確認され（病害虫防除情報第1号（R2.4.24））、その後発生が拡大し（病害虫予察注意報第2号（R2.5.29））、8月下旬頃から地上部の枯死が目立ち始めた。

(4) 大豆

べと病の9月（着莢期）の発生面積率は平年比やや少、発生程度は平年比少であり、その後の収穫物調査でも被害粒は平年並の発生であった。葉焼病が10月以降確認され、10月の発生量は平年比多であった。

ハスモンヨトウの発生量は期間を通して平年比やや少～少で推移した。吸汁性カメムシは9月の発生面積率、発生程度はいずれも平年比やや多であったが、10月はいずれも平年比少の発生であった。

(5) ジャガイモ

疫病は、5月中旬の発生量は平年比やや少であった。また、ニジュウヤホシテントウ及びハスモンヨトウの5月中旬の発生量は平年並、アブラムシは平年比やや少の発生であった。

(6) かんきつ類（露地栽培）

そうか病は、初発が葉で平年より早く、果実では遅く確認され、発生量は8月に増加し、やや多～多となった。黒点病は、初発が葉で平年並、果実で遅く、発生量は少で推移した。かいよう病については、初発が遅く、発生量は葉・果実とも平年並であった。

ミカンハダニは、越冬量が平年並で、その後、8月に密度がやや上昇したものの少発生で推移した。

果樹カメムシ類のトラップ誘殺数は、フェロモントラップでは、チャバネアオカメムシが少、ツヤアオカメムシが平年並、予察灯では、チャバネアオカメムシがやや少、ツヤアオカメムシが少であった。

(7) 茶

炭疽病、輪斑病は平年並、もち病は山間部を主体に平年並の発生であった。

チョウ目害虫のフェロモントラップによる誘殺数は、チャノコカクモンハマキがやや多、チャハマキが平年並、チャノホソガが少であった。ほ場での発生は、チャノコカクモンハマキとチャハマキが平年並、チャノホソガが平年並～少で推移した。

カンザワハダニについては、越冬後の寄生密度は平年並で、その後も9月の密度がやや高まったものの、全般的には平年並～少の発生であった。

チャノミドリヒメヨコバイとチャノキイロアザミウマは、7月の発生が平年より多かった。

クワシロカイガラムシは一部園地で6月と8月の発生が増加したが、全体的に平年並以下で推移した。

チャトゲコナジラミが各地で多発する事例がみられたので、防除情報（病虫害防除情報第6号(R2.9.1))を発出し、冬秋期における防除の徹底を促した。

(8) 冬春きゅうり（栽培期間：令和元年9月～令和2年6月）

べと病は2月までの発生は平年並～やや多であったが、3月に平年より多となったため病虫害防除情報第10号（R2.3.24）により防除を促した。4月には平年よりやや多となった。うどんこ病は10月の発生は平年より少であったが、11月以降徐々に増加し、3月は平年より多の発生となった。褐斑病は12月に平年よりやや多の発生となったものの、その他の月

では平年並以下の発生であった。ウイルス病については調査開始の10月に黄化えそ病の平年より多の発生が確認されたため、トマト黄化葉巻病や退緑黄化病とあわせて防除情報第6号(R1.10.28)を发出し、初期防除の徹底を呼びかけた。しかし、黄化えそ病は12月以降過去10年で最も多い発生で推移したため、病虫害発生予察注意報第6号(R1.12.24)を发出し、強く防除を呼びかけた。退緑黄化病は2月まで平年並以下の発生であったものの3月以降過去10年で最も多い発生となった。

その他病害については、期間を通して平年並以下の発生であった。ミナミキイロアザミウマは調査期間中平年並以下の発生であった。タバココナジラミは1月まで平年並以下の発生であったが、2月以降平年よりやや多の発生であった。

その他虫害については、平年並の発生であった。

(9) 冬春ピーマン（栽培期間：令和元年9月～令和2年6月）

斑点病は3月まで平年並～やや少の発生で、4月は平年よりやや多の発生であった。黒枯病は10月、12月、1月に発生が確認されたが、その他の月では発生が認められなかった。その他病害については、平年並の発生であった。

ミナミキイロアザミウマは、栽培当初から発生が少なく、期間を通して平年より少の発生となった。一方、ヒラズハナアザミウマは10月の発生は平年並であったが、11月に平年より多の発生となったため、病虫害発生予察注意報第5号(R1.11.25)を发出し、防除を呼びかけた。

タバココナジラミは調査開始から平年よりやや多の発生が確認され、その後も高い値を推移したため、病虫害防除情報第7号(R2.1.27)を发出し防除を呼びかけた。しかしながら4月に平年より多い発生となったため、病虫害発生予察注意報第1号(R2.4.27)を发出し、特に次期作へ向けた適切な処理を呼びかけた。

その他虫害については、平年並からやや少の発生であった。

(10) 冬春トマト（栽培期間：令和元年9月～令和2年6月）

灰色かび病は平年並以下の発生を推移し、葉かび病は期間中平年並の発生であったが、すすかび病は期間中の発生が平年より多であった。黄化葉巻病については、11月、12月に平年より多の発生で推移したため、病虫害発生予察注意報第7号(R1.12.24)を发出し、防除の徹底を呼びかけた。

その他病害については、おおむね平年並の発生であった。

タバココナジラミの2月までの発生は100葉当虫数は多、発生面積率は平年よりやや多で推移し、3月以降は100葉虫数についても平年より多の発生が確認された。

その他虫害については平年並の発生であった。

(11) いちご（栽培期間：令和元年9月～令和2年5月）

うどんこ病は栽培期間を通して、平年より少～平年並の発生であった。その他の病害については概ね平年並の発生であった。

ハダニ類は、栽培期間を通して平年並～平年よりやや少の発生であった。

ヒラズハナアザミウマは、11月の巡回調査において発生が確認されたが、その後発生は確認されなかった。

(12) 秋冬だいこん（栽培期間：令和元年9月～元年12月）

萎黄病の発生が確認され、平年より多の発生となった。その他の病害は平年並の発生であった。アブラムシは平年より少、ダイコンハマシは平年よりやや少の発生であり、その他の害虫は概ね平年並の発生であった。

(13) サトイモ（栽培期間：令和2年3月～令和2年9月）

疫病は、前年より一月ほど早い5月20日に現地での発生確認情報があり、病害虫防除情報第4号（R2.5.29）を発出した。7月上旬のまとまった降雨の影響で、7月中下旬に現地での発生が広がったと考えられるが、8月の少雨の影響からその後の病勢進展は緩慢で、巡回調査においては前年より一月ほど遅い8月7日に初発生を確認した。発生面積率は平年並であったが、発生程度は前年、前々年より少なかった。

3) 水稲、かんきつ病害の初発日ならびにウンカ類の初飛来日

(1)水稲、かんきつ病害の初発日

ア. 水稲

(単位：月.日)

種 別	早期水稲			普通期水稲		
	本 年	平 年	前 年	本 年	平 年	前 年
葉いもち	6. 9	5.24	6.13	7.10	7. 1	7. 8
穂いもち	7. 8	7. 8	7.12	9. 8	9. 9	9. 9
紋枯病	6.26	7. 3	6.25	8. 7	8. 4	8. 8
白葉枯病	—	—	—	—	—	—

イ. かんきつ

(単位：月.日)

種 別	春 葉			果 実		
	本 年	平 年	前 年	本 年	平 年	前 年
そうか病	4.17	4.28	4.25	7. 8	6. 2	5.10
黒点病	—	5.20	5.22	7. 8	6.27	6.13
かいよう病	7. 8	5.26	6.10	7. 8	6.25	7. 5

(2)予察灯におけるウンカ類、ツマグロヨコバイ、コブノメイガの初飛来日

(単位：月.日)

項 目	地区名 年次	延 岡			佐土原			国 富			都 城		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
セジロウンカ		6. 4	6.12	6.27	6.15	6.23	7. 2	5.18	6.25	6. 6	6. 7	6.15	6.10
トビイロウンカ		6.27	7. 3	6.27	7. 8	8.11	6.23	6.30	7.10	6.30	6.28	7. 8	6.10
ヒメトビウンカ		7.28	6. 9	5.17	7. 9	7.24	7.17	6.21	7.15	6.12	7.20	6.27	7.11
ツマグロヨコバイ		5.18	5.21	5.12	6.11	6. 3	6.10	5.17	5.17	5.10	5.28	5.27	5.17
コブノメイガ		6.30	7. 9	7.12	—	8.16	8.16	6.21	8. 1	7.17	7.13	7.12	6.15

## 4) 予察灯（白色60W）における水稻害虫の誘殺状況

(1) 延岡

(単位：頭)

月	半月	ツマグロヨコバイ		セジロウンカ		トビイロウンカ		ヒメトビウンカ	
		本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値
4	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	3	0	0	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	0	0	0	0	0	0
	5	0	0	0	0	0	0	0	0
	6	0	0	0	0	0	0	0	0
	計		0	0	0	0	0	0	0
5	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	3	0	0.2	0	0	0	0	0	0
	4	1	2.2	0	0.1	0	0	0	0.2
	5	5	9.7	0	1.1	0	0	0	1.2
	6	7	32.4	0	0.3	0	0.1	0	0.7
	計		13	44.5	0	1.5	0	0.1	0
6	1	60	66.1	4	0.1	0	0	0	0.6
	2	74	64.2	6	10.2	0	0	0	0.3
	3	98	15.2	5	1.4	0	0	0	0.1
	4	17	10.0	1	8.6	0	1.3	0	0.5
	5	7	5.3	1	13.8	0	0.1	0	0.6
	6	2	2.0	25	2.1	7	0.2	0	0.5
	計		258	162.8	42	36.2	7	1.6	0
7	1	0	1.0	7	7.5	16	0.5	0	0.4
	2	1	1.9	31	6.0	24	2.2	0	0.7
	3	1	7.7	8	14.3	25	1.9	0	0.6
	4	0	27.7	2	5.7	4	0.9	0	0.3
	5	5	41.1	0	1.4	7	0.9	0	0.1
	6	9	63.1	7	1.6	1	0.2	1	0.4
	計		16	138.8	55	36.5	77	6.6	1
8	1	5	6.3	8	16.4	8	0.2	1	0.2
	2	3	7.3	0	3.6	6	0.6	0	0.3
	3	4	14.4	2	3.1	11	1.2	4	0.6
	4	2	35.8	7	25.3	9	1.0	0	1.5
	5	2	29.2	122	8.4	20	1.7	4	1.6
	6	0	14.6	87	8.2	123	6.3	9	3.3
	計		10	101.2	226	63.1	177	10.6	18
9	1	0	10.7	0	4.8	1	4.6	6	1.9
	2	2	8.0	1	17.0	89	22.8	2	0.9
	3	5	5.4	9	10.8	442	36.7	3	0.9
	4	1	4.3	2	16.0	68	9.4	0	0.1
	5	3	12.6	10	9.1	204	6.7	8	2.7
	6	1	2.1	3	7.3	12	32.4	1	5.2
	計		12	42.6	25	64.5	816	108.4	20
10	1	0	4.1	0	1.4	19	69.4	0	1.1
	2	0	5.2	2	2.7	142	29.4	0	2.1
	3	0	0.2	0	1.6	196	25.9	0	0.7
	4	0	0.3	0	0.8	4	15.2	0	0.6
	5	0	0	0	0.5	17	10.1	0	0.8
	6	0	0	0	0	1	4.6	0	0.1
	計		0	9.8	2	7.0	379	154.6	0

## (2) 佐土原

(単位：頭)

		ツマグロヨコバイ		セジロウンカ		トビイロウンカ		ヒメトビウンカ	
月	半旬	本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値
4	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	3	0	0	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	0	0	0	0	0	0
	5	0	0	0	0	0	0	0	0
	6	0	0	0	0	0	0	0	0
	計		0	0	0	0	0	0	0
5	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	3	0	0.4	0	0	0	0	0	0
	4	0	0.4	0	0	0	0	0	0
	5	0	0.2	0	0.1	0	0	0	0
	6	0	1.6	0	0.2	0	0	0	0
	計		0	2.6	0	0.3	0	0	0
6	1	0	0.7	0	0.0	0	0	0	0
	2	0	1.7	0	0.5	0	0	0	0.2
	3	1	1.1	1	0.1	0	0	0	0.2
	4	4	3.0	5	1.7	0	0	0	0.2
	5	3	1.5	0	1.0	0	0.5	0	0
	6	0	1.5	0	4.3	0	0	0	0
	計		8	9.4	6	7.6	0	0.5	0
7	1	3	1.4	11	3.7	0	0.1	0	0.3
	2	1	3.1	25	3.8	3	0	2	0.1
	3	4	7.6	0	0.8	0	0.8	0	0.2
	4	1	16.2	1	0.4	18	0.3	0	0.1
	5	8	14.9	0	0.3	0	0	1	0
	6	19	23.2	2	0.2	9	0.3	1	0
	計		36	64.8	39	9.2	30	1.5	4
8	1	5	20.6	0	1.0	1	0	0	0.2
	2	6	12.8	0	0.2	1	0	0	0
	3	5	17.0	0	0.3	0	0	0	0
	4	9	46.2	28	1.2	0	0.4	0	0.1
	5	2	5.2	18	9.3	1	3.3	3	0.5
	6	0	41.5	1	4.7	0	0.9	0	0
	計		27	143.3	47	16.7	3	4.6	3
9	1	1	10.7	10	1.2	14	1.2	4	0
	2	1	5.2	12	1.5	16	0.4	2	0.2
	3	3	6.4	7	6.2	44	4.9	0	0.2
	4	1	4.6	4	1.6	35	2.4	5	0.1
	5	0	4.9	13	1.3	15	2.2	0	0
	6	0	1.0	1	1.4	2	1.0	0	0.4
	計		6	32.7	47	13.1	126	12.1	11
10	1	1	0.4	3	0.8	4	2.8	0	0
	2	1	0.3	0	0.5	13	4.4	0	0
	3	0	0.2	1	0.0	28	1.4	1	0
	4	0	0	0	0.1	1	0.1	0	0
	5	0	0	3	0.3	2	1.0	0	0
	6	0	0.1	0	0.1	1	0.2	0	0
	計		2	1.0	7	1.8	49	9.9	1

## (3) 国富

(単位：頭)

		ツマグロヨコバイ		セジロウンカ		トビイロウンカ		ヒメトビウンカ	
月	半旬	本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値
4	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	3	0	0	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	0	0	0	0	0	0
	5	0	0	0	0	0	0	0	0
	6	0	0	0	0	0	0	0	0
	計		0	0	0	0	0	0	0
5	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0.1	0	0	0	0	0	0
	3	0	0.4	0	0	0	0	0	0
	4	2	2.6	1	0	0	0	0	0
	5	10	8.8	0	0.2	0	0	0	0.2
	6	4	40.2	0	0	0	0	0	0
	計		16	52.1	1	0.2	0	0	0
6	1	4	21.1	0	0	0	0	0	0
	2	6	65.4	0	2.2	0	0	0	0.1
	3	5	36.0	1	0.3	0	0	0	0.1
	4	1	31.3	1	6.2	0	0.6	0	0.3
	5	0	19.6	0	27.4	0	0	3	0.2
	6	2	4.4	1	2.7	1	0.1	0	0.2
	計		18	172.3	2	32.7	1	0.6	3
7	1	2	5.1	42	16.7	47	0.7	0	0.2
	2	0	8.3	33	7.0	40	0.4	1	1.1
	3	0	8.7	2	3.2	4	1.8	0	0.6
	4	0	8.9	0	1.6	1	0.2	0	0.2
	5	3	16.5	5	2.2	5	0.2	1	0.7
	6	5	20.3	11	2.1	3	0.8	3	1.2
	計		10	61.7	93	30.8	100	3.8	5
8	1	5	13.4	1	1.5	3	0.4	0	0.5
	2	6	20.4	1	1.8	2	0.4	1	0.5
	3	13	35.3	0	2.5	2	1.4	0	0.4
	4	9	26.8	1	0.6	1	1.0	1	0.3
	5	2	15.6	1	0.6	12	3.5	0	0.5
	6	3	14.4	5	9.5	15	11.7	0	1.6
	計		38	125.9	9	16.5	35	18.3	2
9	1	1	4.8	1	6.8	0	11.2	0	0.3
	2	0	4.3	1	3.5	6	9.0	0	0.6
	3	0	3.2	2	4.3	30	16.1	0	1.1
	4	0	2.3	2	2.1	35	3.7	0	0.8
	5	2	1.3	0	3.7	16	3.0	0	1.2
	6	0	0.8	0	1.8	1	13.9	0	0.1
	計		3	14.8	6	23.1	88	60.9	0
10	1	1	0.9	1	1.3	6	28.9	0	0.6
	2	0	0.6	0	1.2	29	14.0	0	0.2
	3	0	0.2	0	0.1	30	21.8	2	0.3
	4	0	0	0	0.3	1	27.4	0	0
	5	0	0	0	0.7	2	13.1	0	0
	6	0	0	0	0.3	0	5.8	0	0
	計		1	1.7	1	4.0	68	111.0	2

※「-」は欠測、( )は欠測期間を除く頭数



## (4) 都城

(単位：頭)

		ツマグロヨコバイ		セジロウンカ		トビイロウンカ		ヒメトビウンカ	
月	半旬	本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値
4	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0.1	0	0	0	0	0	0
	3	0	0	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	0	0	0	0	0	0
	5	0	0	0	0	0	0	0	0
	6	0	0	0	0	0	0	0	0
	計		0	0.1	0	0	0	0	0
5	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0.1	0	0	0	0	0	0.1
	3	0	0.1	0	0	0	0.1	0	0.1
	4	0	0.7	0	0	0	0	0	0.1
	5	0	0.9	0	0	0	0	0	0
	6	15	11.6	0	0.2	0	0	0	0
	計		15	13.4	0	0.2	0	0.1	0
6	1	79	10.1	0	0.2	0	0	0	0
	2	38	30.6	1	14.3	0	0.1	0	0
	3	2	25.6	1	3.9	0	0	0	0
	4	1	8.4	25	18.4	0	0.1	0	0
	5	2	3.3	1	50.1	0	0.6	0	0
	6	0	7.9	15	11.9	3	1.1	0	0.7
	計		122	85.9	43	98.8	3	1.9	0
7	1	2	3.1	306	463.0	359	3.5	0	0.1
	2	2	4.2	668	9.9	119	0.6	0	0.2
	3	6	13.9	90	20.8	23	2.8	0	0.2
	4	11	29.3	37	4.2	4	0.4	1	0.3
	5	2	84.6	200	1.9	3	0.1	1	0.9
	6	20	134.5	101	8.7	7	1.3	8	2.3
	計		43	269.6	1402	508.5	515	8.7	10
8	1	8	69.5	15	10.8	10	0.9	0	1.1
	2	11	72.1	7	5.7	2	2.9	0	0.3
	3	63	90.6	3	10.0	7	2.7	0	0.9
	4	213	105.1	6	9.8	6	1.6	0	0.4
	5	34	111.3	6	5.9	1	1.7	1	1.0
	6	30	99.4	13	17.4	98	5.7	19	1.3
	計		359	531.7	50	54.9	124	14.5	20
9	1	0	62.3	3	10.9	11	13.5	0	1.0
	2	4	47.2	9	11.0	22	34.5	0	0.8
	3	22	10.7	20	5.7	344	9.2	3	0.4
	4	63	12.5	0	5.7	96	9.9	1	1.2
	5	26	8.7	1	8.4	20	19.6	0	0.5
	6	15	9.9	1	3.4	24	27.6	0	0.0
	計		130	150.3	34	44.8	517	111.5	4
10	1	9	24.3	0	2.1	27	84.4	0	1.6
	2	6	5.7	0	3.0	38	114.0	0	0.8
	3	3	2.5	1	0.7	148	43.7	0	0.3
	4	0	2.1	0	1.4	4	102.3	0	0.2
	5	0	0.1	1	0.6	8	66.4	1	0.5
	6	0	0.3	0	1.0	1	34.8	0	0
	計		18	35.0	2	8.8	226	445.6	1

※「-」は欠測、( )は欠測期間を除く頭数

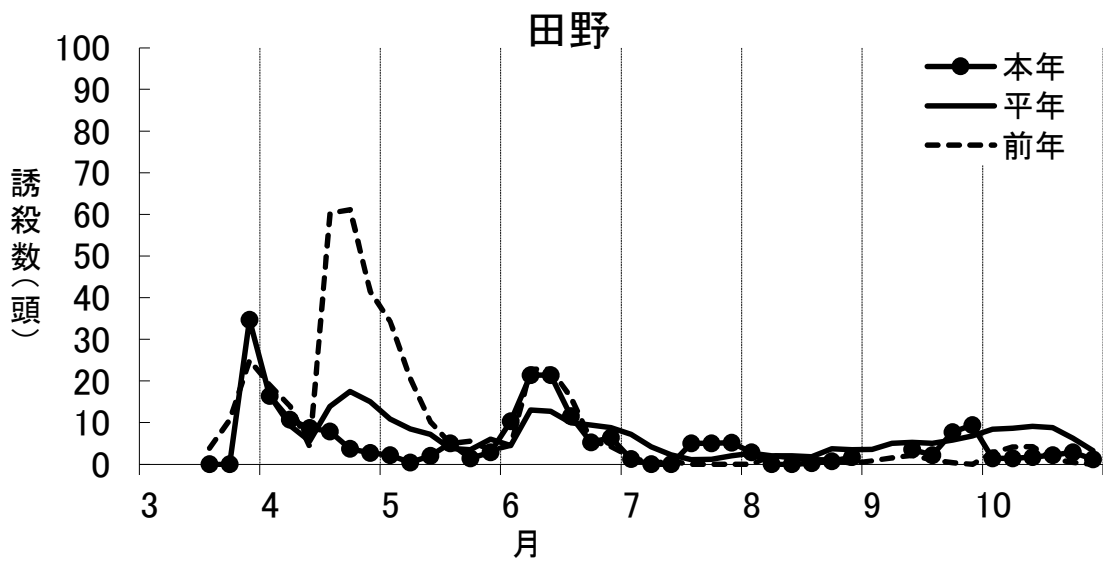
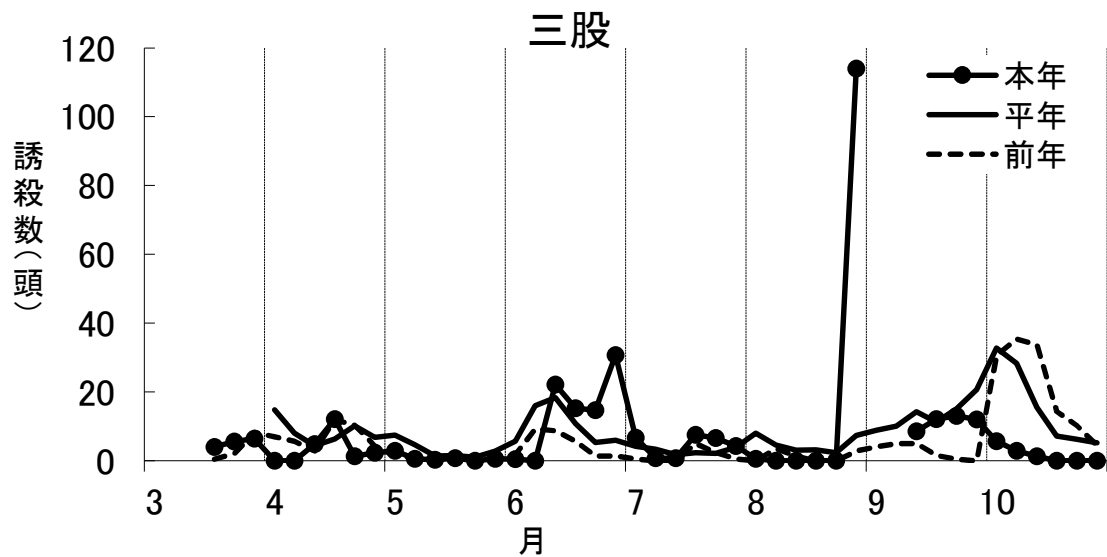
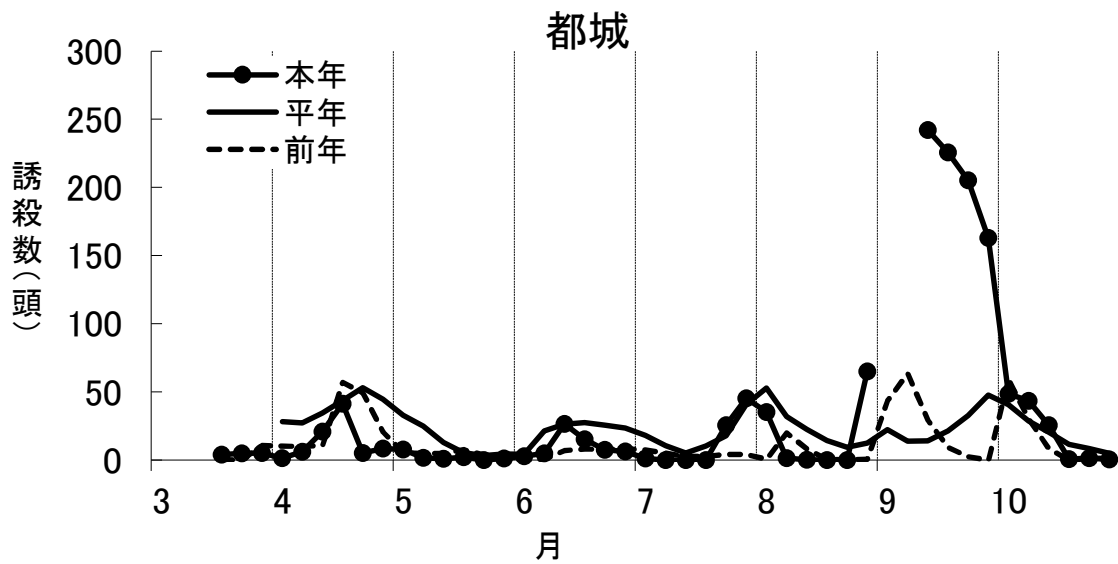
5) フェロモントラップによる誘殺状況

(1) チャハマキの誘殺状況

(単位:頭)

月	半旬	都 城			三 股			田 野		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
3	1									
	2									
	3									
	4	4		1	4		0			4
	5	5		0	6		2			11
	6	5		11	6		8	35		25
4	1	1	28	10	0	15	7	16	17	19
	2	6	27	10	0	8	6	11	9	14
	3	21	35	11	5	4	3	9	6	4
	4	41	44	57	12	6	12	8	14	60
	5	5	53	49	1	10	10	4	18	61
	6	8	45	21	2	7	4	3	15	41
5	1	8	33	6	3	7	1	2	11	34
	2	2	25	5	1	5	1	0	8	21
	3	1	13	5	0	1	1	2	7	10
	4	2	5	8	1	2	0	5	4	5
	5	0	3	4	0	1	0	1	3	6
	6	1	4	2	1	3	0	3	6	3
6	1	3	4	0	0	6	2	10	4	5
	2	5	21	1	0	16	9	21	13	23
	3	26	26	7	22	18	9	21	13	23
	4	15	27	8	15	11	6	12	10	16
	5	8	26	8	15	5	1	5	9	6
	6	6	23	9	31	6	1	6	9	4
7	1	1	18	7	7	4	1	1	7	2
	2	0	11	5	1	3	0	0	4	0
	3	0	5	3	1	2	0	0	2	1
	4	0	10	3	8	2	5	5	1	0
	5	26	18	4	7	2	2	5	1	0
	6	45	41	4	4	4	1	5	2	0
8	1	35	53	1	1	8	0	3	3	0
	2	1	32	20	0	5	4	0	2	2
	3	0	22	8	0	3	1	0	2	2
	4	0	14	0	0	3	0	0	2	1
	5	0	9	0	0	2	0	1	4	1
	6	65	13	1	114	7	3	2	3	0
9	1	—	22	44	—	9	4	—	4	1
	2	—	14	64	—	10	5	—	5	2
	3	242	14	29	9	14	5	4	5	2
	4	226	21	9	12	11	2	2	5	1
	5	205	33	3	13	15	0	8	6	0
	6	163	48	0	12	21	0	9	7	0
10	1	49	41	59	6	33	31	1	8	3
	2	43	29	30	3	28	35	1	9	4
	3	26	20	9	1	16	34	2	9	4
	4	1	11	0	0	7	14	2	9	1
	5	1	8	2	0	6	10	3	6	1
	6	1	5	2	0	5	5	1	3	0

※「—」は欠測



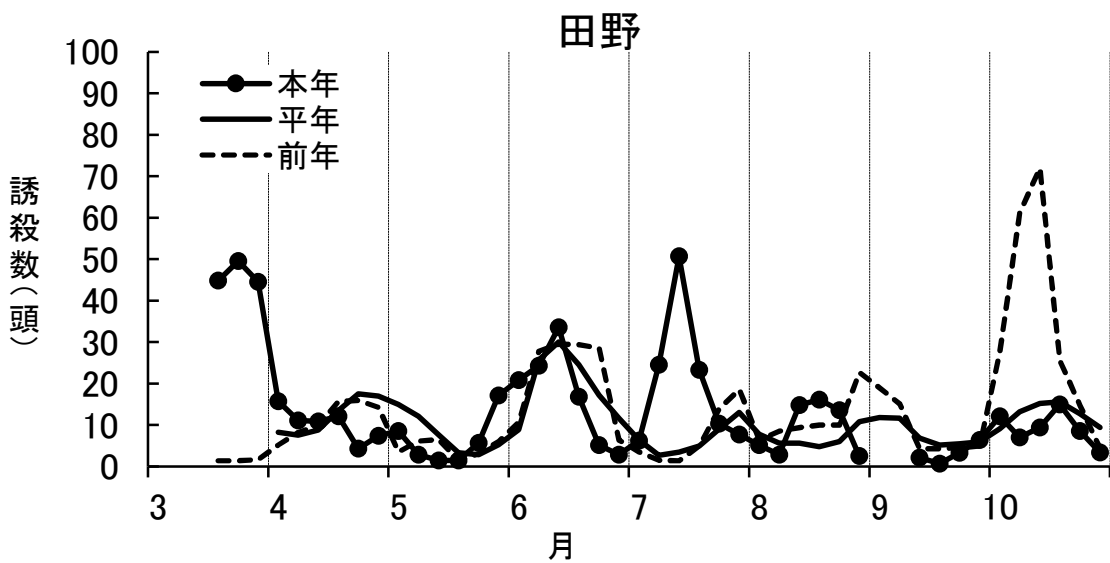
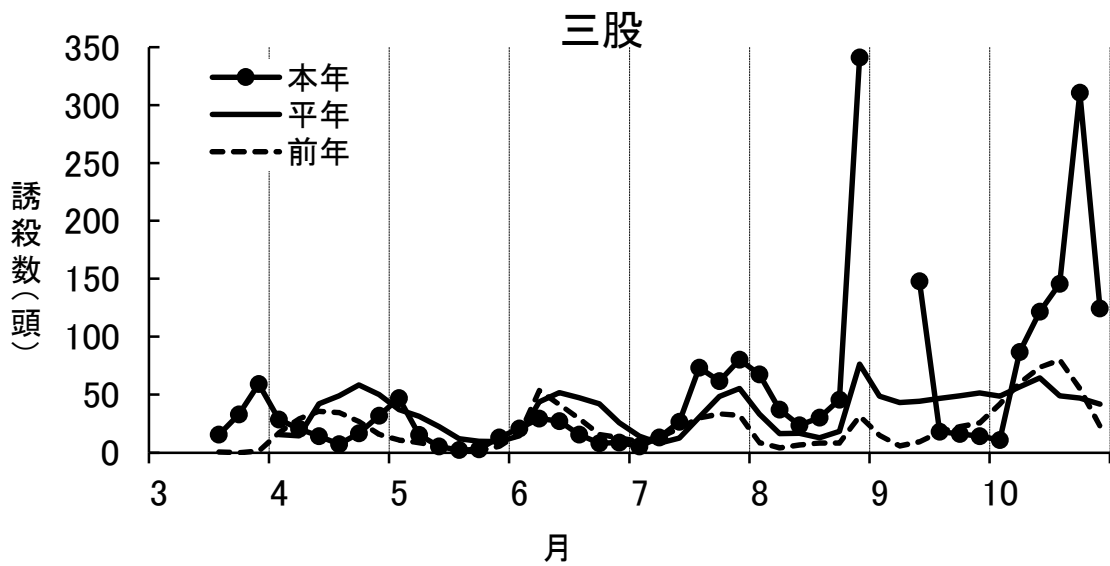
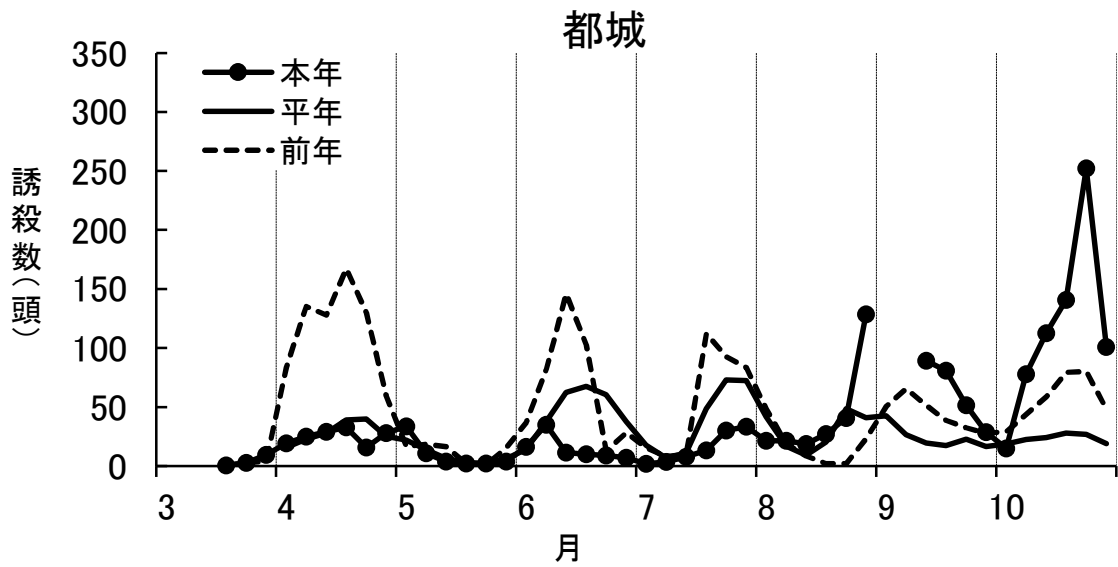
チャハマキのフェロモントラップ誘殺状況(2020年)

## (2) チャノコカクモンハマキの誘殺状況

(単位:頭)

月	半旬	都 城			三 股			田 野		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
3	1									
	2									
	3									
	4	1		1	16		1	45		1
	5	3		3	33		0	50		1
	6	10		4	59		1	45		2
4	1	19	16	84	29	15	17	16	8	5
	2	25	23	135	21	14	29	11	8	8
	3	29	28	128	14	42	36	11	9	10
	4	33	39	167	7	49	35	12	13	16
	5	16	40	130	17	58	27	4	18	16
	6	28	25	59	32	50	16	7	17	14
5	1	34	22	16	47	37	11	9	15	4
	2	11	14	19	15	31	9	3	12	6
	3	4	6	16	5	23	6	1	8	7
	4	2	3	2	2	12	0	1	3	1
	5	2	2	1	3	10	2	6	3	3
	6	4	6	16	13	9	6	17	5	6
6	1	16	14	37	21	14	16	21	9	11
	2	35	38	82	29	44	54	24	26	28
	3	11	62	146	27	52	42	34	30	30
	4	10	68	102	16	47	29	17	25	29
	5	9	61	13	8	42	16	5	17	29
	6	7	38	29	9	26	13	3	12	6
7	1	2	18	15	5	14	10	6	6	4
	2	4	7	8	13	8	13	25	3	2
	3	8	11	10	26	12	21	51	4	1
	4	13	49	112	73	30	30	23	5	5
	5	30	73	93	62	48	33	10	9	14
	6	33	72	83	80	55	32	8	13	19
8	1	21	42	49	67	33	9	5	8	6
	2	21	17	19	37	16	4	3	6	9
	3	19	9	9	23	16	7	15	6	9
	4	27	20	2	30	13	8	16	5	10
	5	41	48	2	46	18	8	14	6	10
	6	129	41	23	341	77	32	3	11	23
9	1	—	43	51	—	49	15	—	12	19
	2	—	26	66	—	43	6	—	12	15
	3	89	20	51	148	44	9	2	7	4
	4	81	17	39	18	47	18	1	5	4
	5	52	23	33	16	49	22	3	5	5
	6	29	17	28	14	51	26	6	6	5
10	1	15	19	29	11	49	42	12	9	28
	2	78	22	44	87	57	60	7	13	61
	3	112	24	59	122	64	74	9	15	72
	4	141	28	79	146	49	80	15	16	26
	5	252	27	80	311	47	55	9	13	15
	6	101	19	49	124	42	23	3	9	5

※「—」は欠測



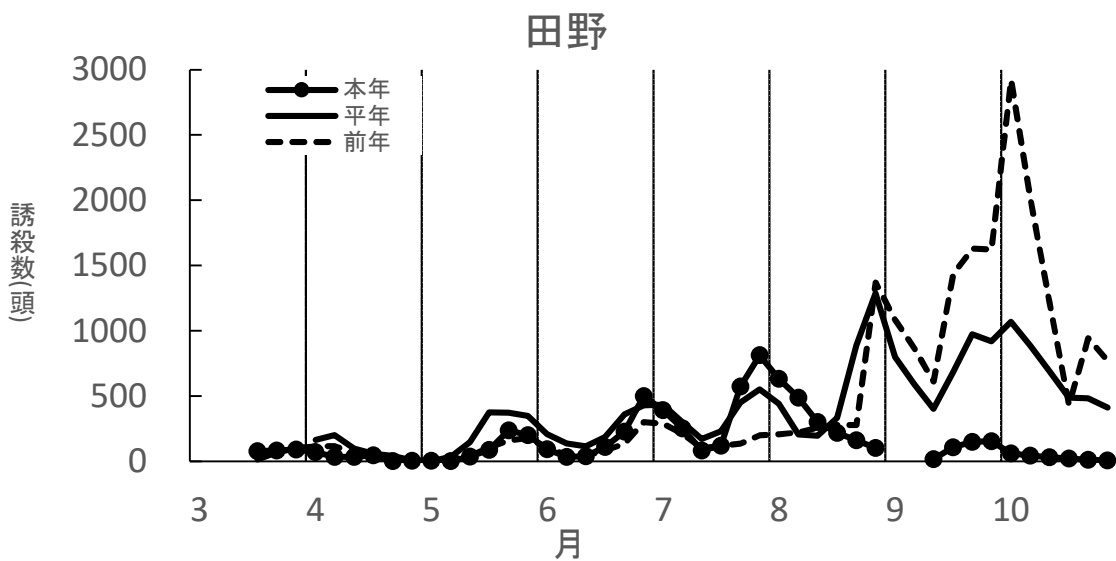
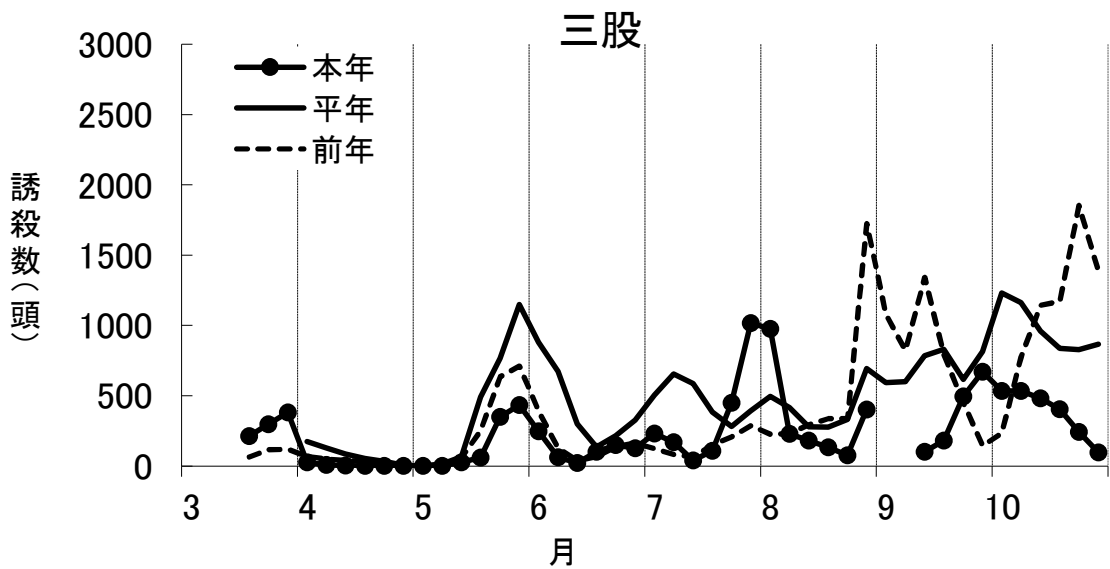
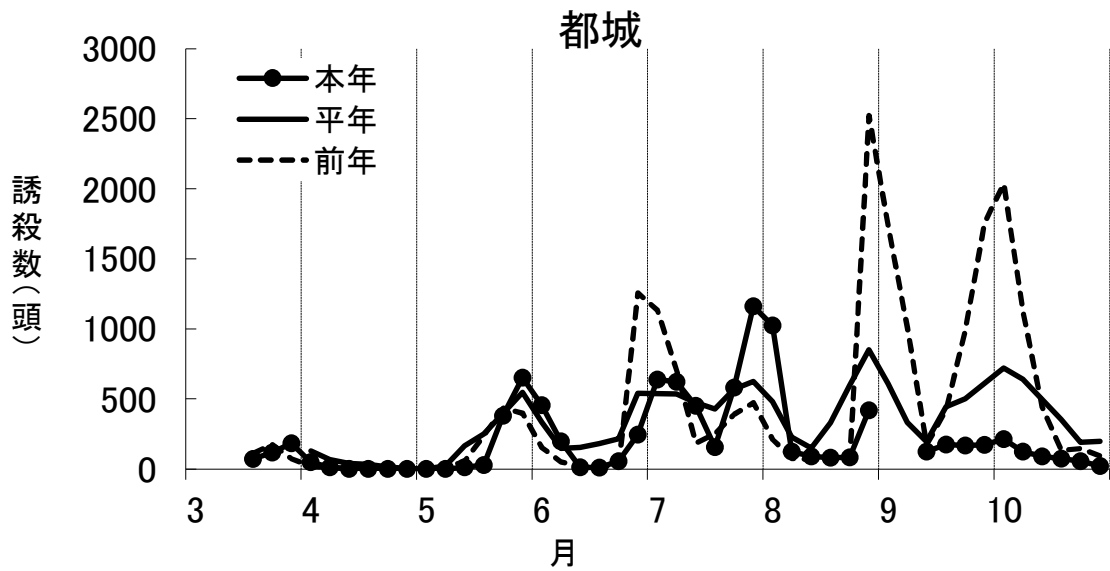
チャノコカクモンハマキのフェロモントラップ誘殺状況(2020年)

## (3) チャノホソガの誘殺状況

(単位:頭)

月	半旬	都 城			三 股			田 野		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
3	1									
	2									
	3									
	4	72		112	213		64	77		14
	5	117		173	297		116	81		66
	6	183		72	380		118	90		103
4	1	49	128	22	25	173	69	71	164	115
	2	11	67	10	8	128	50	34	200	117
	3	1	40	5	2	84	39	34	96	60
	4	1	32	10	0	53	32	46	57	51
	5	0	13	7	0	32	19	1	41	31
	6	0	2	0	0	4	1	3	5	4
5	1	0	2	0	0	2	0	4	3	1
	2	0	22	7	1	15	5	1	33	15
	3	11	164	57	24	65	57	35	145	41
	4	29	249	237	60	489	252	86	374	106
	5	379	397	435	348	766	636	237	372	161
	6	652	547	397	434	1,149	712	201	348	177
6	1	454	335	153	245	879	389	93	206	106
	2	196	148	51	61	672	126	34	135	48
	3	11	152	23	21	300	40	39	114	46
	4	9	181	20	100	135	65	110	186	81
	5	55	214	26	148	215	136	226	358	136
	6	244	541	1,257	126	326	165	499	428	299
7	1	639	538	1,133	230	503	123	391	434	288
	2	622	536	704	169	654	82	251	299	209
	3	450	474	184	39	585	64	82	170	102
	4	157	429	251	108	383	151	120	230	119
	5	580	570	392	448	282	208	573	449	136
	6	1,161	625	473	1,016	391	287	812	551	200
8	1	1,025	481	211	974	494	226	631	440	206
	2	123	226	76	228	416	230	488	204	222
	3	89	149	70	181	277	295	301	194	256
	4	81	330	66	132	276	338	217	332	279
	5	81	597	66	76	330	338	160	886	279
	6	418	853	2,524	400	693	1,725	101	1,287	1,370
9	1	—	609	1,734	—	591	1,079	—	798	1,083
	2	—	333	1,008	—	598	823	—	590	865
	3	124	194	175	101	783	1,343	16	401	611
	4	175	443	422	179	829	791	106	681	1,431
	5	167	500	993	494	615	449	149	971	1,630
	6	172	611	1,757	670	812	143	154	919	1,621
10	1	212	720	2,036	534	1,231	235	60	1,069	2,921
	2	123	640	1,125	534	1,162	775	42	886	2,017
	3	90	496	441	481	959	1,143	31	691	1,218
	4	73	352	133	403	835	1,172	21	486	432
	5	54	190	147	242	827	1,854	12	481	943
	6	22	196	94	97	867	1,385	5	410	770

※「—」は欠測



チャノホソガのフェロモントラップ誘殺状況(2020年)

## (4) ハスモンヨトウ (雄成虫) の誘殺状況

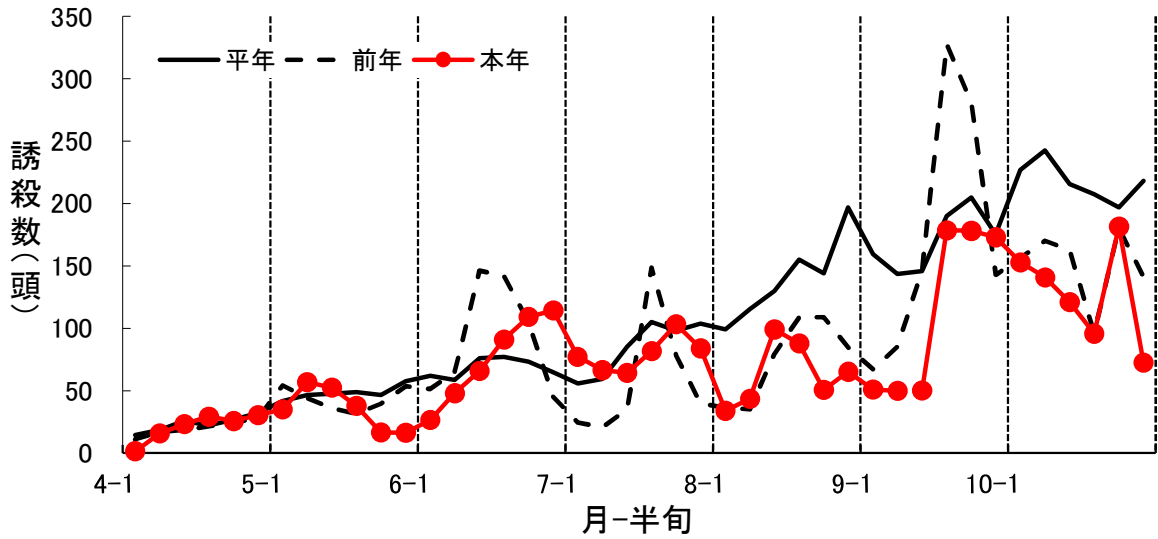
(単位:頭)

月	半旬	国富町 (岩知野)			都城市 (母智丘)			西都市 (茶臼原)		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
4	1	1.4	14.5	11.0	0.7	4.0	3.0	18.6	22.2	25.9
	2	15.7	18.4	16.9	0.1	7.4	3.7	13.4	36.5	33.1
	3	23.3	25.7	18.6	1.1	11.3	4.3	22.4	43.3	25.7
	4	29.3	22.0	21.4	2.9	8.4	6.0	37.9	35.7	26.9
	5	25.6	26.8	24.4	0.0	9.6	10.4	18.6	34.2	40.6
	6	30.4	32.2	27.9	1.4	9.0	16.4	34.1	45.7	60.7
5	1	35.0	41.7	54.3	7.1	20.4	12.1	73.6	74.1	81.4
	2	56.7	46.6	44.0	22.6	33.6	17.7	133.0	102.3	75.0
	3	52.4	47.5	36.0	21.9	47.0	24.6	121.9	107.9	79.1
	4	37.9	48.9	31.4	15.0	53.0	37.1	82.9	115.0	112.9
	5	16.4	46.6	39.4	19.3	49.7	29.1	35.7	92.0	99.7
	6	16.3	57.5	53.6	28.9	61.1	36.0	41.1	100.4	82.7
6	1	26.4	61.8	51.3	47.3	75.7	56.3	45.9	102.5	61.4
	2	47.9	58.4	65.0	78.6	90.2	150.0	64.3	112.8	141.4
	3	65.7	76.0	146.1	95.7	91.1	168.3	102.1	144.1	298.6
	4	91.0	77.0	141.9	187.9	88.5	138.6	161.7	131.3	252.1
	5	109.1	73.2	105.0	249.0	83.7	87.1	213.1	118.7	123.6
	6	114.3	64.7	45.0	247.9	87.1	106.4	260.0	119.0	191.4
7	1	77.1	55.7	24.5	115.0	98.7	89.6	185.7	96.0	106.1
	2	66.4	59.3	20.5	81.8	83.4	58.1	128.0	69.0	44.6
	3	64.3	85.2	35.0	81.8	69.4	27.9	69.3	73.4	37.9
	4	81.7	105.1	148.6	63.3	83.9	195.0	88.3	92.9	240.0
	5	103.2	97.9	78.3	129.2	79.5	171.9	185.1	80.3	135.4
	6	84.0	103.9	39.8	110.6	92.6	154.1	139.7	107.1	75.9
8	1	33.9	99.0	36.3	39.0	83.9	64.8	26.4	114.2	66.8
	2	43.6	115.3	35.0	40.7	89.8	33.8	37.9	119.3	100.6
	3	99.0	129.9	79.4	55.6	98.9	106.9	28.7	123.2	135.8
	4	88.0	155.2	108.9	63.3	129.5	155.7	63.6	165.9	159.3
	5	50.7	143.9	108.9	69.3	155.6	155.7	119.3	170.3	159.3
	6	65.1	196.8	84.6	120.9	230.4	271.9	183.4	236.0	245.4
9	1	50.9	159.3	67.1	83.9	196.1	196.1	178.6	216.8	147.6
	2	50.0	143.4	85.3	79.6	179.3	160.3	185.0	223.4	145.7
	3	50.0	145.6	146.4	79.6	188.0	135.7	185.0	228.2	314.3
	4	178.6	189.9	327.6	270.7	205.7	328.3	475.0	278.4	329.7
	5	178.1	204.9	280.9	209.4	230.1	308.4	363.6	343.3	346.7
	6	172.9	175.4	142.9	166.1	205.8	206.4	315.0	354.9	366.4
10	1	152.9	227.0	156.4	156.4	203.6	255.7	417.9	405.1	412.9
	2	140.9	242.4	170.1	178.7	165.8	172.6	322.4	369.5	419.3
	3	121.0	215.5	162.7	172.3	154.6	120.6	260.3	348.7	391.4
	4	95.7	207.3	96.3	154.3	154.8	134.4	202.9	325.9	262.5
	5	181.4	196.9	180.0	100.7	156.3	265.3	202.9	378.1	503.5
	6	72.6	218.1	141.5	40.3	122.8	211.5	81.1	416.2	398.5

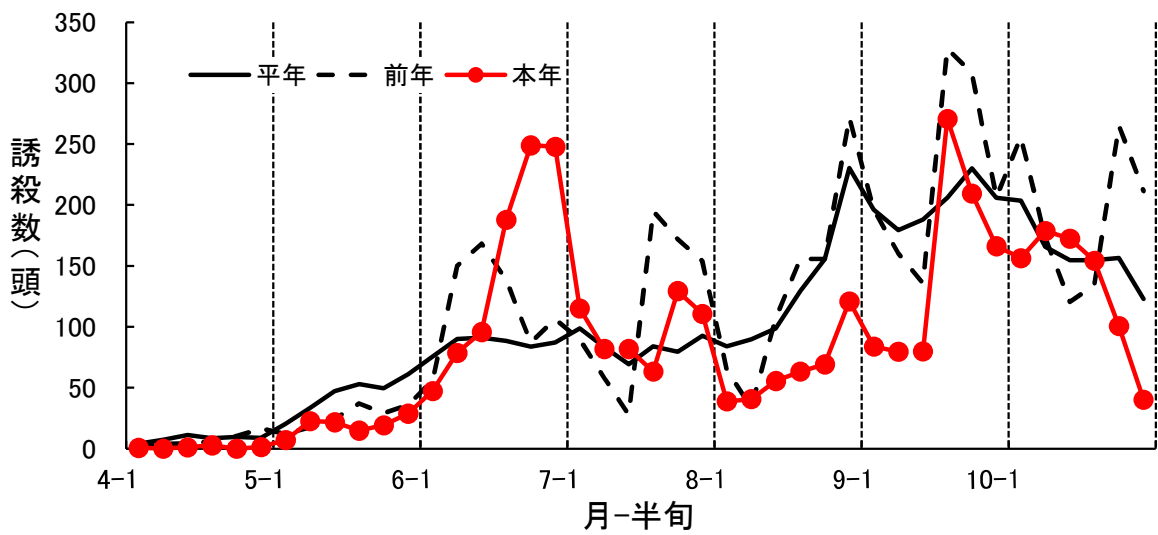
※ 「-」は欠測



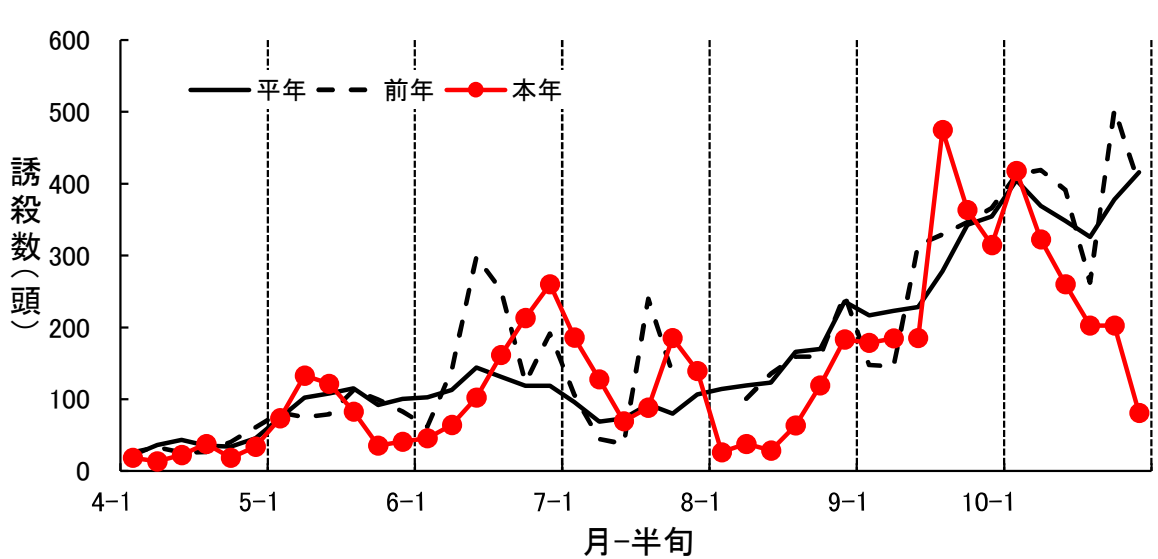
### 国富町(岩知野)



### 都城市(母智丘)



### 西都市(茶臼原)



ハスモンヨトウのフェロモントラップ誘殺状況 (2020年)

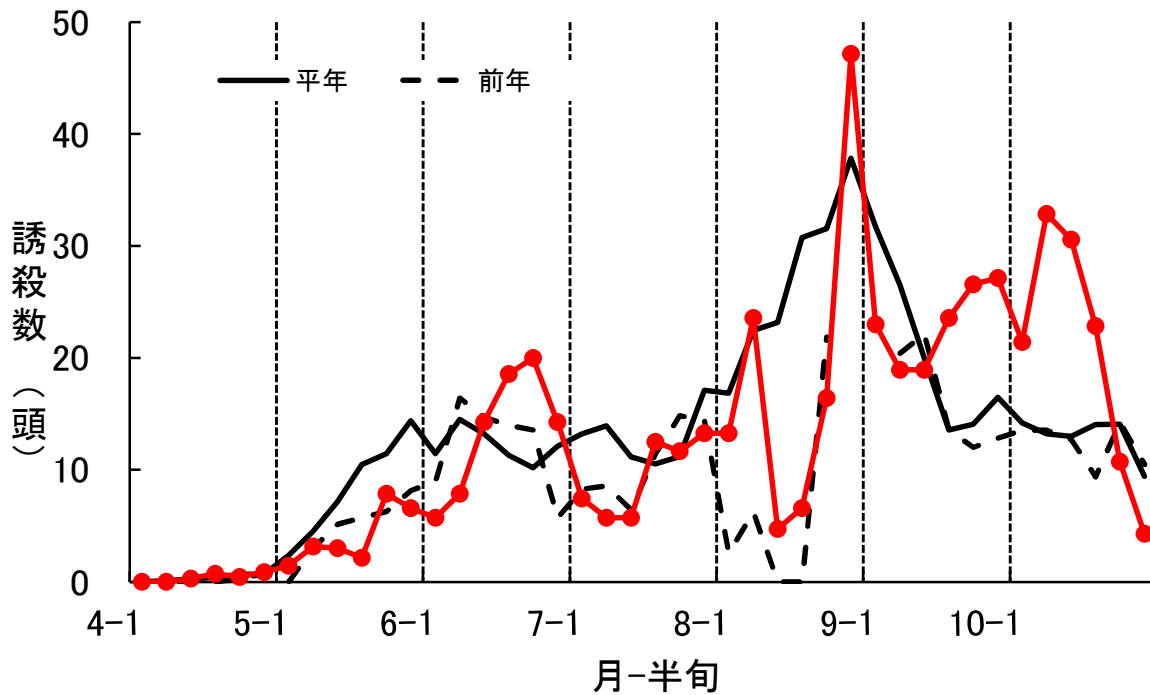
## (5) タバコガ・オオタバコガ (雄成虫) の誘殺状況

(単位:頭)

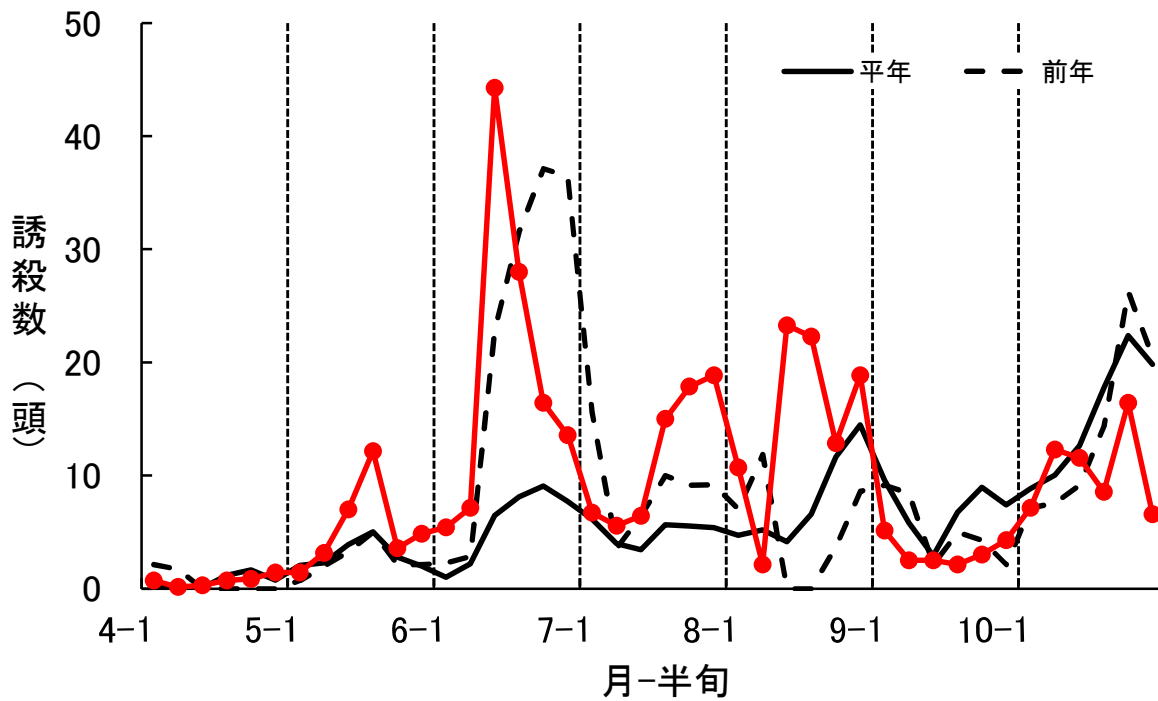
月	半旬	タバコガ			オオタバコガ		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年
4	1	0	0	0	1	0	2
	2	0	0	0	0	0	2
	3	0	0	0	0	0	0
	4	1	0	0	1	1	0
	5	0	1	0	1	2	0
	6	1	1	1	1	1	0
5	1	1	2	0	1	2	1
	2	3	5	3	3	2	2
	3	3	7	5	7	4	3
	4	2	10	6	12	5	5
	5	8	11	6	4	3	2
	6	7	14	8	5	2	2
6	1	6	11	9	5	1	2
	2	8	15	16	7	2	3
	3	14	13	15	44	6	23
	4	19	11	14	28	8	32
	5	20	10	14	16	9	37
	6	14	12	6	14	8	36
7	1	7	13	8	7	6	16
	2	6	14	9	6	4	4
	3	6	11	6	6	3	6
	4	13	11	11	15	6	10
	5	12	11	15	18	6	9
	6	13	17	14	19	5	9
8	1	13	17	3	11	5	7
	2	24	22	6	2	5	12
	3	5	23	-	23	4	-
	4	7	31	-	22	7	-
	5	16	32	22	13	12	4
	6	47	38	36	19	14	9
9	1	23	32	25	5	10	9
	2	19	27	20	3	6	8
	3	19	20	22	3	3	2
	4	24	14	14	2	7	5
	5	27	14	12	3	9	4
	6	27	16	13	4	7	2
10	1	21	14	14	7	9	7
	2	33	13	14	12	10	8
	3	31	13	13	12	13	9
	4	23	14	9	9	18	14
	5	11	14	14	16	22	26
	6	4	9	11	7	20	21

※ 「-」は欠測  
フェロモントラップ設置地点: 西都市茶臼原

西都市(茶臼原)のタバコガ誘殺数



西都市(茶臼原)のオオタバコガ誘殺数



タバコガ、オオタバコガのフェロモントラップ誘殺状況 (2020年)

## (6) コブノメイガの誘殺状況

(単位：頭)

	6 月			7 月			8 月		
	都城	えびの	佐土原	都城	えびの	佐土原	都城	えびの	佐土原
1	0	0	0	0	0	1	4	5	34
2	0	0	0	0	0	0	13	4	0
3	0	0	0	0	0	0	1	7	6
4	0	0	0	0	0	0	3	4	14
5	0	0	0	0	0	3	1	3	10
半旬計	0	0	0	0	0	4	22	23	64
6	0	0	0	0	0	2	3	0	2
7	0	0	0	0	0	1	2	0	0
8	0	0	0	0	0	0	8	0	17
9	0	0	0	0	0	0	0	5	0
10	0	0	0	0	0	0	12	1	0
半旬計	0	0	0	0	0	3	25	6	19
11	1	0	0	0	0	2	1	0	2
12	0	0	0	0	0	0	1	0	7
13	0	0	0	0	0	2	0	0	7
14	0	0	0	0	0	5	1	1	0
15	0	0	1	0	0	0	6	5	0
半旬計	1	0	1	0	0	9	9	6	16
16	0	2	0	0	0	8	3	7	17
17	0	0	1	0	3	0	1	3	12
18	0	0	0	0	0	5	2	4	0
19	0	1	0	0	1	0	2	8	50
20	0	0	0	0	1	1	3	4	18
半旬計	0	3	1	0	5	14	11	26	97
21	0	0	1	0	1	1	/	/	0
22	0	0	0	0	0	0	/	/	0
23	0	0	1	0	0	0	/	/	52
24	0	0	0	0	0	0	/	/	28
25	0	0	0	0	1	0	/	/	0
半旬計	0	0	2	0	2	1	/	/	80
26	0	0	0	0	0	0	/	/	10
27	0	0	0	4	3	0	/	/	11
28	0	0	0	12	0	1	/	/	0
29	0	0	5	8	1	6	/	/	0
30	0	0	5	3	1	4	/	/	12
31	/	/	/	6	0	0	/	/	8
半旬計	0	0	10	33	5	11	/	/	41
月計	1	3	14	33	12	42	67	61	317

6)果樹カメムシ類の誘殺状況

(1)予察灯における誘殺状況

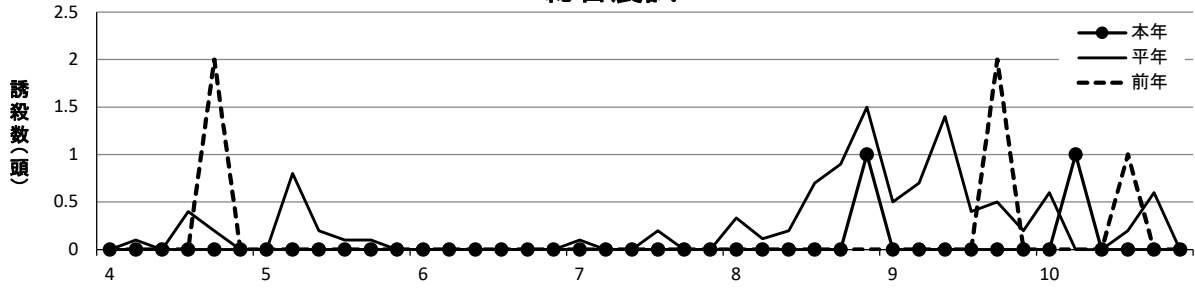
①チャバネアオカメムシの誘殺状況

(単位:頭)

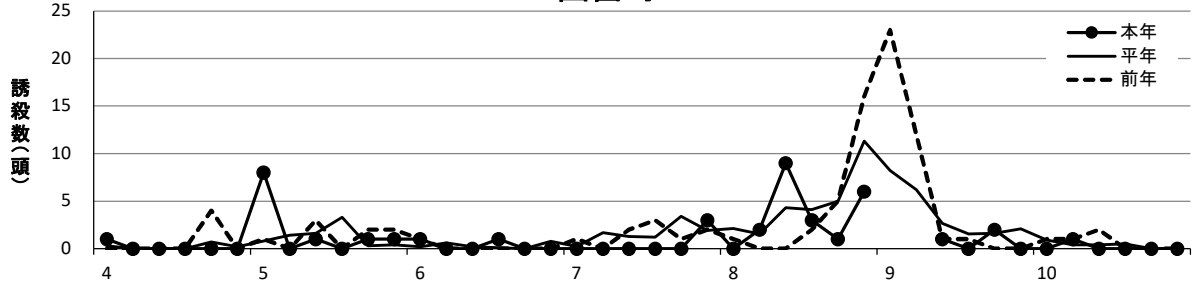
月	半旬	総合農試			国富			延岡			都城			日南		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
4	1	0	0	0	1	0.3	0	0	0.2	0	0	0	0	0	1.1	0
	2	0	0.1	0	0	0	0	0	0.1	0	0	0	0	0	0	0
	3	0	0	0	0	0	0	0	0.3	0	0	0	0	0	0	0
	4	0	0.4	0	0	0	0	0	0.5	0	0	0.1	0	0	0.3	0
	5	0	0.2	2	0	0.7	4	0	0.2	1	0	0.2	0	0	0	0
	6	0	0	0	0	0.2	0	0	0.3	0	0	0	0	0	0	0
5	1	0	0	0	8	0.8	1	0	2.2	0	2	0.2	0	0	0.6	0
	2	0	0.8	0	0	1.4	0	0	2.4	0	2	0.2	0	1	0.8	1
	3	0	0.2	0	1	1.6	3	0	4.1	1	0	0.3	0	1	0.2	0
	4	0	0.1	0	0	3.3	0	0	7.6	1	2	1.7	1	0	0.1	1
	5	0	0.1	0	1	0.3	2	0	1.8	0	1	0.3	0	0	0.1	1
	6	0	0	0	1	0.4	2	0	0.7	0	1	0	0	0	0.2	1
6	1	0	0	0	1	0.2	1	0	0.4	0	1	0	0	2	0.1	0
	2	0	0	0	0	0.6	0	0	0.7	3	3	0.2	0	0	0.1	0
	3	0	0	0	0	0	0	0	0.9	0	0	0.4	0	2	0.4	0
	4	0	0	0	1	0	0	0	0.3	0	3	0.3	0	0	2.6	0
	5	0	0	0	0	0	0	0	0.9	0	0	0.6	0	1	1.8	0
	6	0	0	0	0	1	0	0	1.4	2	2	0.4	0	4	4.1	7
7	1	0	0.1	0	0	0	1	0	2.3	1	2	0.5	0	3	2.5	2
	2	0	0	0	0	1.7	0	0	6.3	4	0	14.0	0	0	3.7	1
	3	0	0	0	0	1.3	2	0	14.1	2	1	1.2	0	7	5.7	0
	4	0	0.2	0	0	1.2	3	0	5	7	3	0.8	1	0	4.7	1
	5	0	0	0	0	3.4	1	0	7.4	7	2	1.3	0	1	4.5	0
	6	0	0	0	3	1.9	2	0	5.5	2	0	0.4	0	2	7.7	2
8	1	0	0.3	0	0	2.1	1	0	1.7	1	0	0.8	0	3	4.8	1
	2	0	0.1	0	2	1.6	0	5	3.6	0	2	1.6	2	6	11.8	3
	3	0	0.2	0	9	4.3	0	3	8.6	1	2	2.6	1	12	22.5	2
	4	0	0.7	0	3	4.1	2	11	8.6	0	2	2.9	1	12	19.3	21
	5	0	0.9	0	1	5	5	6	17.5	3	2	3.2	4	8	13.2	20
	6	1	1.5	0	6	11.3	16	5	23.0	5	17	3.1	7	8	14.2	24
9	1	0	0.5	0	—	8.2	23	—	14.9	9	—	3	18	7	8.5	13
	2	0	0.7	0	—	6.2	12	—	12.7	3	—	1.9	6	3	8.2	4
	3	0	1.4	0	1	2.7	1	2	10.0	1	1	0.7	0	1	8.4	3
	4	0	0.4	0	0	1.6	1	2	2.8	1	0	1.1	3	9	4.3	2
	5	0	0.5	2	2	1.6	0	0	5.8	1	0	1.4	8	3	4.2	4
	6	0	0.2	0	0	2.1	0	0	1.3	0	0	2.1	3	1	3.8	0
10	1	0	0.6	0	0	0.9	1	0	1.8	1	1	1.2	2	5	3.1	1
	2	1	0	0	1	0.4	1	0	0.8	0	0	0.2	0	4	6.2	0
	3	0	0	0	0	0.4	2	0	0.4	0	0	0.4	0	1	1.9	2
	4	0	0.2	1	0	0.5	0	0	0	0	0	0.1	0	0	0.6	1
	5	0	0.6	0	0	0	0	0	0.1	0	0	0.2	0	0	0.9	0
	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0
合計		2	11.0	5	42	73.5	87	34	179.2	57	52	49.5	57	107	177.3	118

※「—」は欠測

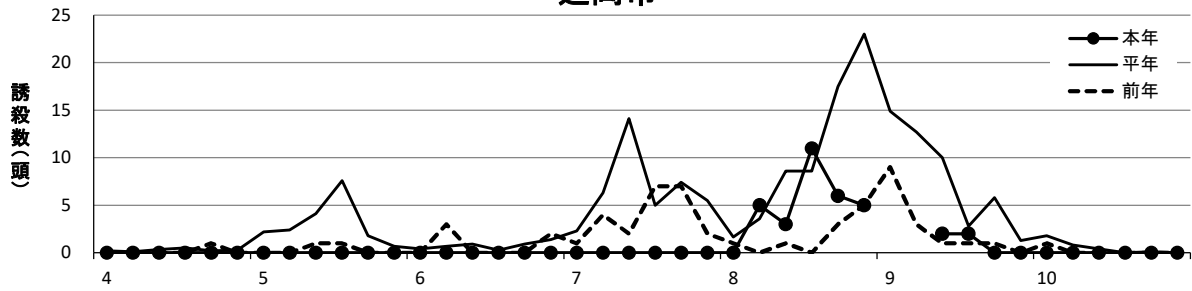
### 総合農試



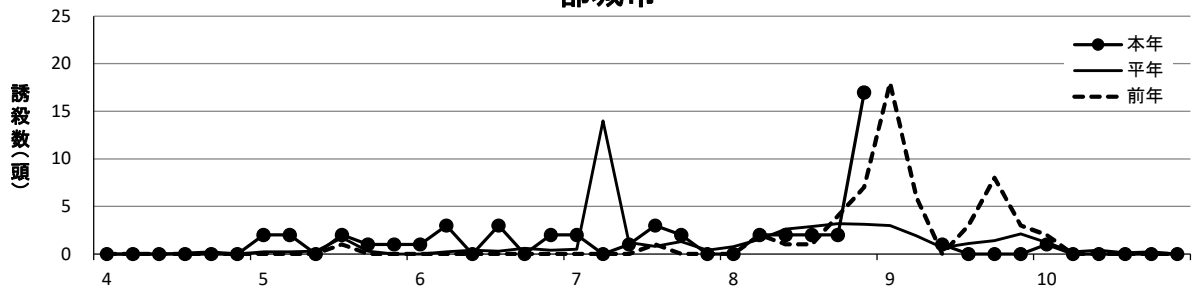
### 国富町



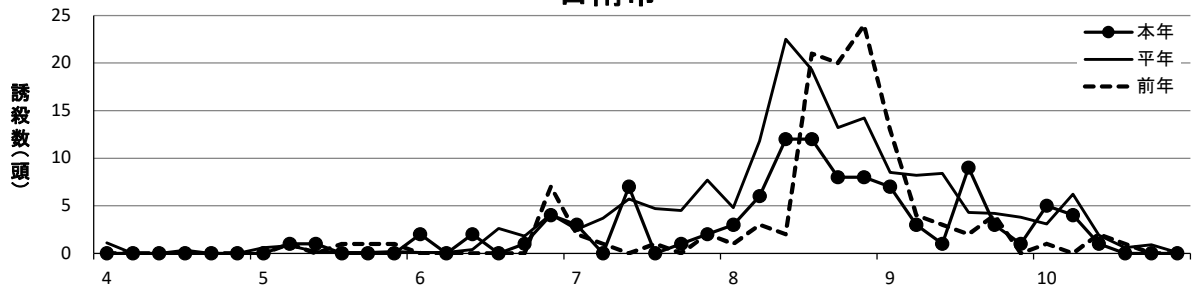
### 延岡市



### 都城市



### 日南市



チャバネアオカメムシの予察灯における誘殺状況(2020年)

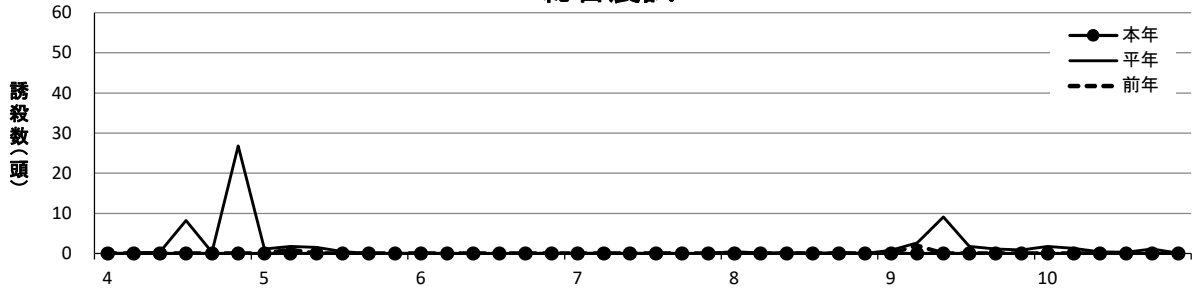
②ツヤアオカメムシの誘殺状況

(単位:頭)

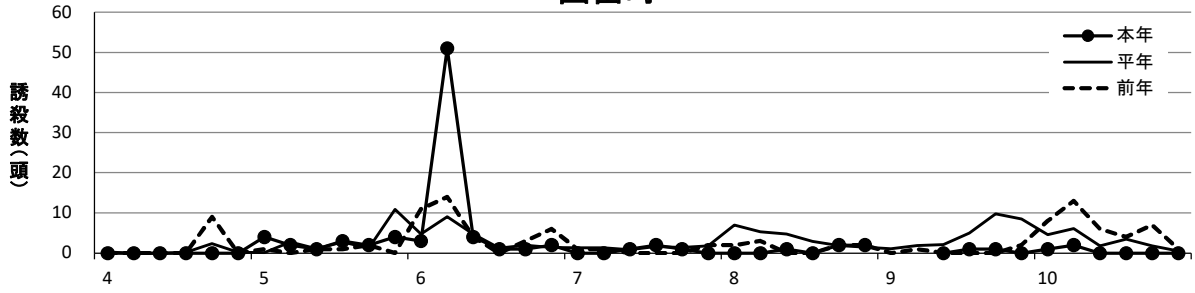
月	半旬	総合農試			国富			延岡			都城			日南		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
4	1	0	0	0	0	0.3	0	0	0.444	0	0	0	0	0	2.5	0
	2	0	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0	0	0.3	0
	3	0	0.3	0	0	0	0	0	0.1	0	0	0	0	0	4.6	0
	4	0	8.2	0	0	0.2	0	0	0.2	0	0	0	0	4	4.0	1
	5	0	0.3	0	0	2.3	9	0	1.1	11	0	0	0	0	8.6	18
	6	0	26.8	0	0	0.2	0	0	0.5	0	0	0.1	0	1	2.0	8
5	1	0	1.1	0	4	0.1	1	9	1.7	1	0	0	0	1	15.8	1
	2	0	1.8	1	2	2.7	0	13	2.7	0	0	0	0	12	46	7
	3	0	1.5	0	1	1.1	1	4	2.7	1	0	0	0	12	13.9	1
	4	0	0.5	0	3	2.7	1	8	4.3	1	1	0.6	0	53	31.1	14
	5	0	0	0	2	1.2	2	5	3.8	6	9	0.1	0	13	6.6	36
	6	0	0	0	4	10.9	0	2	1.5	3	2	0.1	0	8	7.5	22
6	1	0	0.1	0	3	4.7	11	0	2.1	5	1	1	0	9	19	131
	2	0	0	0	51	9.1	14	1	3.7	4	6	0.6	0	1	17.8	45
	3	0	0	0	4	4.8	4	2	1.1	0	0	1.2	0	29	25.7	1
	4	0	0	0	1	1.2	0	0	0.9	0	0	0.6	0	20	17.1	12
	5	0	0	0	1	2.0	3	2	1.7	0	0	0.9	0	23	15.5	6
	6	0	0.1	0	2	1.4	6	1	1.2	0	1	0.4	1	19	19.3	88
7	1	0	0	0	0	1.3	1	0	1.2	0	0	0.5	1	6	11.2	36
	2	0	0.1	0	0	1.3	1	0	1.5	3	0	2.8	0	5	7.4	11
	3	0	0	0	1	0.8	0	0	0.9	0	1	0.8	0	8	10.8	1
	4	0	0.1	0	2	1.6	0	4	0.3	0	0	0.1	0	4	5.8	1
	5	0	0	0	1	1.4	0	1	0.4	0	0	0.6	1	8	4.7	1
	6	0	0	0	0	1.8	2	2	1.3	0	1	0.4	0	6	10.8	0
8	1	0	0.4	0	0	7.0	2	0	10.2	3	0	0.7	1	0	31.4	5
	2	0	0.1	0	0	5.3	3	1	11.1	0	0	0.7	1	6	12.3	4
	3	0	0.2	0	1	4.8	0	6	14.5	0	1	2	1	11	11.4	3
	4	0	0	0	0	2.9	0	9	11.5	1	1	0.7	0	14	10.4	2
	5	0	0.2	0	2	1.9	2	6	8.6	2	0	1.9	0	10	13.2	4
	6	0	0	0	2	1.5	2	0	7.7	1	3	1	4	3	10.1	16
9	1	0	0.8	0	—	1.1	0	—	4.7	0	—	2.7	21	0	9.2	13
	2	0	2.6	2	—	1.9	1	—	4.9	0	—	4.8	3	3	16.1	2
	3	0	9.1	0	0	2.1	0	15	2.9	0	0	3.3	10	6	31.0	2
	4	0	1.8	0	1	5.0	0	19	7.1	0	4	4.3	6	7	33.6	5
	5	0	1.1	0	1	9.8	0	22	26.1	6	6	14.2	13	14	101.9	55
	6	0	0.9	0	0	8.4	2	6	17.5	10	1	16.2	23	2	86.0	17
10	1	0	1.8	0	1	4.6	8	1	21.6	14	0	15.5	39	5	52.3	113
	2	0	1.3	0	2	6.1	13	6	11.4	22	0	2.3	16	3	29.2	27
	3	0	0.4	0	0	1.8	6	9	4.2	1	0	0.6	2	3	24.2	3
	4	0	0.3	0	0	3.4	4	0	2.4	10	0	0.8	2	2	22.9	34
	5	0	1.1	0	0	1.8	7	1	2.3	4	0	1.0	1	3	12.2	19
	6	0	0.1	0	0	0.6	1	0	2.2	2	0	0.4	0	1	9.5	4
合計		0	63.3	3	92	123.2	107	155	206.4	111	38	84.0	146	335	824.9	769

※「—」は欠測

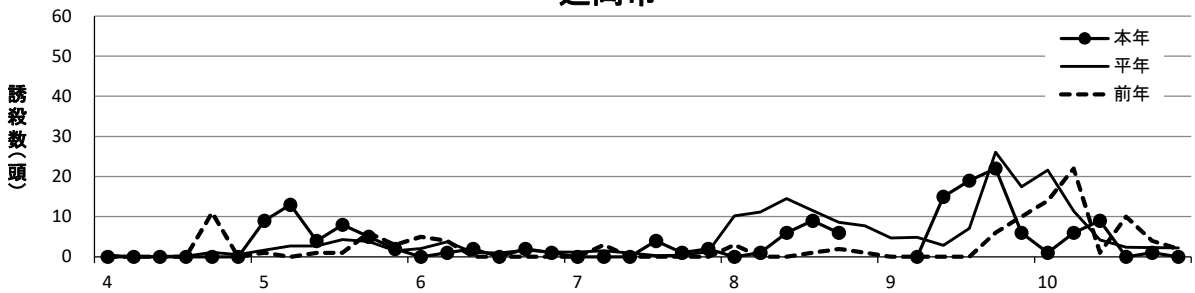
### 総合農試



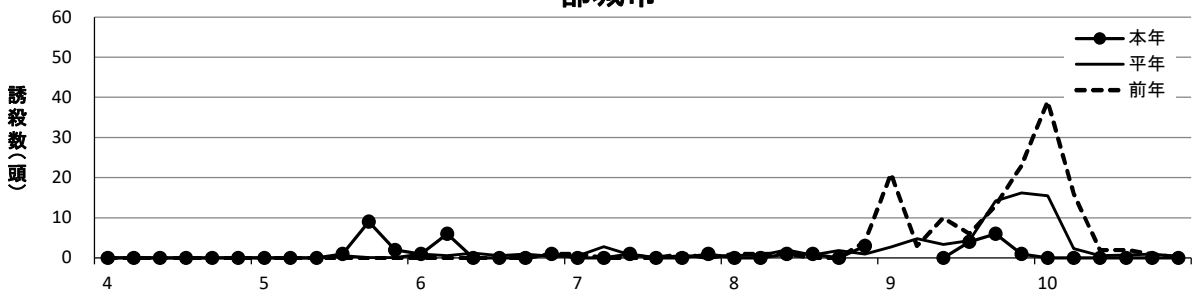
### 国富町



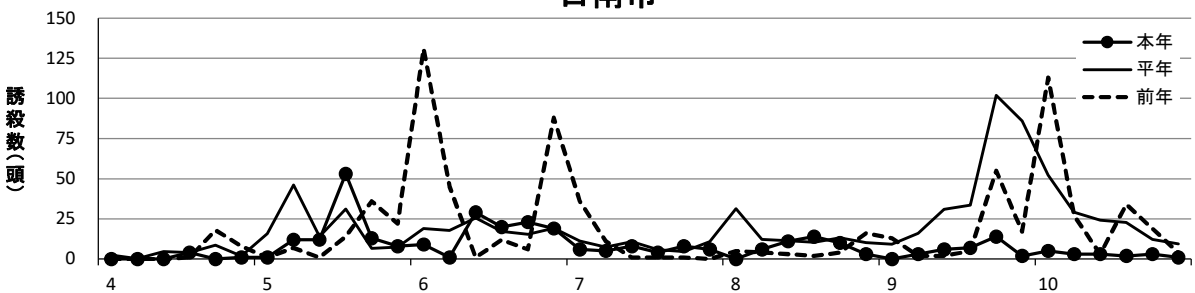
### 延岡市



### 都城市



### 日南市



ツヤアオカメムシの予察灯における誘殺状況(2020年)



## (2) 合成集合フェロモンによる誘殺状況

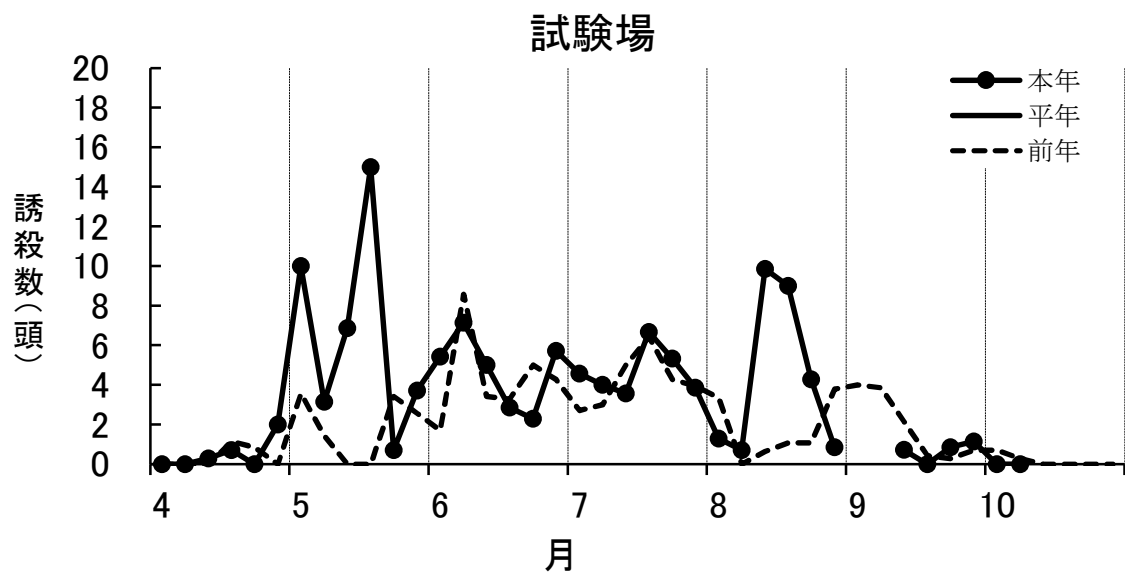
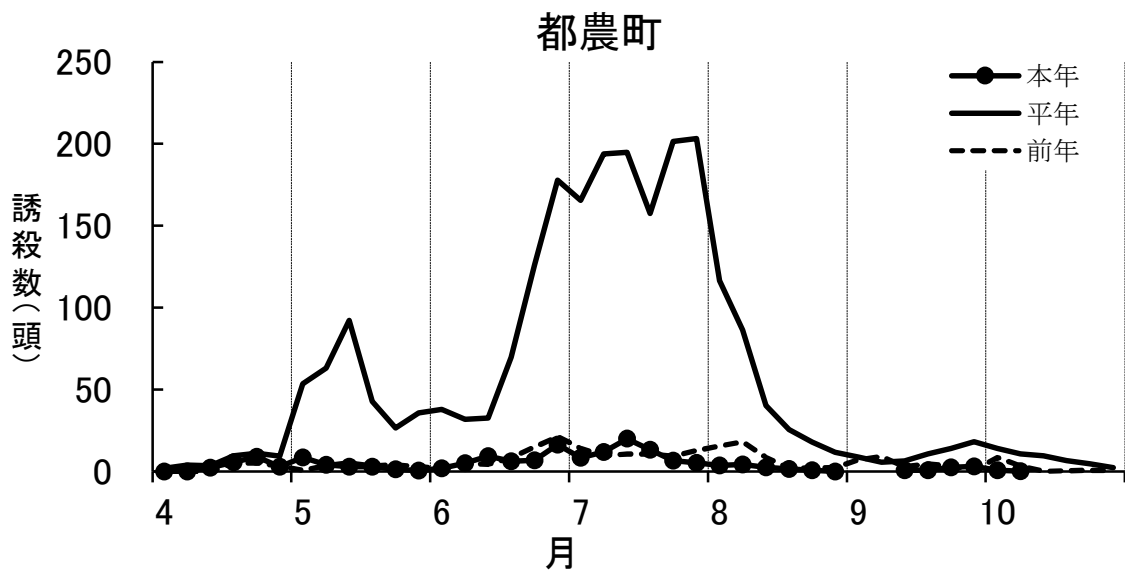
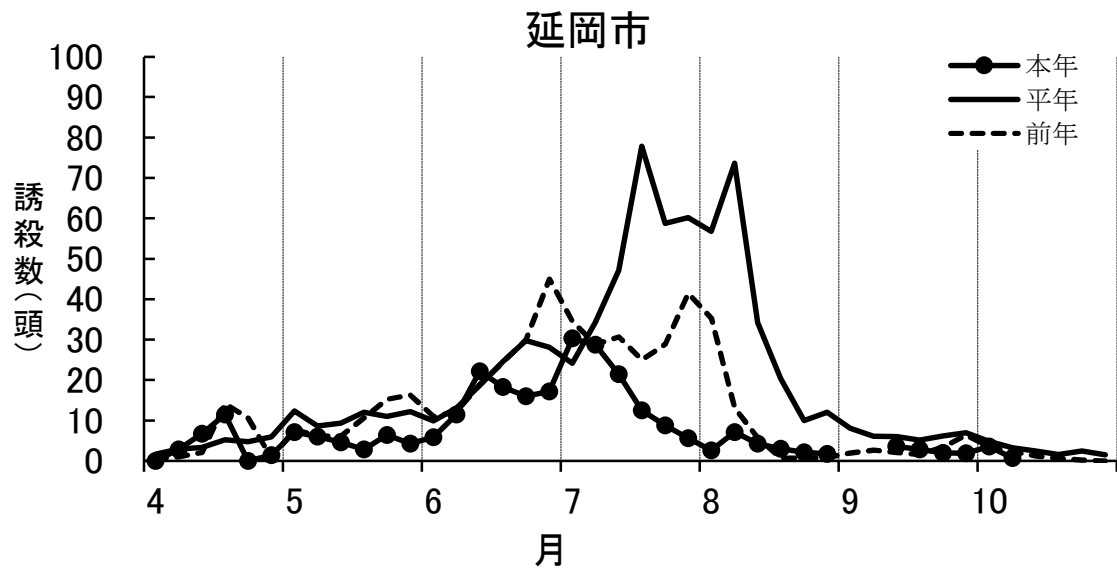
## ① チャバネアオカメムシ

(単位:頭)

月	半旬	延岡			都農			試験場		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
4	1	0	1.7	0	0	2.1	0	0		0
	2	3	2.9	1	0	3.8	0	0		0
	3	7	3.3	2	2	3.5	0	0		0
	4	11	5.2	14	6	9.5	5	1		1
	5	0	4.7	11	9	11.2	5	0		1
	6	1	5.9	1	3	9.3	4	2		0
5	1	7	12.3	8	9	53.5	1	10		4
	2	6	8.6	6	4	63.0	4	3		1
	3	5	9.3	6	3	92.3	5	7		0
	4	3	12.0	11	3	42.8	4	15		0
	5	6	11.0	15	1	26.5	4	1		3
	6	4	12.2	16	1	35.7	3	4		3
6	1	6	9.9	11	2	37.8	2	5		2
	2	11	13.1	12	5	31.8	5	7		9
	3	22	18.7	19	9	32.6	4	5		3
	4	18	24.5	24	6	69.8	9	3		3
	5	16	29.7	30	7	125.9	15	2		5
	6	17	28.1	45	16	177.8	21	6		4
7	1	30	24.1	35	8	165.5	14	5		3
	2	29	34.3	29	12	193.7	10	4		3
	3	21	47.1	31	20	194.8	11	4		5
	4	13	77.9	25	13	157.5	11	7		6
	5	9	58.7	29	7	201.3	9	5		4
	6	6	60.2	41	5	203.3	13	4		4
8	1	3	56.8	35	4	116.3	16	1		3
	2	7	73.6	13	4	86.3	18	1		0
	3	4	34.2	6	3	40.2	9	10		1
	4	3	20.4	1	2	25.5	2	9		1
	5	2	10.0	1	1	17.9	2	4		1
	6	2	12.1	1	0	11.6	3	1		4
9	1	—	8.0	2	—	8.7	7	—		4
	2	—	6.1	3	—	5.6	9	—		4
	3	4	6.0	2	1	6.5	3	1		2
	4	3	5.2	2	1	10.7	5	0		0
	5	2	6.2	3	2	14.0	3	1		0
	6	2	6.9	6	3	18.2	1	1		1
10	1	4	4.8	4	1	14.0	9	0		1
	2	1	3.3	2	0	10.7	3	0		0
	3		2.5	1		9.6	0			0
	4		1.5	1		6.7	1			0
	5		2.5	0		4.6	1			0
	6		1.5	0		2.3	1			0
計		287	776.7	505	172	2354.5	249	128		87

※「—」は欠測

※試験場はH28(2016)年から開始



チャバネアオカメムシのフェロモントラップ誘殺状況(2020年)

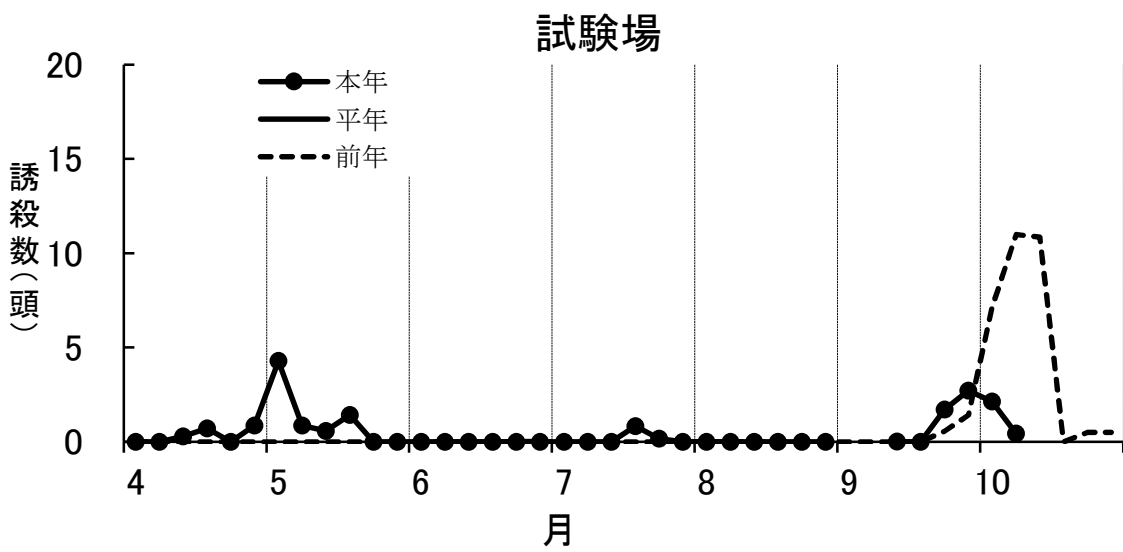
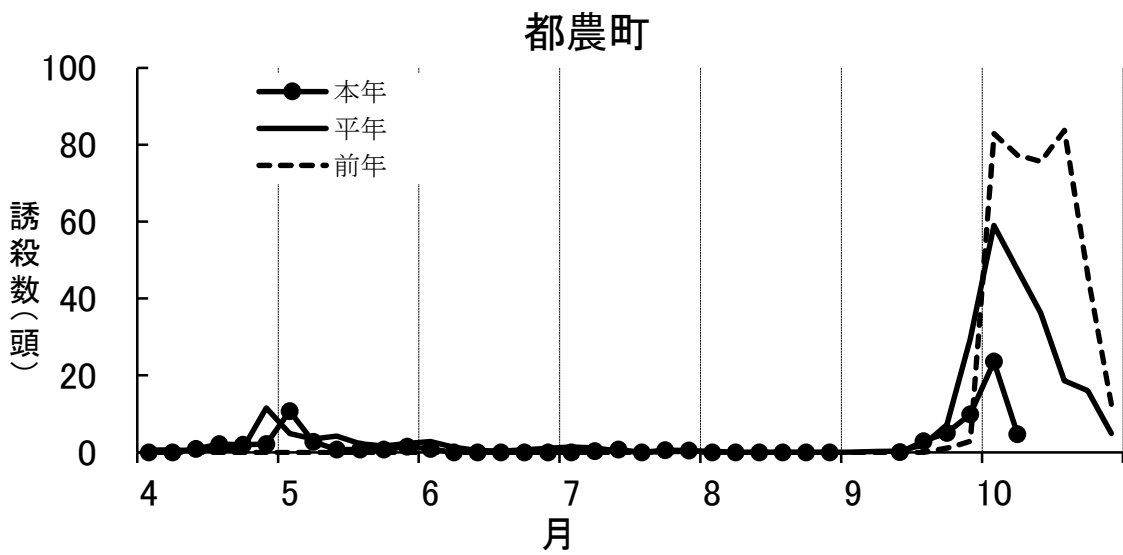
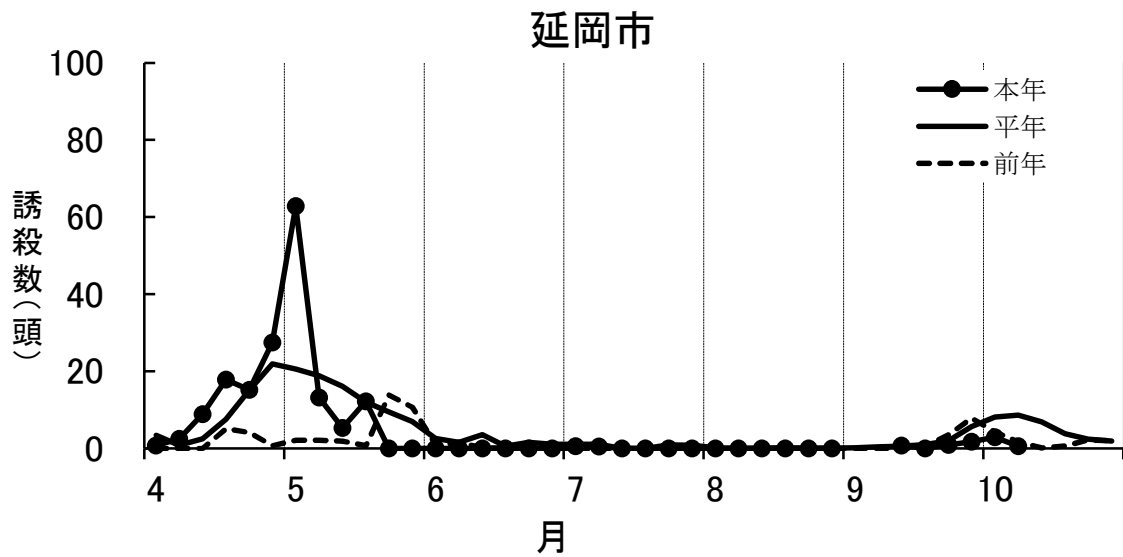
## ② ツヤアオカメムシ

(単位:頭)

月	半旬	延 岡			都 農			試験場		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
4	1	1	3.3	0	0	0.6	0	0		0
	2	2	0.8	0	0	0.6	0	0		0
	3	9	2.5	0	1	0.4	0	0		0
	4	18	7.5	5	2	0.6	0	1		0
	5	15	15.1	4	2	1.0	0	0		0
	6	27	21.9	1	2	11.5	0	1		0
5	1	63	20.6	2	11	4.9	0	4		0
	2	13	18.8	2	3	3.5	0	1		0
	3	5	16.0	2	1	4.2	0	1		0
	4	12	12.0	1	1	2.2	0	1		0
	5	0	9.5	14	1	1.6	0	0		0
	6	0	6.9	11	1	2.3	0	0		0
6	1	0	2.5	1	1	2.8	0	0		0
	2	0	1.6	1	0	1.3	0	0		0
	3	0	3.5	0	0	0.4	0	0		0
	4	0	0.6	0	0	0.3	0	0		0
	5	0	1.5	0	0	0.6	0	0		0
	6	0	1.0	0	0	1.1	0	0		0
7	1	1	1.0	0	0	1.4	0	0		0
	2	0	1.1	0	0	1.1	0	0		0
	3	0	0.0	0	1	0.3	0	0		0
	4	0	0.0	0	0	0.1	0	1		0
	5	0	0.9	0	1	0.1	0	0		0
	6	0	0.8	0	0	0.3	0	0		0
8	1	0	0.1	0	0	0.3	0	0		0
	2	0	0.0	0	0	0.0	0	0		0
	3	0	0.0	0	0	0.0	0	0		0
	4	0	0.2	0	0	0.0	0	0		0
	5	0	0.0	0	0	0.0	0	0		0
	6	0	0.1	0	0	0.0	0	0		0
9	1	—	0.2	0	—	0.1	0	—		0
	2	—	0.4	0	—	0.2	0	—		0
	3	1	0.6	0	0	0.3	0	0		0
	4	0	1.0	1	3	2.0	0	0		0
	5	1	2.0	4	5	7.1	1	2		1
	6	2	5.6	8	10	29.4	3	3		1
10	1	3	8.1	4	24	59.0	83	2		7
	2	1	8.6	2	5	47.6	77	0		11
	3		6.9	0		36.2	76			11
	4		3.8	1		18.6	84			0
	5		2.4	2		16.1	46			1
	6		1.9	2		4.9	13			1
計		174	191.4	67	73	264.9	382	17		32

※「—」は欠測

※試験場はH28(2016)年から開始



ツヤアオカメムシのフェロモントラップ誘殺状況(2020年)

7) 農作物有害動植物の発生及び防除状況

(1) 発生経過、発生原因及び防除の概要

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生面積 (ha)	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要	
早期水稲	葉いもち	平年:遅い 前年:並	平年:やや多 前年:多	2,794ha	初確認は6月9日(平年:5月24日、前年6月13日)。6月下旬の発生面積率は平年並、発病株率及び発病度はいずれもやや多の発生であった。	移植後、好天に恵まれたことから、初発は平年より遅かった。その後、梅雨に入り、いもち病の感染に好適な条件が続き、発生が拡大した。	育苗箱施薬、初発前の粒剤散布及び初発時の液剤散布。	
		平年:並 前年:並	平年:並 前年:多	2,235ha	7月中旬の発生面積率、発生程度(発病度)はいずれも平年並の発生であった。	梅雨がい期に防除。	穂蒔い期に防除。	
	紋枯病	平年:並 前年:並	平年:多 前年:多	4,280ha	7月中旬の発生面積率、発生程度(発病度)はいずれも平年比多の発生であった。	梅雨が長引いたことで発生が助長されたと推測される。	穂蒔い期に防除。	
	イネミズゾウムシ	平年:並 前年:並	平年:並 前年:並	4,464ha	4月中旬の発生面積率、発生程度(被害度)はいずれも平年比やや少であった。 5月中旬の発生面積率、発生程度はいずれも平年並みであった。	—	育苗箱施薬、粒剤の水面施用。	
	スクミリンゴガイ	平年:並 前年:並	平年:やや多 前年:並	3,715ha	4月中旬の発生面積率は平年並み、発生程度(㎡当たり員数)はやや多の発生であった。 5月中旬の発生面積率は平年比やや多、発生程度は平年比多の発生であった。	冬期の気温が高く、越冬中のスクミリンゴガイが低温により死亡しにくい条件であったと推測される。	粒剤の水面施用。貝の採取・冬季の耕起及び石灰窒素の散布。	
	カメムシ類	平年:並 前年:並	平年:多 前年:やや多	3,557ha	6月中旬の発生面積率、発生程度(20回振すくい取り員数)がいずれも平年比多の発生であったため、注意報3号(6月19日付け)を発令。 7月中旬の発生面積率は平年比多、発生程度は平年並の発生であった。	暖冬による越冬個体の増加が推測される。 5～6月が高湿・小雨傾向であり、カメムシ類にとって好適な条件であったと推測される。 作期の異なる稲の混在。	穂蒔い期とその7～10日後の2回防除を徹底。 注意報第3号(R2.6.19)発表。	
	普通期水稲	葉いもち	平年:並 前年:並	平年:並 前年:やや多	3,611ha	本田での発生は7月中旬から確認された。 7月中旬の発生面積率は平年並、発生程度(発病度)は平年比多の発生であった。 7月下旬以降は発生面積率、発生程度いずれも、平年並からやや少で推移した。	梅雨前半は少雨傾向であったため抑制的であったが、平年より梅雨明けが長引いたことから発生が助長され、一部ではずりこみ症状がみられた。梅雨明け以降は高温傾向が続き、発生が抑制されたと推測される。	育苗箱施薬、初発前の粒剤散布及び初発時の粉剤・液剤散布。
			平年:並 前年:並	平年:並 前年:並	4,333ha	9月中旬の発生面積率は平年並み、発生程度(発病率)は平年比やや多の発生であった。	穂ばらみ期と穂蒔い期に防除。	
		紋枯病	平年:並 前年:並	平年:並 前年:やや少	3,370ha	8月中旬から確認され、9月中旬の発生面積率は平年並、発生程度(発病度)は平年比やや多であった。	梅雨明け以降、気温が平年より高めで推移し発生が助長されたと推測される。	穂ばらみ期の防除。
		もみ枯細菌病	平年:並 前年:一	平年:並 前年:並	481ha	9月中旬から確認され、9月中旬の発生面積率と発生程度(発病率)はいずれも平年並みであった。	—	出穂直前～出穂期の防除。
内穎褐変病	平年:並 前年:並	平年:少 前年:並	481ha	9月中旬から確認され、9月中旬の発生面積率は平年比少、発生程度(発病率)は平年並みであった。	—	—		

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生面積 (ha)	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
普通期水稻 (続き)	セジロウンカ	平年: 並 前年: 並	平年: 並 前年: 並	7,944ha	予察灯への初飛来は5月18日(平年6月8日、前年6月6日)であった。本田では6月中旬の巡回調査から確認され、9月中旬の発生面積率は平年やや多、発生程度(20回振すくい取り虫数)は平年並みの発生であった。	初飛来以降、断続的に飛来があった。7月上旬に、予察灯で数百頭の誘殺が確認され、その後も百頭を超える誘殺が数回確認された。	育苗箱施薬。飛来虫と次世代幼虫の防除。出穂期のウンカ類防除。
	トビイロウンカ	平年: 多 前年: 並	平年: 多 前年: 並	9,629ha	予察灯への初飛来は、6月27日(平年6月25日、前年6月10日)であった。7月上旬から発生が確認され、9月中旬の発生面積率は平年比多、発生程度(株当たり虫数)は平年やや多の発生であった。	飛来量、飛来回数ともに多かった。7月下旬以降、高温・小雨傾向が続き、ウンカ類の増殖に好適な条件だったと推測される。	育苗箱施薬。飛来虫と次世代幼虫の防除。出穂期のウンカ類防除。注意報第4号(普通期水稻)、第5号(早期飼料用米・飼料用稲)発表(R2.7.17)。注意報第6号(普通期水稻)、第7号(普通期飼料用米・飼料用稲)発表(R2.9.1)。
	ヒメトビウンカ	平年: やや少 前年: 並	平年: やや少 前年: 並	8,425ha	7月中旬から確認され、7~10月の発生面積率及び発生程度(20回振すくい取り虫数)はいずれも、平年並から少で推移した。	-	育苗箱施薬。出穂期のウンカ類防除。
	ツマグロゴキブリ	平年: やや少 前年: やや少	平年: やや少 前年: やや少	5,537ha	6月中旬から確認され、6~10月の発生面積率及び発生程度(21回振すくい取り虫数)はいずれも、平年並から少で推移した。	-	育苗箱施薬。
	コブノメイガ	平年: やや多 前年: やや早い	平年: やや多 前年: やや早い	6,981ha	フェロモントラップでの初飛来は、6月11日(前年6月15日、平年6月26日)であった。8月中旬の発生面積率は平年比やや多、発生程度(被害率)は平年比多の発生であった。	飛来量、飛来回数ともに多かった。	育苗箱施薬。養蠶最盛期の粒剤防除及びウンカ類との同時防除の粉剤・液剤防除。
	イネミズゾウムシ	平年: やや多 前年: 並	平年: やや多 前年: 多	2,083ha	6月中旬の発生面積率は平年比多、発生程度(被害度)は平年並であった。	-	育苗箱施薬、粒剤の水面施用。
	スクミリンゴガイ	平年: やや多 前年: 並	平年: やや多 前年: 並	3,632ha	6月中旬の発生面積率と発生程度(m <sup>2</sup> 当貝数)はいずれも平年比やや多の発生であった。	-	粒剤の水面施用。貝の採取・冬季の耕起
	カメムシ類	平年: やや多 前年: 並	平年: やや多 前年: 並	5,777ha	8月下旬の発生面積率は平年比やや多、発生程度(20回振すくいとりに虫数)は平年並であった。その後、9月中旬の発生面積率は平年並、発生程度は平年比やや少であった。	出穂期、穂ぞろい期防除の徹底。	穂揃い期とその7~10日後の防除。
	べと病	平年: 並 前年: やや早い	平年: やや少 前年: やや少	127ha	10月中旬の巡回調査における発生面積率と発生程度(発病度)は、いずれも平年比やや少の発生であった。	-	種子消毒の徹底。
	葉焼病	平年: 多 前年: 多	平年: 多 前年: 多	128ha	10月から発生が確認され、10月中旬の発生面積率と発生程度(発病度)はいずれも平年比多の発生であった。	-	若齢期の防除。
	ハスモンヨトウ	平年: 並 前年: 並	平年: やや少 前年: 並	128ha	8~10月の発生面積率と発生程度(発病度)は、いずれも平年比やや少から少で推移した。	-	若齢期の防除。
	カメムシ類	平年: 並 前年: やや遅い	平年: 並 前年: 並	64ha	9月中旬から発生が見られ、9月中旬の発生面積率と発生程度(25株虫数)はいずれも平年比やや多の発生であったが、その後はいずれも平年比以上に落ち着いた。	-	さやの肥大期の防除。

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生面積 (ha)	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
かんしよ	イモキハガ	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	747ha	8～9月の発生面積率と発生程度(被害葉率)は、いずれも平年並から少で推移した。	-	被害初期の防除。
	ナカシロシカバ	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	2,741ha	8月中旬の発生面積率と発生程度(被害葉率)は、いずれも平年並であった。その後、9月中旬の発生面積率は平年比少、発生程度は平年比やや多の発生であった。	-	つる先の1～3葉に食害痕が見られる被害初期の防除。
ジャガイモ	ハスモンヨウ	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	2,741ha	8月中旬の発生面積率は平年並、発生程度(被害葉率)は平年比やや多であった。その後、9月中旬の発生面積率は平年比少、発生程度は平年並であった。	-	他の害虫との同時防除。
	疫病	平年：一 前年：一	平年：並 前年：並	0ha	発生未確認。	-	種芋の更新。初発前の予防防除。
	アブラムシ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	79ha	4月中旬の発生面積率は平年比やや少、発生程度(寄生度)は平年並の発生であった。	-	初発時の防除。
	ニジュウヤホシテントウ	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：並	0.0ha	5月中旬の発生面積率は平年比やや少、発生程度(株虫数)は平年並であった。(微発生)	-	幼虫分散前の防除。
	ハスモンヨウ	平年：一 前年：一	平年：並 前年：並	0ha	発生未確認。	-	若齢期の防除。
	そうか病	平年：多 前年：やや多	平年：多 前年：やや多	143ha	葉では平年比やや多、果実では多の発生であった。8月の発生が平年を上回った。初発は、葉で4月17日(平年比-11日)、果実で7月8日(平年比+36日)であった。	適期防除と病害除去の不徹底	春梢発芽期、落弁期、幼果期の農薬防除。
	黒点病	平年：遅い 前年：やや遅い	平年：少 前年：やや少	573ha	9月までは平年比やや少で推移した(9月中旬の果実における発生は場率44%、平均発病度4.4)。初発は、葉では未確認、果実で7月8日(平年比+11日)であった。	初発が遅く、梅雨期以降の降水量は、7月が多かった以外は、各月とも平年並～少であった。	落花期以降の定期的な防除。 枯れ枝の除去。剪定くずの適切な処理。
	かいよう病	平年：遅い 前年：遅い	平年：並 前年：並	143ha	葉、果実とも平年並～やや少の発生で推移した。(果実における8月の発生は場率は5.6%、発病度は0.1)初発は、葉で7月8日(平年比+43日)、果実で7月8日(平年比+13日)であった。	新梢の剪定が不徹底の園地で発生が多かった。ミカンハモグリガは平年比やや多の発生であった。	発芽直前、開花直前、落花期の防除。 強風対策として防風垣、防風ネットを設置する。
	ミカンハダニ	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：並	359ha	越冬時期の生息密度は平年並であったが、発生面積及び発生程度は、4～5月が平年並、6月以降は、やや少～少で推移した。9月の発生は場率は28%、寄生葉率は1.2%。	7月の多雨 適期防除の徹底 夏期マシンの油の散布徹底	発生初期の防除徹底。 同一系統薬剤の連用を避ける。 冬季、夏期にマシンの油乳剤を利用する。
	チャノキイロアサミウ	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	0ha	6～9月の巡回調査において、発生は認められなかった。	適期防除の徹底	落花期から9月までの防除。
かんざつ	ミカンハモグリガ	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：やや多	509ha	新梢発生が長引いた園地での発生が6～7月に確認され、発生量は平年よりやや多かった。 7月の発生は場率39%、寄生葉率11.3%。	適期防除の不徹底	適期防除の徹底 新梢をたらたらと発生させないような肥培管理
	アブラムシ類	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：多	501ha	5～7月の調査において、いずれも発生を認めた。特に5月の発生は多く、発生は場率39%、寄生新梢率2.2%であった。	5～6月が高温で推移し、降水量は平年並であった。	新梢伸長期における薬剤防除

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生面積 (ha)	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
かんきつ (緑茶)	カメムシ類	平年:並 前年:並	平年:やや少 前年:やや少	258ha	予察灯調査では、ツヤアオカメムシは4月中旬、チャバネアオカメムシは4月上旬から誘殺され、日南市ではツヤアオが5月中旬、チャバネが8月中旬に誘殺ピークがみられた。フェロモンラップ調査(徒岡市)では、ツヤアオが5月上旬、チャバネが7月上旬にピークがみられた。月別誘殺数は、両種とも平年並以下で推移している。 果樹園への飛来が確認されている地域もあるが、被害は確認されていない。	ヒノキ毬果の量は平年より少ない傾向。	園内の発生状況の把握に努め、飛来を 確認したら直ちに防除を行う。
		平年:並 前年:並	平年:並 前年:並	892ha	7月の発生量(発生ほ場率65%)が最も高かったが、期間を通して平年並の発生で推移した。	降水量は7月が多かったものの、5~6月が平年並、8月はかなり少なかった。気温は5、6、8月がかなり高く、7月は低かった。	二番茶・秋芽生育期の防除
茶	炭疽病	平年:並 前年:並	平年:並 前年:並	81ha	山間部の一部ほ場で6~8月に発生が確認され(発生ほ場率6%)、発生量は平年並であった。	降水量は、7月が多かったが、6月は平年並で8月はかなり少なかった。	二番茶・秋芽の萌芽期から二・三葉期に、炭疽病との同時防除
	もち病	平年:並 前年:並	平年:並 前年:並	163ha	7~8月に発生が確認され(発生ほ場率12%)、発生量は平年並であった。	5~6月及び8月が高温で推移した。	摘採直後(3日以内)の防除 摘採機の洗浄
	輪斑病	平年:並 前年:並	平年:並 前年:並	0ha	9月までの巡回調査では、発生が確認されなかつた。	適期防除の実施 近年の発生は減少傾向にある	成虫発生最盛期の10~14日後が防除適期 チャハマキとの同時防除
	チャノコカクモンハマキ	平年:並 前年:並	平年:やや多 前年:並	81ha	巡回調査では6~8月に発生を確認(発生ほ場率6%)した。発生量は、平年並~やや多であった。	発生ピークのズレや摘採時期との関係で適期防除出来なかつた園では発生量が増加した。	チャノコカクモンハマキとの同時防除
	チャハマキ	平年:並 前年:並	平年:並 前年:並	406ha	6月以降に発生を確認し、8月に発生ピーク(発生ほ場率29%)となったが、発生量は平年並~やや少であった。	適期防除の実施	三角葉巻前の防除となるよう、成虫の発生最盛期の約10日後に防除する。 ただし、遅効性の脱皮阻害剤は成虫発生最盛期の5日後の産卵期に散布する。
	チャノホソガ	平年:並 前年:並	平年:並 前年:並	644ha	越冬後の寄生密度は平年並であった。 その後、8月までは並~少で推移したが、9月の調査では発生ほ場率47%と平年比やや多の発生となった。	8月の少雨の9月の高温で密度はやや高まったものの、全般的には有効薬剤の散布により発生が抑えられた。	産卵開始期(2月下旬~3月上旬)及び越冬前(10月中~下旬)の薬剤防除 同一系統薬剤の連用を避ける
	カンザワハダニ	平年:並 前年:並	平年:やや多 前年:-	1056ha	4~5月の発生は少なく、その後7月をピークとして平年比多の発生となった(発生ほ場率77%)。	5~6月の高温で7月の発生が多くなったが、その後は適期防除により平年並以下の発生に抑えられた。	二番茶・三番茶開花期と秋芽の防除。 チャノキイロアザミウマとの同時防除。
	チャノミドリヒメヨコバ	平年:並 前年:並	平年:多 前年:-やや多	813ha	7月の発生が最も多く、発生ほ場率59%で平年並、発生程度(寄生葉率9.2%)は多となった。それ以外の時期は平年並~少の発生で推移したが、一部地域では多発ほ場も確認された。	5~6月の高温で7月の発生が多くなったが、その後は適期防除により平年並以下の発生に抑えられた。	二番茶・三番茶開花期と秋芽の防除。 チャノミドリヒメヨコバとの同時防除。
	チャノキイロアザミウマ	平年:並 前年:並	平年:並 前年:並	486ha	6月に発生が増加し(発生ほ場率35%)、一部で甚発生ほ場もみられたが、ほ場間差が大きく、全体的には平年並の発生で推移した。	適期防除を逸した一部ほ場で多発したもの、全般的には有効薬剤による適期防除により平年並の発生に抑えた。	孵化最盛期に合わせた防除 中切り後の防除の徹底
	クワシロカイガラムシ	平年:並 前年:並	平年:並 前年:並				



農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生面積 (ha)	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
令和2年産 冬春キュウリ R1.9～R2.6 (栽培期間)	べと病	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：やや少	208ha	発生面積率、発病葉率ともに期間を通して平年並から平年比多の発生であった。	肥培管理及び湿度管理の不徹底 発生初期防除の不徹底 草勢管理	薬剤による防除 防除情報第10号(R2.3.24)発表
	灰色かび病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	0ha	栽培期間を通して発生は見られなかった。	初期防除の徹底 罹病残渣の早期除去	薬剤による防除 罹病果の持ち出し
	うどんこ病	平年：やや遅い 前年：やや遅い	平年：多 前年：多	92ha	定植後は発生が無かったが、11月に平年比やや多の発生を確認した。3月に発生程度が平年を大きく上回り(発病葉率11.2%、平年4.6%)、栽培終了まで多い発生となった。	肥培管理及び湿度管理の不徹底 発生初期防除の不徹底 草勢管理	薬剤による防除
	褐斑病	平年：並 前年：やや早い	平年：やや少 前年：やや少	14ha	12月に平年比やや多の発生(発病葉率0.7%、平年0.3%)を確認したものの、その後発生量は減少し、栽培期間中平年比やや少の発生となった。	初期防除の徹底	初期防除の徹底 薬剤による防除
	ミナミキイロアザミウマ	平年：やや遅い 前年：早い	平年：並 前年：やや多	122ha	黄化えそ病等ウイルス病の媒介虫対策として、定植時の薬剤施用等が徹底されてきたことから、栽培期間を通して平年並の発生で推移した。	定植時～定植初期の薬剤防除の不徹底 薬剤感受性の低下	定植時の薬剤施用 薬剤のローテーション散布 防虫ネットの設置 防除情報第6号(R1.10.28) 注意情報第6号(R1.12.24)
	ハスモンヨトウ	平年：遅い 前年：遅い	平年：少 前年：やや少	5ha	3月に被害株が確認されたが、期間中その他の月で発生は確認されず、平年比少の発生であった。	施設開放時の侵入防止対策等の不備	防虫ネットの設置 若齢期防除の実施
	モザイク病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	0ha	栽培期間を通して発生は見られなかった。	早期抜根等の実施	土壌消毒の実施 抵抗性品種の導入 媒介昆虫の防除
	斑点病	平年：やや遅い 前年：やや早い	平年：少 前年：少	45ha	9月から3月までは平年並から平年比やや少の発生であったが、栽培終期の4月に発病程度やや多(発病葉率8.3%、平年6.9%)の発生となった。	施設内の湿度管理 初期防除の徹底 罹病葉の除去	薬剤による防除 施設内湿度の適正管理 罹病葉の持ち出し
	うどんこ病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：やや少	45ha	2月まで平年並から平年比少の発生量で推移した。特に2月は平年を大きく下回る発生(発病葉率1.2%、平年6.3%)であったが、3月は平年比多(発病葉率9.2%、平年5.4%)の発生となった。	初期防除の徹底	薬剤による防除
	灰色かび病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	0ha	栽培期間を通して発生は見られなかった。	初期防除の徹底 罹病果の早期除去	薬剤による防除
令和2年産 冬春トマト R1.9～R2.6 (栽培期間)	ミナミキイロアザミウマ	平年：やや遅い 前年：並	平年：少 前年：やや少	7ha	栽培期間を通して、平年比少の発生であった。	効果の高い化学薬剤の散布 天敵利用	防虫ネットの設置 薬剤による防除 生物農薬等の活用
	ヒラズハナアザミウマ	平年：並 前年：並	平年：多 前年：やや多	132ha	定植直後より発生し、10月は平年並の発生であったが、11月以降平年比やや多から多の発生で推移した。	薬剤感受性の低下 発生初期の対応の遅れ 天敵スワルスキーカブリダニ利用時に有効な殺虫剤の使用が制限される。	防虫ネットの設置 注意情報第5号(R1.11.25)発表 防除情報第9号(R2.3.24)発表
令和2年産 冬春トマト R1.9～R2.6 (栽培期間)	灰色かび病 (10～1月葉、2～4月果実)	平年：遅い 前年：遅い	平年：並 前年：やや少	0ha	栽培期間を通して発生は見られなかった。	施設内管理の徹底 草勢管理の徹底	薬剤による防除

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生面積 (ha)	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
冬春トマト (続き)	葉かび病	平年: 遅い 前年: 並	平年: 並 前年: やや少	25ha	1月に初めて発生が確認され、栽培期間を通して平年並の発生となった。	発生初期の対応の遅れ 作業遅れによる栽培環境の悪化	薬剤による防除 抵抗性品種の導入 罹病葉の持ち出し
	黄化葉巻病	平年: やや遅い 前年: やや早い	平年: やや多 前年: 多	10ha	11月に平年比多の発生(発病株率1.1%; 平年0.1%)が確認され、抜根処理を行ったものの、その後の発生を抑えられず、平年比やや多の発生となった。	タバココナジラミ類防除の不徹底 罹病株除去の不徹底	媒介昆虫の防除 罹病株の除去及び適正処分 注意報第7号(R1.12.24)発表 防除情報第6号(R1.10.28)発表
	タバココナジラミ	平年: 並 前年: 並	平年: 並 前年: 並	71ha	定植直後から発生がみられ、11月に一度平年比やや多の発生を確認し、その後は発生を抑えた。しかし、3月に再び増加し、平年比多の発生(100葉虫数8.2頭; 平年1.6頭)となった。	育苗～定植初期における防除の不徹底 進入防止対策の不備	防虫ネットの設置 薬剤による防除 薬剤のローテーション散布 注意報第7号(R1.12.24)発表 防除情報第6号(R1.10.28)発表
	ハモグリハバエ類	平年: 遅い 前年: 並	平年: 並 前年: 並	0ha	栽培期間を通して発生は確認されなかった。	効果の高い化学薬剤の散布	初期防除の徹底 薬剤による防除
令和2年産 冬春いちご R1.9～R2.5 (栽培期間)	うどんこ病	平年: 並 前年: 並	平年: 少 前年: やや少	6ha	定植直後から葉で発生がみられたが、栽培期間を通して平年並から平年比少の発生であった。	夏季の高温による越夏量の減少 親株床での防除の徹底 初期防除の徹底	薬剤による防除 初期防除の徹底 古葉、罹病葉の持ち出し
	灰色かび病	平年: やや遅い 前年: やや早い	平年: 並 前年: 並	1ha	12月に葉に微発生を確認し、2月に果実への発生を確認した。栽培期間を通して平年並から平年比少の発生であった。	初期防除の徹底 罹病残渣の早期除去	薬剤による防除 罹病葉の持ち出し
	炭疽病	平年: 並 前年: 並	平年: 並 前年: 並	5ha	親株床の潜在感染株調査で平年よりやや少であったが、本ばでの発生は定植直後に平年比やや多の発生(発病株率2.3%; 平年1.7%)となった。1月以降発生は確認されなかった。	育苗期間の防除が不徹底、健全株の選抜の不備	健全苗の選抜の徹底 罹病株及び周辺株の除去
	ハダニ類	平年: やや遅い 前年: 並	平年: 並 前年: やや多	23ha	親株床での発生は平年比やや少(寄生株率4.8%; 平年16.5%)で、本ばでの発生は栽培期間を通して平年並から平年比やや少の発生であった。	効果の高い薬剤が少ない	薬剤による防除 早期発見によるスポット防除
	ハスモンヨトウ	平年: 並 前年: 並	平年: 並 前年: 並	5ha	期間を通して平年並からやや多の発生となった。	侵入防止対策の不備	薬剤による防除 防虫ネットの設置
	ヒラズハナアザミウマ	平年: 並 前年: やや早い	平年: 並 前年: やや少	1ha	11月に平年比やや多の発生(寄生花率0.2%; 平年0.1%)を確認したものの、その後の発生は確認されなかった。	ミツバチ導入期間において殺虫剤の使用が困難	薬剤による防除
令和1年産 秋冬ダイコン R1.9～R1.12 (栽培期間)	萎黄病	平年: 一 前年: 一	平年: 多 前年: 多	103ha	11月に平年比多の発生(発病株率0.2%; 平年0.0%)を確認した。	初期防除の徹底	高温期の播種を避ける 連作を避ける
	軟腐病	平年: 並 前年: 並	平年: 並 前年: 並	103ha	栽培期間を通して平年並の発生であった。	初期防除の不徹底 発病株の放置	排水を良くする

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生面積 (ha)	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
秋冬ダイコン (緑芸)	コナガ	平年:並 前年:やや早い	平年:並 前年:並	206ha	前年発生のなかった10月から被害が見られたが、栽培期間を通	初期防除の不徹底 薬剤感受性の低下	薬剤による防除
	ダイコンサルレハムシ	平年:並 前年:並	平年:やや少 前年:並	309ha	栽培期間を通して平年並以下の発生であった。	初期防除の不徹底	薬剤による防除

(2) 発生面積及び防除面積等

農作物名	作付面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)				計	防除面積 (ha)		被害面積 (ha)	平年発生 面積(ha)	備考
			甚	多	中	少		実	延			
早期水稻	6,140	苗立枯病	0	0	0	0	0	(同)	6,079	6,079	0	0
		苗いもち	0	0	0	0	0	(同)	5,649	5,649	0	-
		葉いもち	0	0	375	2,419	2,794	(同)	5,649	11,298	375	2,642
		穂いもち	0	0	0	2,235	2,235	(同)	5,649	11,298	0	1,912
		紋枯病	0	0	0	4,280	4,280	(同)	2,763	2,763	0	2,305
		白葉枯病	0	0	0	0	0		0	0	0	0
		ばか苗病	0	0	0	0	0	(同)	5,526	5,526	0	0
		心枯線虫病	0	0	0	0	0		0	0	0	-
		" (種)	0	0	0	0	0	(同)	6,079	6,079	0	-
		ごま葉枯病	0	0	0	0	0		0	0	0	428
		黄化萎縮病	0	0	0	0	0		6,079	6,079	0	0
		縮葉枯病	0	0	0	0	0		0	0	0	0
		萎縮病	0	0	0	0	0		0	0	0	0
		黄萎病	0	0	0	0	0		0	0	0	0
		もみ枯細菌病	0	0	0	0	0		0	0	0	1,903
		" (種)	0	0	0	0	0	(同)	6,079	6,079	0	-
内穎褐変病	0	0	0	184	184		-	-	0	3,947		
稲こらじ病	0	0	0	0	0		0	0	0	0		
ニカメイチュウ第1世代	0	0	0	0	0		0	0	0	-		
ニカメイチュウ第2世代	0	0	0	0	0		0	0	0	-		
セジロウンカ	0	0	0	2,603	2,603	(同)	491	491	0	3,702		
トビイロウンカ	0	0	0	559	559	(同)	491	491	0	153		
ヒメトビウンカ	0	184	1,302	2,419	3,905	(同)	491	491	1,486	6,294		
ツマグロヨコバイ	0	0	0	1,486	1,486	(同)	491	491	0	4,123		

農作物名	作付面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)				計	防除面積 (ha)		被害面積 (ha)	平年発生 面積(ha)	備考	
			甚	多	中	少		実	延				
早期水稲 (続き)		イネハモク`リハ`エ	0	0	0	0	0	0	0	0	-		
		イネヒメハモク`リハ`エ	0	0	0	0	0	0	0	0	-		
		イネドロオイムシ	0	0	0	0	0	(同)	1,044	1,044	0		
		イネゾウムシ	0	0	0	0	0	(同)	1,044	1,044	0	439	
		斑点米カメムシ類	0	184	559	2,794	3,537	(同)	1,044	3,684	743	3,152	
		イネツトムシ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	
		フタオビコヤガ	0	0	0	208	208	0	0	0	0	-	
		イネヨトウ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	
		アワヨトウ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	
		コブノメイガ	0	0	0	2,978	2,978	0	0	0	0	949	
普通期水稲		イネミズゾウムシ	0	0	184	4,280	4,464	(同)	1,044	1,044	184	5,328	
		スクミリンゴガイ	0	184	2,045	1,486	3,715	(同)	491	491	2,229	2,955	
		苗立枯病	0	0	0	0	0	(同)	9,771	9,771	0	-	
		苗いもち	0	0	0	0	0	(同)	9,080	9,771	0	-	
		葉いもち	0	0	481	3,130	3,611	(同)	9,080	18,161	481	5,722	
		穂いもち	0	241	0	4,092	4,333	(同)	9,080	18,161	241	7,279	
		紋枯病	0	0	481	2,889	3,370	(同)	6,909	6,909	481	4,936	
		白葉枯病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		ばか苗病	0	0	0	0	0	(同)	8,883	8,883	0	-	
		心枯線虫病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	
	" (種)	0	0	0	0	0	(同)	9,771	9,771	0	-		
	ごま葉枯病	0	0	241	963	1,204	(同)	0	0	241	3,410		
	黄化萎縮病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-		
	縞葉枯病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	萎縮病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		

農作物名	作付面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)				計	防除面積 (ha)		被害面積 (ha)	平年発生 面積(ha)	備考	
			甚	多	中	少		実	延				
普通期水稻 (続き)		黄萎病	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		もみ枯細菌病	0	0	0	481	481	(同)	0	0	0	3,112	
		〃 (種)	0	0	0	0	0	(同)	9,771	(同)	9,771	0	-
		内穎褐変病	0	0	0	481	481		0	0	0	6,605	
		稲こらじ病	0	0	0	0	0	(同)	6,909	(同)	6,909	0	2,515
		ニカメイチュウ第1世代	0	0	0	0	0	(同)	4,836	(同)	4,836	0	-
		ニカメイチュウ第2世代	0	0	0	0	0	(同)	0	(同)	0	0	-
		セジロウンカ	0	0	0	7,944	7,944	(同)	9,771	(同)	19,345	0	9,571
		トビイロウンカ	0	722	1,204	7,703	9,629	(同)	9,771	(同)	19,345	1,926	7,580
		ヒメトビウンカ	0	963	2,407	5,055	8,425	(同)	9,771	(同)	19,345	3,370	9,709
		ツマグロヨコバイ	0	0	0	5,537	5,537	(同)	9,771	(同)	19,345	0	8,285
		イネハモク`リハ`エ	0	0	0	0	0		0		0	0	-
		イネヒメハモク`リハ`エ	0	0	0	0	0		0		0	0	-
		イネドロオイムシ	0	0	0	0	0	(同)	1,678	(同)	1,678	0	-
		イネゾウムシ	0	0	0	0	0	(同)	1,678	(同)	1,678	0	-
		斑点米カメムシ類	0	722	1,685	3,370	5,777	(同)	5,034	(同)	5,922	2,407	5,188
		イネツトムシ	0	0	0	0	0		0		0	0	-
フタオビコヤガ	0	0	0	0	0		0		0	0	-		
イネヨトウ	0	0	0	0	0		0		0	0	-		
アワヨトウ	0	0	0	0	0		0		0	0	-		
コブノメイガ	0	0	0	6,981	6,981	(同)	7,896	(同)	7,896	0	3,878		
イネミズゾウムシ	0	0	0	2,083	2,083	(同)	1,678	(同)	1,678	0	1,227		
スクミリンゴガイ	0	0	2,596	1,036	3,632	(同)	790	(同)	790	2,596	3,145		
大豆	223	紫斑病	0	0	0	0	0	0	0	0	54		
		さび病	0	0	0	0	0	0	0	0	15		

農作物名	作付面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)				計	防除面積 (ha)		被害面積 (ha)	平年発生 面積(ha)	備考
			甚	多	中	少		実	延			
大豆 (続き)		立枯性病害	0	0	0	0	0	0	0	0	-	
		べと病	0	0	0	127	127	0	0	0	216	
		葉焼病	0	0	64	64	128	0	0	64	7	
		モザイク病	0	0	0	0	0	0	0	0	4	
		アブラムシ病	0	0	0	32	32	156 (同)	156 (同)	0	33	
		コガネムシ類	0	0	64	64	128	156 (同)	156 (同)	64	161	
		ハスモンヨトウ	0	32	32	64	128	156 (同)	156 (同)	64	274	
		ハダニ類	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		タノイサヤタマハエ	0	0	0	32	32	0	0	0	0	
		マメヒメサヤムシカ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		マメシクイガ	0	0	0	0	0	0	0	0	17	
		シロイモシマタラメイガ	0	0	0	0	0	0	0	0	22	
		カメムシ類	0	0	45	178	223	156 (同)	156 (同)	45	203	
		ウコンノメイガ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		ナカジロシタバ	2,990	249	249	997	2,741	2,512 (同)	4,963 (同)	1,495	3,249	
		ハスモンヨトウ		249	249	997	2,741	2,512 (同)	4,963 (同)	1,495	3,249	
イモコガ		249	249	0	747	2,512 (同)	4,963 (同)	498	1,958			
じゃがいも	394	疫病	0	0	0	0	0	236 (同)	473	183		
		アブラムシ類	0	0	0	79	79	236 (同)	473	338		
かんきつ	1,290	ニシユウヤホシテントウ	0	0	0	0	0	236 (同)	473	143		
		そうか病(春葉)	0	0	0	72	72	903	903	56		
		温州	0	0	0	143	143	903	1,806	119		
		643	黒点病(果実)	0	0	143	430	903	2,709	143	930	
晩柑	647	かいよう病(春葉)	0	0	0	143	143	903	903	175		
		かいよう病(果実)	0	0	0	72	72	903	903	144		
		日焼け炭疽病	0	0	0	0	0	0	0			

農作物名	作付面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)				計	防除面積 (ha)		被害面積 (ha)	平年発生 面積(ha)	備考	
			甚	多	中	少		実	延				
かんきつ (続き)		ミカンハダニ	0	0	0	359	359	1,290	4,515	0	641		
		ミカンサビダニ	0	0	0	0	0	1,290	4,515	0	0		
		チャノキイロアサミウマ	0	0	0	0	0	1,161	3,483	0	39		
		ミカンハモグリガ	0	0	143	359	502	502	502	753	143	494	
		アブラムシ類	0	72	143	286	501	501	501	501	215	255	
		カメムシ類	0	0	0	387	387	387	387	387	0	486	
		炭疽病	1,380	0	0	81	811	892	1,380	4,830	81	900	
		もち病		0	0	0	81	81	1,380	1,380	0	204	
		網もち病		0	0	0	0	0	1,380	4,830	0	0	
		輪斑病		0	0	0	163	163	1,380	2,760	0	266	
		チャノココクモンハマキ		0	0	0	0	0	1,380	4,830	0	36	
		チャハマキ		0	0	0	81	81	1,380	4,830	0	47	
		チャノホソガ		0	0	0	406	406	1,380	4,830	0	915	
		カンザワハダニ		0	0	184	460	644	1,380	3,450	184	716	
チャノミドリヒメヨコハイ		0	163	324	569	1,056	1,380	4,830	487	0			
チャノキイロアサミウマ		0	0	163	650	813	1,380	4,830	163	852			
クワシロカイカラムシ		81	81	81	243	486	483	725	243	560			
カスミカメ類		0	0	0	0	0	207	207	0	626			
冬春キュウリ (R1.9 ~R2.6)	362	べと病	11	20	49	128	208	344	1,720	80	147		
		炭そ病	0	0	0	0	0	152	304	0	0		
		疫病	0	0	0	0	0	145	145	0	0		
		灰色かび病	0	0	0	0	0	145	145	0	4		
		うどんこ病	5,068	0	12	75	92	362	1,448	17	99		
		褐斑病	0	0	0	14	14	348	1,044	0	37		
		斑点細菌病	0	0	0	0	0	91	182	0	0		
		モザイク病	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		ミナミキイロアザミウマ	0	6	20	96	122	344	2,064	26	141		
		アブラムシ類	0	0	0	0	0	145	145	0	1		



農作物名	作付面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)				計	防除面積 (ha)		被害面積 (ha)	平年発生 面積(ha)	備考
			甚	多	中	少		実	延			
冬春ピーマン (R1.9 ~R2.6)	190	疫	0	0	0	0	0	80	80	0	0	
		斑点病	0	2	2	36	41	152	608	5	48	
		斑点細菌病	0	0	0	0	0	38	38	0	0	
		うどんこ病	0	5	5	35	45	167	501	10	69	
		灰色かび病	0	0	0	0	0	48	96	0	0	
		モザイク病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		アブラムシ類	0	0	0	2	2	95	190	0	6	
		タバコガ	0	0	0	0	0	105	210	0	1	
		ミナミキイロアザミウマ	0	0	0	7	7	184	1,288	0	67	
		ヒラズハナアザミウマ	35	36	25	36	132	184	1,288	96	88	
冬春トマト (R1.9 ~R2.6)	131	疫	0	0	0	2	2	116	464	0	3	
		灰色かび病	0	0	0	0	0	139	278	0	17	
		葉かび病	0	0	2	23	25	108	324	2	19	
		コナジラミ類	2	6	2	61	71	154	1,078	10	56	
		ハモグリバエ類	0	0	0	0	0	126	252	0	6	
		モザイク病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		アブラムシ類	0	0	0	0	0	69	138	0	1	
		ハスモンヨトウ	0	0	0	4	4	69	138	0	11	
		灰色かび病	0	0	0	1	1	48	96	0	4	
		うどんこ病	0	0	0	6	6	55	110	0	23	
冬春イチゴ (R1.9 ~R2.5)	55	炭そ病	0	0	1	4	5	14	28	1	7	
		アブラムシ類	0	0	0	11	11	55	165	0	25	
		ハダニ類	1	2	3	17	22	55	220	5	41	
		ハスモンヨトウ	0	0	1	4	5	55	110	1	7	
		モザイク病	0	0	0	103	103	0	0	0	237	
		アブラムシ類	0	0	0	309	309	639	639	0	707	
秋冬ダイコン (R1.9~12)	1,030	キスジノミハムシ	0	0	0	103	103	206	206	0	137	

8) 有害動植物発生予察事業実施状況

(1) 発表情報一覧(警報、注意報、特殊報、防除情報)

情報の種類	番号	発令月日	対象作物	対象病害虫	情報内容
注意報	1	R2. 4月27日	冬春ピーマン	タバココナジラミ	次ページ以降を参照
	2	5月29日	かんしょ	サツマイモ基腐病	
	3	6月19日	早期水稲	斑点米カメムシ類	
	4	7月17日	普通期水稲	トビイロウンカ	
	5	7月17日	早期飼料稲および飼料用米	トビイロウンカ	
	6	9月1日	普通期水稲	トビイロウンカ	
	7	9月1日	普通期飼料稲および飼料用米	トビイロウンカ	
	8	12月24日	冬春ピーマン	ヒラズハナアザミウマ	
	9	12月24日	冬春ピーマン	うどんこ病	
防除情報	1	4月24日	かんしょ	サツマイモ基腐病	
	2	5月22日	飼料用トウモロコシ他	ツマジロクサヨトウ	
	3	5月29日	施設野菜(きゅうり、ピーマン、トマト、イチゴ)	施設野菜の病害虫(主にアザミウマ類、コナジラミ類、ハダニ類)	
	4	5月29日	さといも	サトイモ疫病	
	5	7月22日	野菜・花き類	ハスモンヨトウ	
	6	9月1日	茶	チャトゲコナジラミ	
	7	10月2日	ピーマン	ヒラズハナアザミウマ	
	8	R3. 1月25日	ピーマン	タバココナジラミ	

各関係機関の長  
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

令和2年度病害虫発生予察注意報第1号について

令和2年度病害虫発生予察注意報第1号を発表したので送付します。

## 令和2年度病害虫発生予察注意報第1号

発生量の増加により被害の発生が懸念されます。  
防除対策の徹底を図りましょう。

- 1 病害虫名 : タバココナジラミ
- 2 作物名 : 冬春ピーマン
- 3 発生地域 : 県下全域
- 4 発生量 : 多
- 5 注意報の根拠

- 1) 4月中旬の巡回調査における発生面積率は45.5%（前年25.0%、平年11.1%）（図1）で平年比多、100葉当たり虫数は3.6頭（前年1.1頭、平年0.6頭）（図2）で平年比多であった。  
発生面積率、100葉当たり虫数ともに過去10年で最も高くなっている。

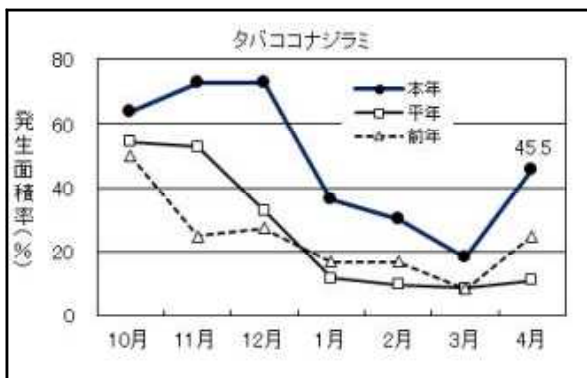


図1 発生面積率の推移

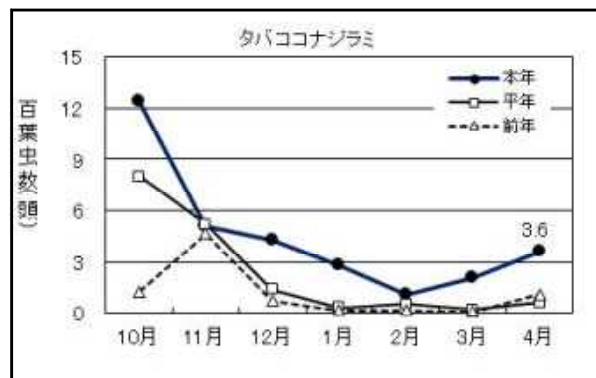


図2 100葉当たり虫数の推移

## 6 防除上の注意

- 1) 多発してからでは防除効果が低くなるため早めに防除する。  
また、薬剤散布後は防除効果に注意を払い、必要に応じて適宜追加防除を行う。  
既に発生が多いほ場では、2～3回の連続散布を行う。
- 2) 有効な薬剤に対する抵抗性の発達を回避する観点から、同一系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を心がける。  
また、抵抗性発現の可能性が低い微生物農薬や、タバココナジラミを物理的に窒息死させる気門封鎖剤を利用する。
- 3) 次作の発生密度低下につなげるために、栽培終了前には残渣・雑草の処理、施設の蒸し込み等により、施設内の本虫の処分対策を徹底する。

## 7 その他

その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病虫害防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。

### (参考)



図3 幼虫と成虫（H15年撮影）



図4 成虫（H15年撮影）

宮崎県総合農業試験場病虫害防除・肥料検査課  
（病虫害防除・肥料検査センター）椎葉、松浦  
TEL：0985-73-6670 FAX：0985-73-2127  
E-mail：byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp

各関係機関の長  
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

令和 2 年度病害虫発生予察注意報第 2 号について

令和 2 年度病害虫発生予察注意報第 2 号を発表したので送付します。

## 令和 2 年度病害虫発生予察注意報第 2 号

昨年に引き続き、本年産サツマイモ栽培において、サツマイモ基腐病の発生が散見され始めました。

今後の発生拡大を防止するため、定期的なほ場の見回りとともに早期の発病株の除去およびほ場全面への薬剤防除を必ず実施しましょう。

1 病害虫名 : サツマイモ基腐病

2 作物名 : かんしょ

3 発生地域 : 県下全域

4 発生量 : ー

### 5 注意報の根拠

(1) 4 月第 4 半旬に青果用かんしょのトンネル早熟栽培（令和 2 年 1 月中旬定植）の複数のほ場（品種：高系 1 4 号）において、初発生が確認された（防除情報第 1 号参照）。

(2) 5 月第 5 半旬には、青果用かんしょの普通栽培（3 月下旬定植）の複数のほ場においても、発病株が確認された（図 1 および 2）。

(3) 昨年発生の少なかった原料用かんしょ産地でも、複数の育苗床において、サツマイモ基腐病の発生が確認されており、定植後のほ場での発生が懸念される。

(4) 梅雨時期は本病の蔓延に好適な環境であり、梅雨前が本病の抑制に重要な時期である。



図1 株がしおれている様子



図2 地際部の黒変状況

## 6 防除上の注意

(1) 本病は、汚染苗や前年の汚染残渣が伝染源となり発病する。初期発病株がほ場全体に広がる二次伝染源となるため、初期発病株の徹底的な除去が、本病の蔓延防止対策として重要である。

定期的にはほ場を見回り、発病株を見つけた場合は、早急に抜き取り、その場でビニル袋などに入れてほ場外に持ち出し、適切に処分する。

(2) 発病株の除去前後は、周辺株への感染を予防するため、銅剤を散布する。また、梅雨前および梅雨明け後にも、ほ場全体への銅剤散布を実施する。

(3) 排水不良のほ場では多発することが懸念されるので、ほ場外への排水を促すため、排水用の溝を必ず設置する。

(4) これから定植する作型については、ベンレート水和剤を用いて苗の消毒を必ず実施する。また、消毒液は充分量を準備し、使用当日に調整したものを用いる。

(5) 採苗の際は、苗床の地際部から5cm以上離して採取し、採苗時のハサミはこまめに消毒（アルコールまたは火炎滅菌）する

## 7 その他

その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。

《連絡先》宮崎県総合農業試験場 病害虫防除・肥料検査課  
（病害虫防除・肥料検査センター） 阿萬・松浦  
TEL：0985-73-6670 FAX：0985-73-2127  
E-mail：byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp

各関係機関の長  
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

令和2年度病害虫発生予察注意報第3号について

令和2年度病害虫発生予察注意報第3号を発表したので送付します。

## 令和2年度病害虫発生予察注意報第3号

# 斑点米カメムシ類の発生が多くなっています。 防除対策の徹底を図りましょう。

病害虫名 斑点米カメムシ類

作物名 早期水稻

1. 発生地域 : 早期水稻栽培地帯
2. 発生時期 : 穂ばらみ期
3. 発生程度 : 多
4. 注意報の根拠

(1) 6月中旬の巡回調査における水田ほ場でのすくい取り調査では、斑点米カメムシ類の発生面積率は48.5%（前年15.1%、平年19.5%）、発生程度（20回振りすくい取り虫数）は1.7頭（前年1.2頭、平年0.6頭）で、いずれも平年に比べて多い発生であった（図1、2）。

(2) 本年の斑点米カメムシ類の発生面積率、発生程度はともに、斑点米の発生により過去10年で最も1等米比率が低かった平成29年産（1等米比率49.6%）よりも、高い状況である（図1、2）。

(3) 6月中旬の巡回調査におけるイタリアンほ場でのすくい取り調査においても、斑点米カメムシ類5種の発生程度（20回振りすくい取り虫数）は69.3頭（前年49.1頭、平年42.6頭）で平年に比べて多い発生であった（図3）。

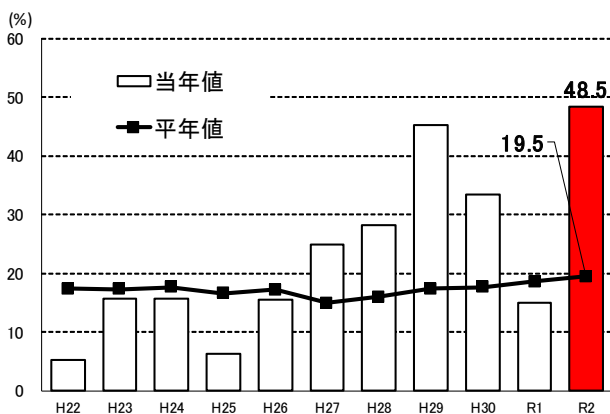


図1 発生面積率の推移

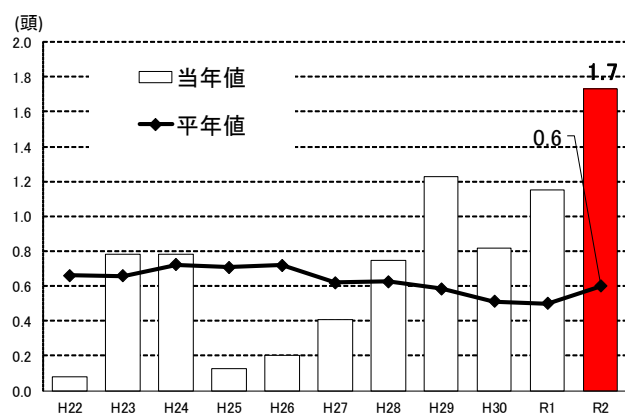


図2 発生程度(20回振りすくい取り虫数)の推移

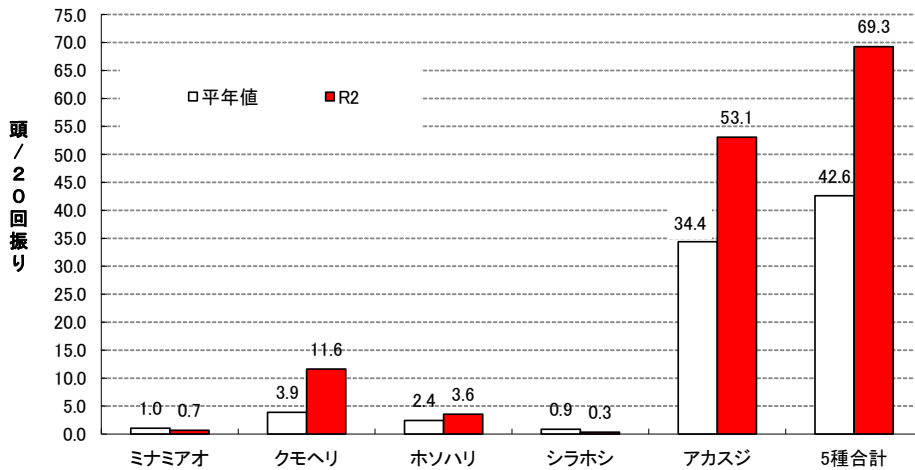


図3 イタリアンほ場での斑点米カメムシ類すくい取り調査結果

### 5. 防除上の注意

- (1) 防除は穂揃期とその7～10日後の2回防除を基本とするが、発生が高密度の場合はさらに追加防除を実施する。
- (2) 地域全体の発生密度を下げるため、可能な限り、広域での一斉防除を実施し、防除効率を高める。
- (3) 農薬を使用する際は、必ず容器ラベルの登録内容を確認すること。
- (4) 散布の際は、周辺の作物の栽培状況を確認し、他の作物へ農薬が飛散しないよう対策を講じる。
- (5) 薬剤等その他の詳細については関係機関に照会すること。

- その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。
- 6月1日から8月31日の3ヶ月間、農薬危害防止運動を実施しています。農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。

《連絡先》

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター 阿萬

TEL：0985-73-6670

Fax：0985-73-7499

E-mail：byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp



6011-1339  
令和2年7月17日

各関係機関の長  
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

令和2年度病害虫発生予察注意報第4号について

令和2年度病害虫発生予察注意報第4号を発表したので送付します。

## 令和2年度病害虫発生予察注意報第4号

**トビイロウンカが多く飛来しています。適期防除の徹底に努めましょう。**

病害虫名 トビイロウンカ

作物名 普通期水稻

1. 発生地域 県内全域
2. 発生程度 多

### 3. 発生状況と注意報の根拠

(1) トビイロウンカの本年度の初飛来は6月27日であった。その後、7月1～2半旬にかけて、まとまった飛来が認められた。6月1半旬から7月3半旬における県内予察灯のトビイロウンカの累積誘殺数合計は674頭（平年20.4頭、前年70頭）で過去10年で最も多い（図1）。

(2) 7月上～中旬の普通期水稻巡回調査（41地点）における発生面積率は24.4%（平年3.6%、前年4.9%）、株当たり虫数は0.022頭（平年0.004頭、前年0.002頭）であった。発生面積率、株当たり虫数いずれも平年比多で、過去10年間で最も多い（図2、図3）。

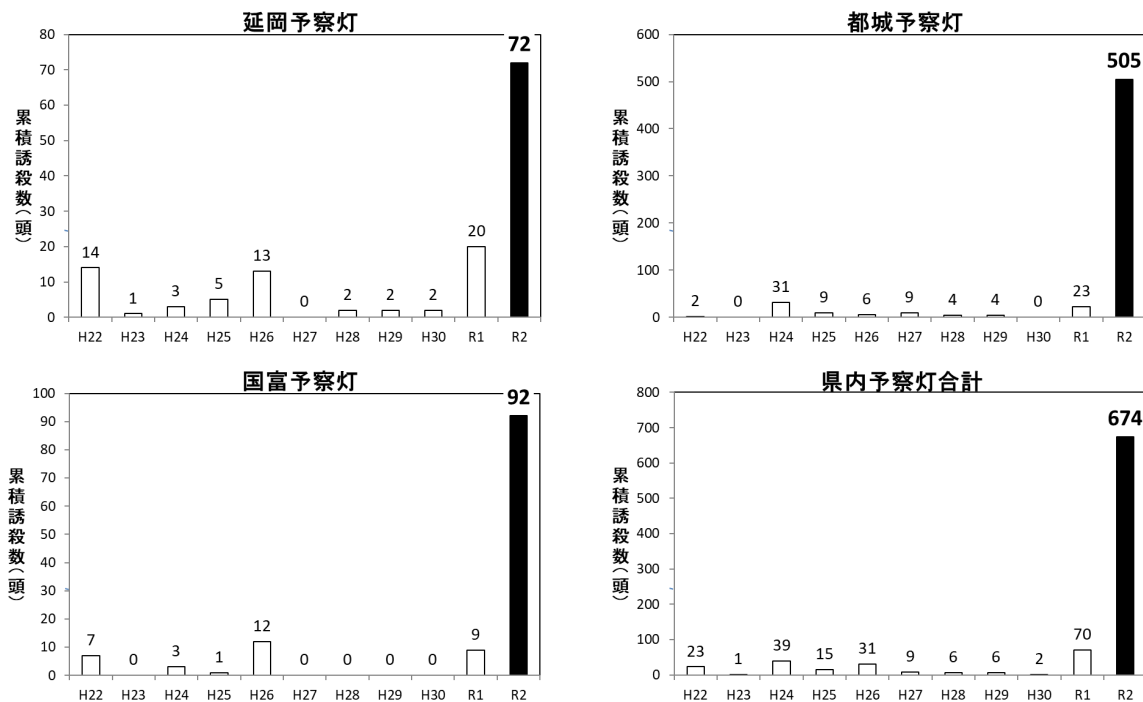


図1 県内各予察灯におけるトビイロウンカの累積誘殺数（6月1半旬～7月3半旬）

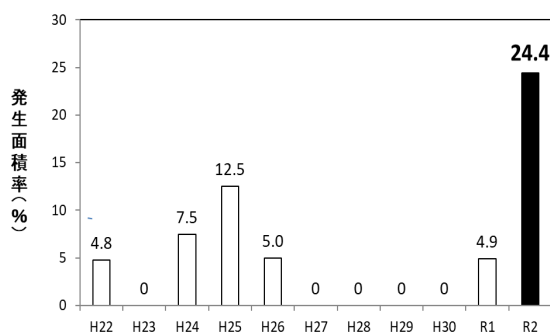


図2 過去10年間の発生面積率の推移

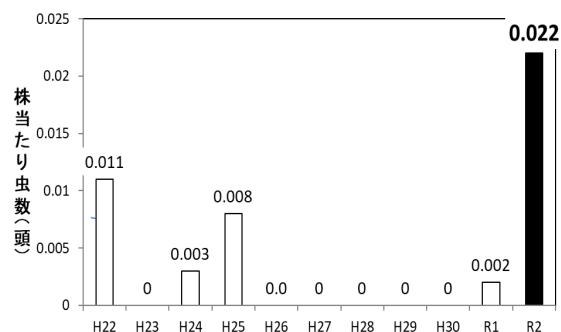


図3 過去10年間の株当たり虫数の推移

#### 4. 防除上の注意

(1) 複数回の飛来が認められるが、日別の誘殺状況及び箱施薬剤の残効を考慮し、7月5日頃を重点防除が必要な飛来波とした。

7月5日飛来分を主要飛来と想定した場合、1回目の防除適期（幼虫期前半）は7月4半旬～6半旬頃、2回目の防除適期は8月3半旬～5半旬（高千穂は8月4半旬～6半旬）と予想される（別紙参照）。防除を行う際は地域毎の防除適期内に行うことが望ましい。ただし、ほ場によって発生状況にばらつきがあることから、ほ場内をよく観察し、幼虫を多数確認した場合は速やかに防除を行う。

(2) また、本年は断続的な飛来があっていることから、防除を実施したほ場でも、株元を確認し、生息密度が高い場合は追加防除を行う。

(3) トビイロウンカは株元に生息し、低密度であっても、その後の増殖率が高く坪枯れを引き起こすので、薬剤は株元に十分到達するように散布する。ただし、薬剤ごとの総使用回数や使用時期（収穫前日数）には十分に注意する。

(4) 薬剤の散布に当たっては、ミツバチや魚介類など周辺動植物及び環境へ影響がないよう、飛散防止を徹底するとともに、事前に周辺の住民や養蜂業者等へ薬剤散布の連絡を行なうなど、危害防止に努める。

(5) 飼料用米及び飼料用稲の防除に当たっては、「稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアル」及び「飼料として使用する粳米への農薬の使用について」、「飼料の有害物質の指導基準及び管理基準について」に沿って、適期防除に努める。

※その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。

※6月1日から8月31日の3か月間、農薬危害防止運動を実施しています。ラベル表示の内容を十分に確認し、農薬使用基準を守って農薬散布を行い、危害防止に努めましょう。

<連絡先>  
 宮崎県病害虫防除・肥料検査センター 阿萬  
 TEL:0985-73-6670 FAX:0985-73-2127  
 ホームページ : <http://www.jppn.ne.jp/miyazaki>  
 E-mail : [byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp](mailto:byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp)

### 過去のトビイロウンカによる被害状況



写真1. トビイロウンカによる坪枯れ (H25)  
(※被害がほ場全体に拡がり、反枯れ状態となっている)

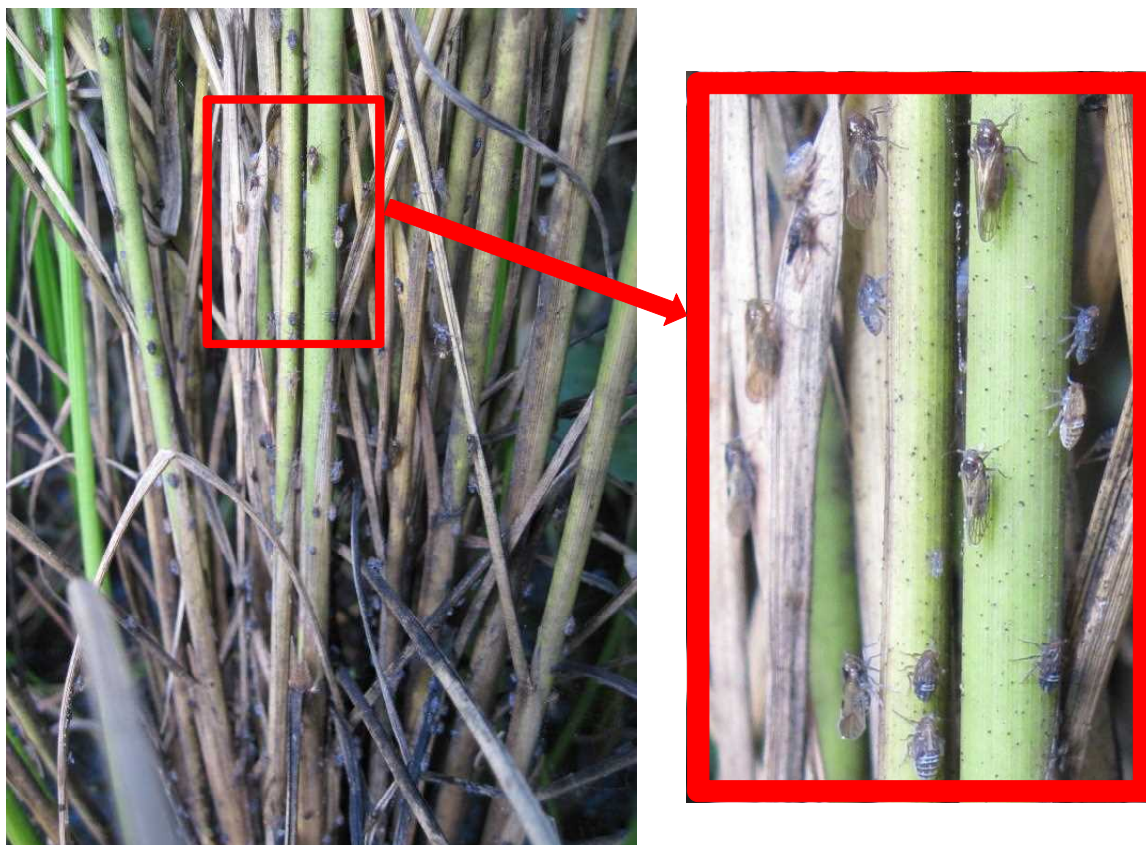


写真2. 株元を集中加害するトビイロウンカの成幼虫 (H24)

# 2020 トビロウソウの発生世代予測 (7月5日飛来)

別紙

防除適期



各発生世代別の防除適期は次のように予測されます

地域	飛来時期	第1世代の防除適期	第2世代の防除適期	第3世代の防除適期
2020宮崎	7月5日	7月20日 ~ 7月27日	8月14日 ~ 8月21日	9月10日 ~ 9月19日
2020都城	7月5日	7月21日 ~ 7月28日	8月15日 ~ 8月23日	9月12日 ~ 9月21日
2020小林	7月5日	7月21日 ~ 7月28日	8月16日 ~ 8月23日	9月13日 ~ 9月22日
2020延岡	7月5日	7月21日 ~ 7月29日	8月16日 ~ 8月24日	9月13日 ~ 9月23日
2020高千穂	7月5日	7月22日 ~ 7月30日	8月20日 ~ 8月28日	9月23日 ~ 10月7日

各世代発生始期予測

世代	Stage	地域別発生始期		
		2020宮崎	2020都城	2020小林
初期侵入世代	成虫	7月5日	7月5日	7月5日
第1世代	卵	7月11日	7月12日	7月12日
	幼虫	7月19日	7月19日	7月20日
	成虫	7月30日	7月31日	8月1日
第2世代	卵	8月6日	8月7日	8月7日
	幼虫	8月13日	8月14日	8月15日
	成虫	8月25日	8月26日	8月27日
第3世代	卵	8月31日	9月2日	9月2日
	幼虫	9月8日	9月10日	9月11日
	成虫	9月23日	9月25日	9月27日

※7月5日飛来を起算日とした。気温は7月9日までは本年値、それ以降は各地域の平年値を参考にした。  
 なお、実際の世代交代は今後の気温の推移等により異なる場合がある。※発生世代予測は「有効積算温度による海外飛来性害虫の発生予測支援システムVer. 6.00 (S.TERAMOTO)」より算出。

6011-1340  
令和2年7月17日

各関係機関の長  
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

令和2年度病害虫発生予察注意報第5号について

令和2年度病害虫発生予察注意報第5号を発表したので送付します。

## 令和2年度病害虫発生予察注意報第5号

**トビイロウンカが多く飛来しています。適期防除の徹底及び適期収穫に努めましょう。**

病害虫名 トビイロウンカ

作物名 飼料用米及び飼料用稲（早期作型）

1. 発生地域 県内全域

2. 発生程度 多

3. 発生状況と注意報の根拠

(1) トビイロウンカの本年度の初飛来は6月27日であった。その後、7月1～2半旬にかけて、まとまった飛来が認められた。6月1半旬から7月3半旬における県内予察灯のトビイロウンカの累積誘殺数合計は674頭（平年20.4頭、前年70頭）で過去10年で最も多い（図1）。

(2) 7月上～中旬の早期水稲巡回調査（33地点）における発生面積率は9.1%（平年2.1%、前年6.1%）で平年比多、株当たり虫数は0.004頭（平年0.001頭、前年0.002頭）で平年比やや多の発生であった。発生面積率、発生程度ともに、過去10年間で2番目に高い（図2、図3）。

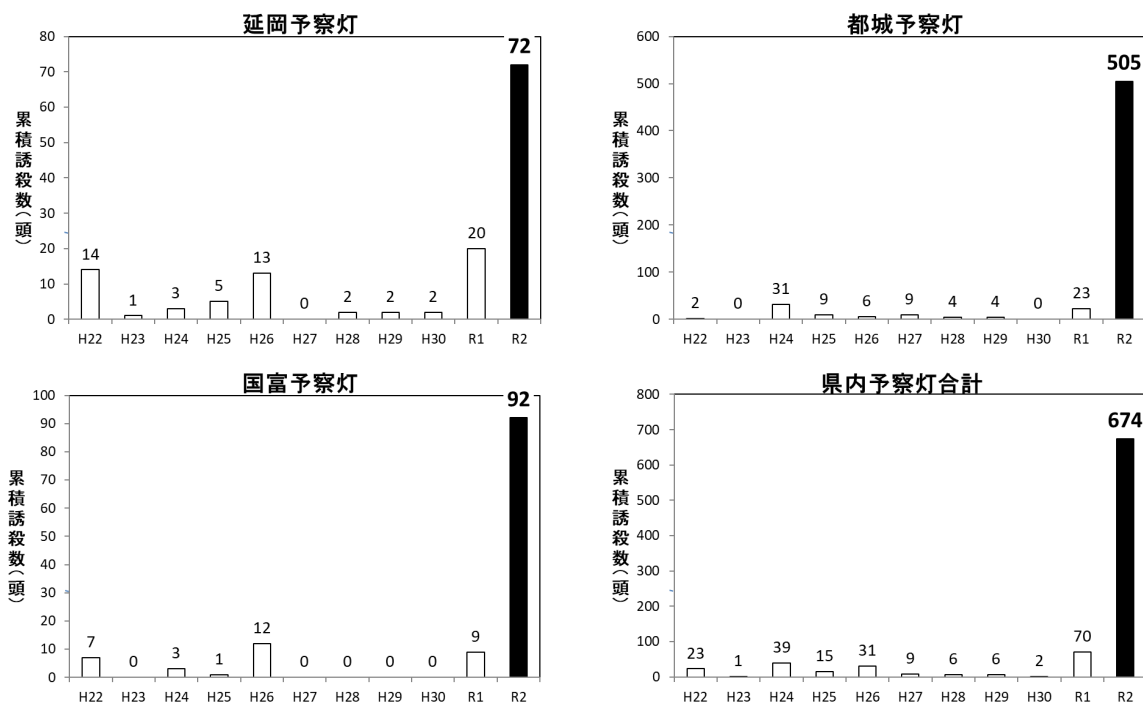


図1 県内各予察灯におけるトビイロウンカの累積誘殺数（6月1半旬～7月3半旬）

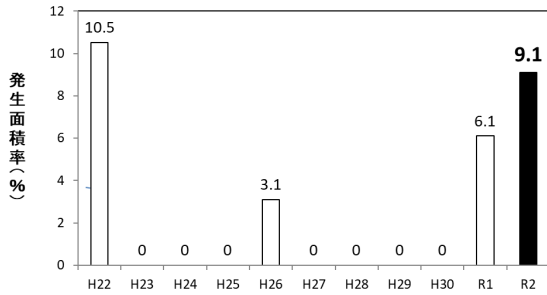


図2 過去10年間の発生面積率の推移

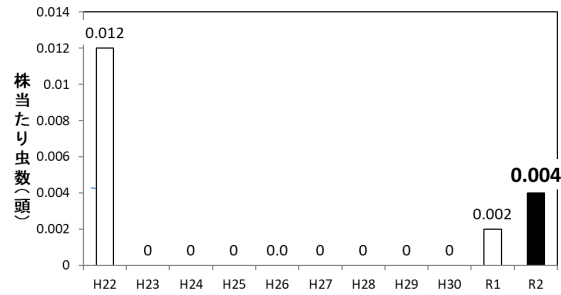


図3 過去10年間の株当たり虫数の推移

#### 4. 防除上の注意

(1) 令和元年産の飼料用米及び飼料用稲では、収穫が遅れたほ場で坪枯れが多く確認されたため適期収穫に努める。

(2) 複数回の飛来が認められるが、日別の誘殺状況を考慮し、7月5日頃を重点防除が必要な飛来波とした。

7月5日飛来分を主要飛来と想定した場合、第1世代の防除適期（幼虫期前半）は7月4半旬～6半旬頃、第2世代の防除適期は8月3半旬～5半旬と予想される（別紙参照）。防除を行う際は地域毎の防除適期内に行うことが望ましい。ただし、ほ場によって発生状況にばらつきがあることから、ほ場内をよく観察し、幼虫を多数確認した場合は速やかに防除を行う。

(3) また、本年は断続的な飛来があっていることから、防除を実施したほ場でも、株元を確認し、生息密度が高い場合は追加防除を行う。

(4) トビイロウンカは株元に生息し、低密度であっても、その後の増殖率が高く坪枯れを引き起こすので、薬剤は株元に十分到達するよう散布する。ただし、薬剤ごとの総使用回数や使用時期（収穫前日数）には十分に注意する。

(5) 薬剤の散布に当たっては、ミツバチや魚介類など周辺動植物及び環境へ影響がないよう、飛散防止を徹底するとともに、事前に周辺の住民や養蜂業者等へ薬剤散布の連絡を行なうなど、危害防止に努める。

(6) 飼料用米及び飼料用稲の防除に当たっては、「稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアル」及び「飼料として使用する粳米への農薬の使用について」、「飼料の有害物質の指導基準及び管理基準について」に沿って、適期防除に努める。

※その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。

※6月1日から8月31日の3か月間、農薬危害防止運動を実施しています。ラベル表示の内容を十分に確認し、農薬使用基準を守って農薬散布を行い、危害防止に努めましょう。

<連絡先>  
 宮崎県病害虫防除・肥料検査センター 阿萬  
 TEL:0985-73-6670 FAX:0985-73-2127  
 ホームページ : <http://www.jpnpn.ne.jp/miyazaki>  
 E-mail : [byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp](mailto:byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp)

6011-1446  
令和2年9月1日

各関係機関の長  
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

令和2年度病害虫発生予察注意報第6号について

令和2年度病害虫発生予察注意報第6号を発表したので送付します。

### 令和2年度病害虫発生予察注意報第6号

**令和2年7月17日付けの注意報発表後も、トビイロウンカの発生量は増加しており、今後、坪枯れが多発する恐れがあります。適期防除の徹底に努めましょう。**

病害虫名 トビイロウンカ

作物名 普通期水稻

1. 発生地域 県内全域

2. 発生程度 多

#### 3. 発生状況と注意報の根拠

(1) 県では主食用普通期水稻で、病害虫発生予察注意報第4号(令和2年7月17日付)を発表し、トビイロウンカに対する防除の徹底を啓発したところである。

しかし、8月下旬に実施した巡回調査の結果、7月中旬以降、発生地域は拡大し、生息密度も高まっている(図1、図2)。

(2) 8月下旬の巡回調査(41地点)における発生面積率は65.9%(平年59.1%、前年100%)で平年並、株当たり虫数は10.69頭(平年1.41頭、前年4.96頭)で平年比多の発生であった(図1、図2)。なお、41地点中1地点では、株当たり240頭以上の甚発生が確認された。

(3) また、短翅型雌成虫(産卵数が多い)の株当たり虫数は0.07頭となり、過去10年間で、3番目に多い(図3)。このため、今後生息密度が急激に高まる恐れがある。

(4) 鹿児島地方気象台が8月27日に発表した向こう1か月の気温(8月29日～)は、高い確率が80%と予想されていることから、本種の増殖に好適な状況が続くと考えられる。

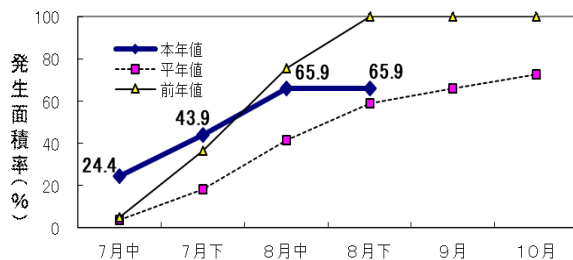


図1 発生面積率の月別推移

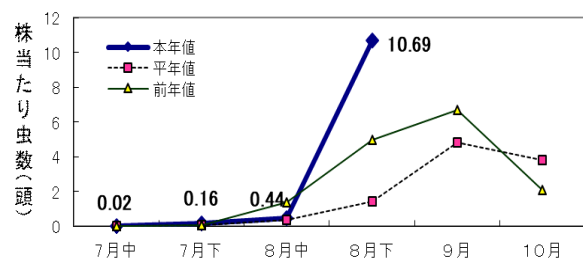


図2 株当たり虫数の月別推移

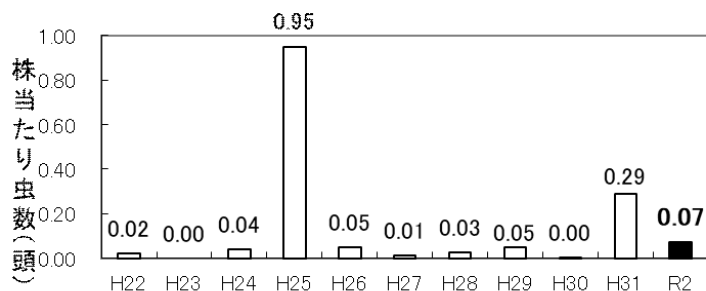


図3 トビイロウンカの株当たり短翅型雌成虫数の年度別推移(8月下旬)

#### 4. 防除上の注意

(1) トビイロウンカは水田に定着後2～3世代増殖を繰り返し、急激な密度上昇により収穫期頃に大きな被害を及ぼす。

トビイロウンカの飛来が多く確認された7月上旬を主要飛来と想定した場合、第3世代の防除適期(幼虫期前半)は9月中旬以降と予想されるが(別紙参照)、これまで世代交代が繰り返されたことにより、ほ場内に全ての世代(卵～成虫)が確認されている。

(2) 本田防除を行っていないほ場については、防除適期にかかわらず直ちに防除を行う。

既に本田防除を行ったほ場においても、その後の発生状況を確認し、密度が高ければ直ちに追加防除を行うなど、防除の徹底を図る。

(3) トビイロウンカは株元に生息するため、**薬剤は株元に十分到達するよう散布**する。

(4) 薬剤の散布に当たっては、薬剤ごとの総使用回数や使用時期(収穫前日数)に十分注意する。また、ミツバチや魚介類など周辺動植物及び環境へ影響がないよう、飛散防止を徹底するとともに、事前に周辺の住民や養蜂業者等へ薬剤散布の連絡を行うなど、危害防止に努める。

※その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局(農業改良普及センター)、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。

<連絡先>

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター 阿萬  
 TEL:0985-73-6670 FAX:0985-73-2127  
 ホームページ : <http://www.jppn.ne.jp/miyazaki>  
 E-mail : [byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp](mailto:byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp)



【参考資料】



写真1 坪枯れの発生状況（2019年8月29日撮影）



写真2 株元を加害するトビイロウンカ（2019年8月29日撮影）

# 2020 トビロウソウの発生世代予測 (7月5日飛来)

別紙

防除適期



各発生世代別の防除適期は次のように予測されます

地域	飛来時期	第1世代の防除適期	第2世代の防除適期	第3世代の防除適期
2020宮崎	7月5日	7月23日 ~ 7月30日	8月22日 ~ 8月29日	9月18日 ~ 9月27日
2020都城	7月5日	7月23日 ~ 7月31日	8月27日 ~ 9月3日日	9月24日 ~ 10月5日
2020小林	7月5日	7月23日 ~ 8月2日	8月27日 ~ 9月3日	9月26日 ~ 10月6日
2020延岡	7月5日	7月24日 ~ 7月31日	8月22日 ~ 8月29日	9月19日 ~ 9月28日
2020高千穂	7月5日	7月24日 ~ 8月2日	8月27日 ~ 9月4日	10月2日 ~ 10月21日

各世代発生始期予測

世代	Stage	地域別発生始期		
		2020宮崎	2020都城	2020小林
初期侵入世代	成虫	7月5日	7月5日	7月5日
第1世代	卵	7月11日	7月12日	7月12日
	幼虫	7月21日	7月21日	7月22日
	成虫	8月2日	8月5日	8月3日
第2世代	卵	8月10日	8月13日	8月14日
	幼虫	8月20日	8月25日	8月25日
	成虫	9月1日	9月6日	9月7日
第3世代	卵	9月8日	9月13日	9月14日
	幼虫	9月16日	9月22日	9月23日
	成虫	10月2日	10月10日	10月12日

※7月5日にまとまった飛来が確認されたため、7月5日飛来を主要飛来と想定し、起算日とした。気温は8月26日までは本年値、それ以降は各地域の平年値を参考にした。

なお、実際の世代交代は今後の気温の推移等により異なる場合がある。

※発生世代予測は「有効積算温度による海外飛来性害虫の発生予測支援システムVer. 6.00 (S.TERAMOTO)」より算出。

6011-1447  
令和2年9月1日

各関係機関の長  
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

令和2年度病害虫発生予察注意報第7号について

令和2年度病害虫発生予察注意報第7号を発表したので送付します。

### 令和2年度病害虫発生予察注意報第7号

**急激なトビイロウンカの増加がみられ、昨年同様、特に飼料用米及び飼料用稲での坪枯れが懸念されますので、適期防除の徹底に努めましょう。**

病害虫名 トビイロウンカ  
作物名 飼料用米及び飼料用稲（普通作型）

1. 発生地域 県内全域

2. 発生程度 多

3. 発生状況と注意報の根拠

- (1) 県内に設置した予察灯では、7月1～2半旬にかけて、トビイロウンカのまとまった飛来が確認され、その後も断続的に誘殺が確認されている。7月1半旬から8月3半旬における県内予察灯のトビイロウンカの累積誘殺数合計は、727頭（平年30.4頭、前年93頭）で過去10年で最も多い（図1）。
- (2) 8月下旬の主食用普通期水稻巡回調査（41地点）における発生面積率は65.9%（平年59.1%、前年100%）で平年並、株当たり虫数は10.69頭（平年1.41頭、前年4.96頭）で平年比多の発生であった（図2、図3）。なお、41地点中1地点では、株当たり240頭以上の甚発生が確認された。
- (3) また、短翅型雌成虫（産卵数が多い）の株当たり虫数は0.07頭となり、過去10年間で、3番目に多い（図4）。このため、今後、生息密度が急激に高まる恐れがある。
- (4) 鹿児島地方气象台が8月27日に発表した向こう1か月の気温（8月29日～）は、高い確率が80%と予想されていることから、本種の増殖に好適な状況が続くと考えられる。

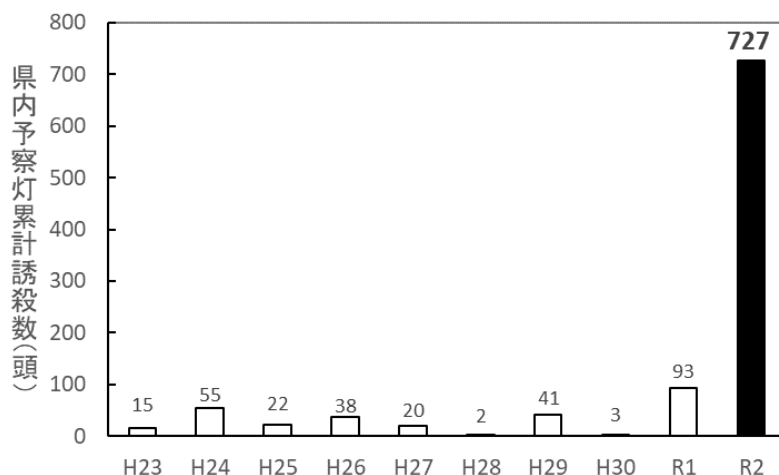


図1 県内各予察灯におけるトビイロウンカの累積誘殺数（7月1半旬～8月3半旬）

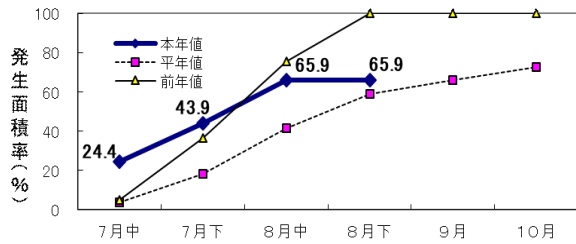


図2 発生面積率の月別推移

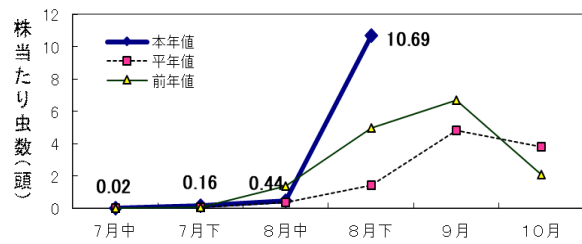


図3 株当たり虫数の月別推移

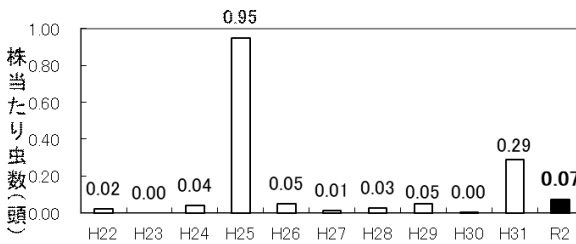


図4 トビイロウンカの株当たり短翅型雌成虫数の年度別推移(8月下旬)

#### 4. 防除上の注意

(1) トビイロウンカは水田に定着後2～3世代増殖を繰り返し、急激な密度上昇により収穫期頃に大きな被害を及ぼす。令和元年産の飼料用米及び飼料用稲においても、**坪枯れが多く確認された。**

トビイロウンカの飛来が多く確認された7月上旬を主要飛来と想定した場合、第3世代の防除適期(幼虫期前半)は、9月中旬以降と予想されるが(別紙参照)、これまで世代交代が繰り返されたことにより、**ほ場内に全ての世代(卵～成虫)が確認されている。**

(2) **本田防除を行っていないほ場については、防除適期にかかわらず直ちに防除を行う。**また、**防除が困難なほ場は早期収穫を行う。**

既に本田防除を行ったほ場においても、その後の発生状況を確認し、密度が高ければ直ちに追加防除を行うなど、防除の徹底を図る。

(3) トビイロウンカは株元に生息するため、**薬剤は株元に十分到達するよう散布する。**

(4) 薬剤の散布に当たっては、薬剤ごとの総使用回数や使用時期(収穫前日数)に十分注意する。また、ミツバチや魚介類など周辺動植物及び環境へ影響がないよう、飛散防止を徹底するとともに、事前に周辺の住民や養蜂業者等へ薬剤散布の連絡を行うなど、危害防止に努める。

(5) 飼料用米及び飼料用稲の防除に当たっては、「稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアル」及び「飼料として使用する粳米への農薬の使用について」、「飼料の有害物質の指導基準及び管理基準について」に沿って、適期防除に努める。

※その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局(農業改良普及センター)、総合農業試験場生物環境部、病虫害防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。

<連絡先>  
 宮崎県病虫害防除・肥料検査センター 阿萬  
 TEL:0985-73-6670 FAX:0985-73-2127  
 ホームページ: <http://www.jppn.ne.jp/miyazaki>  
 E-mail: [byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp](mailto:byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp)

各関係機関の長  
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

令和 2 年度病害虫発生予察注意報第 8 号について

令和 2 年度病害虫発生予察注意報第 8 号を発表したので送付します。

## 令和 2 年度病害虫発生予察注意報第 8 号

ピーマンのヒラズハナアザミウマの  
発生量が増加し被害果の発生が懸念されます。  
防除対策の徹底を図りましょう。

- 1 病害虫名 : ヒラズハナアザミウマ
- 2 作物名 : 冬春ピーマン
- 3 発生地域 : 県下全域
- 4 発生量 : 多
- 5 注意報の根拠

1) 12月中旬の巡回調査における発生面積率は91.0%（前年91.0%、平年60.9%）（図1）で平年比多、10花当たり虫数は34.6頭（前年21.6頭、平年9.0頭）（図2）で平年比多、寄生花率は45.8%（前年57.6%、平年25.4%）（図3）で平年比やや多の発生であった。

10花当たり虫数については過去10年で最も高くなっている。

2) 当センターが実施した各種殺虫剤の感受性調査の結果、県内のピーマンから採集した個体群は多くの殺虫剤において感受性が低下していた（令和2年度病害虫防除情報第7号参照）。

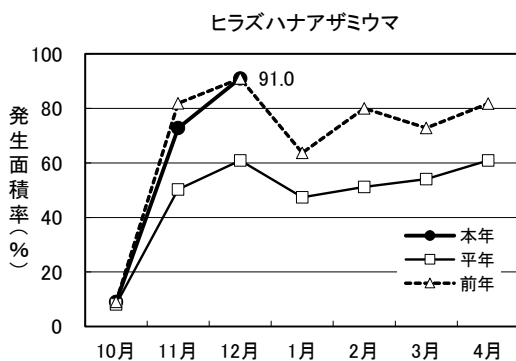


図 1 発生面積率の推移

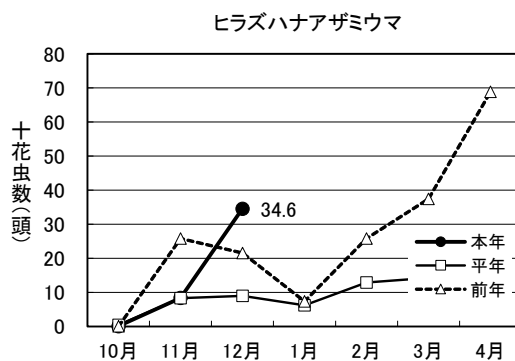


図 2 10花当たり虫数の推移

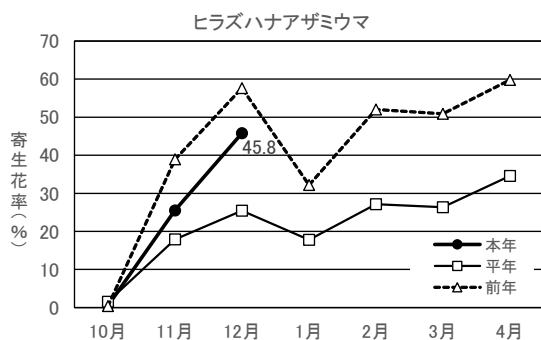


図3 寄生花率の推移

## 6 防除上の注意

- 1) 青色粘着トラップを生長点付近に300～500枚/10a設置し、誘殺による密度低下を図る。ただし、株が繁茂する前に設置しないと効果が十分に得られない場合があるので、早めに設置する。天敵カスミカメ類との併用はしない。
- 2) 本虫が多発すると果実への被害が見られる場合がある。特にミナミキイロアザミウマに対し天敵スワルスキーカブリダニを導入しているほ場において、ヒラズハナアザミウマの発生が多い傾向にある。高密度になると防除が困難となるため、低密度のうちに防除を行う。また、天敵の導入施設では天敵に対して影響の少ない薬剤・展着剤を選択する。
- 3) ピーマンの花数が減少する時期が防除適期となるので、この時期を逃さず、防除の徹底を図る。
- 4) 本虫は主に花の内部に生息することから、薬剤防除は薬液が花の内部にしっかり付着するように行う。また、花粉が薬液をはじくことから、薬剤の付着性を高めるために乳剤以外を使用する場合は必ず展着剤や気門封鎖剤を加用する。
- 5) 本虫は、施設内で卵・幼虫・蛹・成虫が混在し、特に卵と蛹には薬剤がかかりにくい。そのため少なくとも7日間隔で3回の連続防除を行い、多発時は更に連続した防除を行う。
- 6) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤のローテーション散布に努める。

宮崎県総合農業試験場病害虫防除・肥料検査課  
 (病害虫防除・肥料検査センター) 椎葉、松浦  
 TEL : 0985-73-6670 FAX : 0985-73-2127  
 E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp

各関係機関の長  
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

令和2年度病害虫発生予察注意報第9号について

令和2年度病害虫発生予察注意報第9号を発表したので送付します。

## 令和2年度病害虫発生予察注意報第9号

ピーマンのうどんこ病が増加しています。  
防除対策の徹底を図りましょう。

- 1 病害虫名 : うどんこ病
- 2 作物名 : 冬春ピーマン
- 3 発生地域 : 県下全域
- 4 発生量 : やや多
- 5 注意報の根拠

- 1) 12月中旬の巡回調査における発生面積率は54.6%（前年18.2%、平年33.1%）（図1）で平年比多、発病葉率は5.3%（前年3.8%、平年4.0%）（図2）で平年比やや多であった。

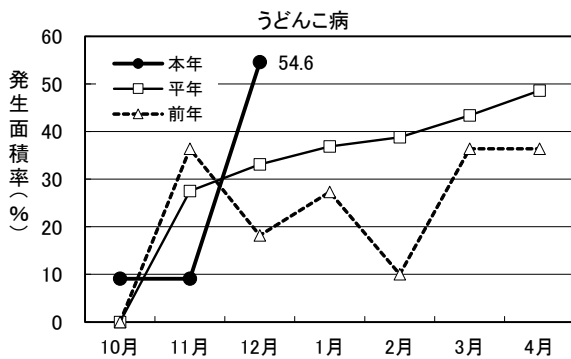


図1 発生面積率の推移

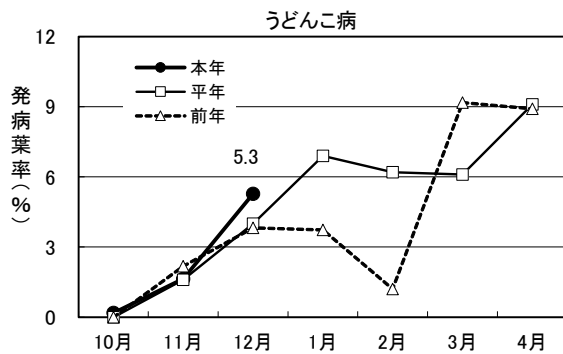


図2 発病葉率の推移

## 6 防除上の注意

- 1) 病勢が進展してからでは防除効果が低くなるので、発病を確認したら早めに防除する。
- 2) 上位葉への進展が見られるなど発病程度の激しい場合は1回の防除だけでは防除効果が現れにくいことがあるため、1週間間隔で2回以上の防除を実施する。

- 3) ピーマンのうどんこ病は他の作物のうどんこ病と異なり内部寄生性のため薬剤の効果が現れにくいので、浸透移行性のある薬剤を防除体系に組み入れる。
- 4) 草勢の低下は本病の発生・蔓延を助長するので、収穫遅れや追肥の遅れ、灌水不足にならないよう管理をする。
- 5) 薬液の付着率を向上させるために、生育に影響の無い下部の茎葉はできるだけ除去する。
- 6) うどんこ病は15～28℃のやや乾燥した条件で発病しやすいので、ハウス内を乾燥させすぎないように管理する。
- 7) 耐性菌の発生を防ぐために同一薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤のローテーション散布に努める。

宮崎県総合農業試験場病害虫防除・肥料検査課  
(病害虫防除・肥料検査センター) 椎葉、松浦  
TEL : 0985-73-6670 FAX : 0985-73-2127  
E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp



各関係機関の長 殿  
各病害虫防除員

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

## 令和2年度病害虫防除情報第1号

サツマイモ基腐病について、各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

**本年産サツマイモ栽培においてサツマイモ基腐病の発生が確認されました。**

**今後の発生拡大が懸念されますので、発病株の除去や薬剤防除など適切な対策を実施しましょう。**

- 1 作物名      かんしょ  
2 病害虫名    サツマイモ基腐病

### 3 発生状況(経過)

- (1) 4月4半旬に青果用サツマイモのトンネル早熟栽培(1月中旬定植)の複数のほ場(品種:高系14号)において、サツマイモ基腐病の発生が確認された(図1)。



図1 地際部の黒変状況

### 4 防除上の注意

- (1) 定期的にはほ場を見回り、発病株を見つけた場合は、早急に抜き取りほ場外に持ち出す。持ち出した発病株は適切に処分する。
- (2) 発病株の除去前後は、周辺株への感染を予防するため、銅剤を散布する。
- (3) 排水不良のほ場では多発することが懸念されるので、ほ場外への排水を促すため、排水用の溝を必ず設置する。
- (4) これから定植する作型については、ベンレート水和剤を用いて苗の消毒を必ず実施する。また、消毒液は充分量を準備し、使用当日に調整したものを用いる。
- (5) 採苗の際は、苗床の地際部から5cm以上離して採取し、採苗時のハサミはこまめに消毒(アルコールまたは火炎滅菌)する

《連絡先》宮崎県総合農業試験場 病害虫防除・肥料検査課  
(病害虫防除・肥料検査センター) 阿萬・松浦  
TEL: 0985-73-6670 FAX: 0985-73-2127  
E-mail: byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp

各関係機関の長 殿  
各病害虫防除員

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

## 令和2年度病害虫防除情報第2号

ツマジロクサヨトウについて、各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

**ツマジロクサヨトウの幼虫による飼料用トウモロコシの食害が確認されました。飼料用トウモロコシ等のほ場では今後の発生に注意して適切な防除を行ってください。**

**1 作物名** 飼料用トウモロコシ、ソルガム、スイートコーン

**2 病害虫名** ツマジロクサヨトウ

### 3 発生状況(経過)

(1) 県内6ヶ所に設置しているフェロモントラップ調査において、4月に1頭(三股町)、5月に4頭(都城市、西都市)の誘殺が確認されている(表1)。

(2) 北諸県地域(都城市)の4月播種の飼料用トウモロコシ1ほ場において、若齢幼虫(図1)と食害が確認された(図2)。

当該ほ場(栽培面積1ha)では、ほ場内1地点の10株程度に食害が認められており、被害程度は極めて低い(5月15日現在)。

表1 宮崎県内のツマジロクサヨトウフェロモントラップへの誘殺頭数(5月22日現在)

設置地点	3月	4月	5月
宮崎市 佐土原	0	0	0
宮崎市 田野	0	0	0
都城市 母智丘	0	0	2
三股町 蓼池	0	1	0
西都市 茶臼原	0	0	2
新富町 新田	0	0	0

※トラップ設置日:3月10日



図1 県内の飼料用トウモロコシで採取された若齢幼虫（5月15日採取）



図2 県内の飼料用トウモロコシで確認された食害（左：全体、右：拡大）  
（5月15日撮影）

#### 4 防除上の注意

- (1) 生育初期に多発すると減収につながると考えられるので、生育初期からほ場をよく見回り、幼虫と食害の早期発見に努め、発生を確認した場合は、農薬による防除を実施する。
- (2) 発生ほ場においては、ツマジロクサヨトウの防除に使用できる農薬の散布を行う。使用農薬については農水省ホームページ（[https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/keneki/k\\_kokunai/tumajiro.html](https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/keneki/k_kokunai/tumajiro.html)）を参考にする。  
もしくは西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会する。
- (3) 農薬の使用にあたっては、散布は無風又は風が弱い時に行うなど近隣に影響が少ない天候や時間帯を選び、風向、防除器具のノズルの向き等にも十分注意するとともに、隣接農作物の栽培者に対して散布予定農薬の種類や散布時期等を事前に連絡するなど、農薬の飛散（ドリフト）に留意する。

《連絡先》宮崎県総合農業試験場 病害虫防除・肥料検査課  
（病害虫防除・肥料検査センター） 松浦・椎葉  
TEL：0985-73-6670 FAX：0985-73-2127  
E-mail：byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp

各関係機関の長  
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

## 令和2年度病害虫防除情報第3号

施設野菜の病害虫対策について、各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

### 栽培終了時の蒸し込みと残さ処理を適切に行い、次期作付けのための病害虫対策を徹底しましょう。

- 1 作物名 施設野菜（きゅうり、ピーマン、トマト、イチゴ）
- 2 病害虫名 施設野菜の病害虫（主にアザミウマ類、コナジラミ類、ハダニ類、土壌病害虫）
- 3 発生状況（経過）

施設野菜の4月の巡回調査結果は以下の通りであった（イチゴは3月調査）。

#### （1）冬春きゅうり

##### ミナミキイロアザミウマ（10月～4月の発生程度：平年並）

4月：発生面積率：66.6%（前年62.5%、平年69.4%） 平年並  
100葉当たり虫数：54.3頭（前年48.3頭、平年196.3頭） 平年よりやや少

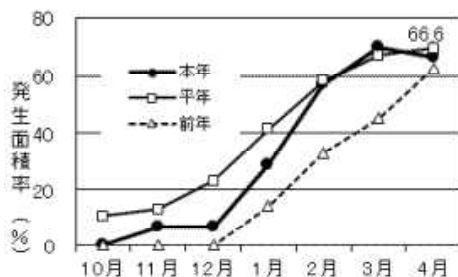


図1 発生面積率の推移

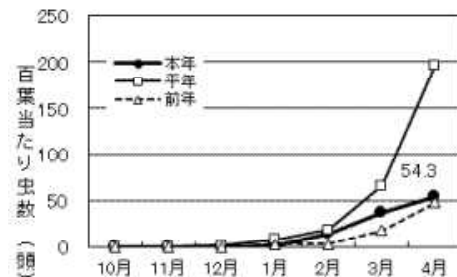


図2 100葉当たり虫数の推移

##### 黄化えそ病（MYSV）（10月～4月の発生程度：平年より多）

4月：発生面積率：22.2%（前年12.5%、平年15.3%） 平年よりやや多  
発病株率：3.3%（前年0.0%、平年0.3%） 平年より多

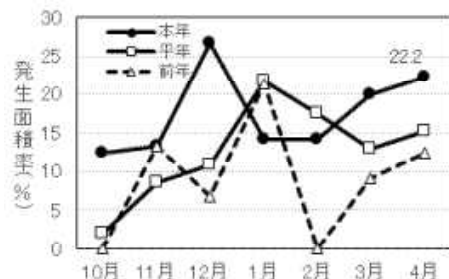


図3 発生面積率の推移

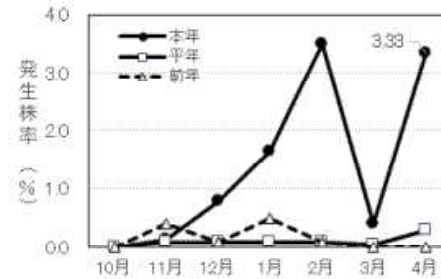


図4 発病株率の推移

## (2) 冬春ピーマン

ミナキイロアザミウマ (10月～4月の発生程度：平年より少)

4月：発生面積率：0.0% (前年8.3%、平年41.9%)

10花当たり虫数：0.0頭 (前年0.3頭、平年1.9頭)

平年より少

平年より少

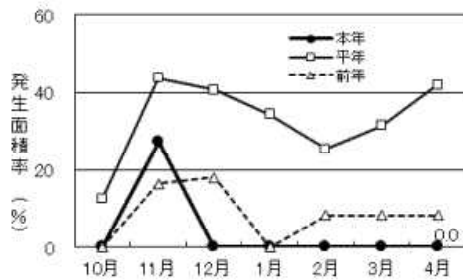


図5 発生面積率の推移

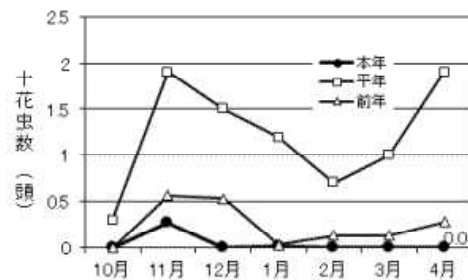


図6 10花当たり虫数の推移

ヒラズハナアザミウマ (10月～4月の発生程度：平年より多)

4月：発生面積率：81.8% (前年75.0%、平年58.1%)

10花当たり虫数：68.9頭 (前年17.5頭、平年17.8頭)

平年より多

平年より多

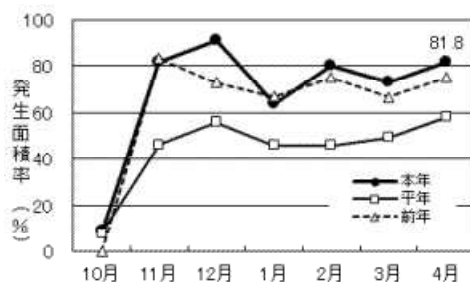


図7 発生面積率の推移

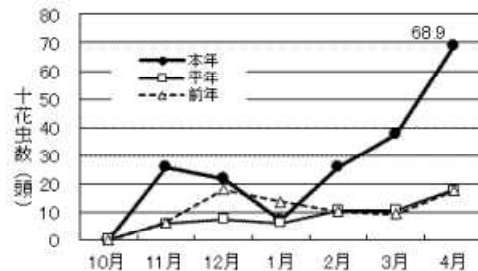


図8 10花当たり虫数の推移

## (3) 冬春トマト

タバココナジラミ (10月～4月の発生程度：平年並)

4月：発生面積率：44.4% (前年30.0%、平年41.1%)

100葉当たり虫数：14.7頭 (前年2.9頭、平年6.3頭)

平年並

平年よりやや多

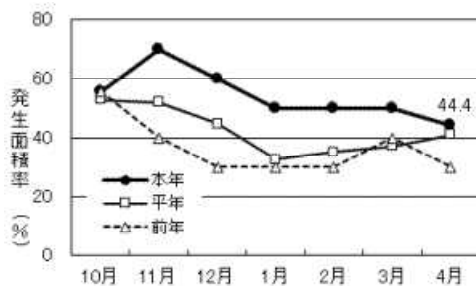


図9 発生面積率の推移

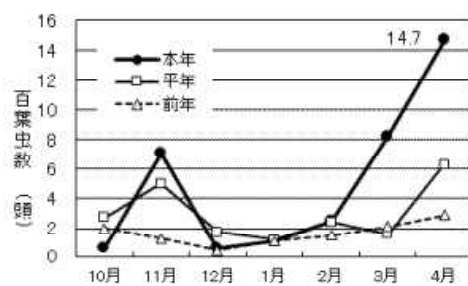


図10 100葉当たり虫数の推移

## (4) イチゴ (3月調査)

ハダニ類 (10月～3月の発生程度：平年並)

3月：発生面積率：49.9% (前年58.3%、平年75.6%)

寄生株率：15.8% (前年15.6%、平年25.6%)

平年より少

平年よりやや少

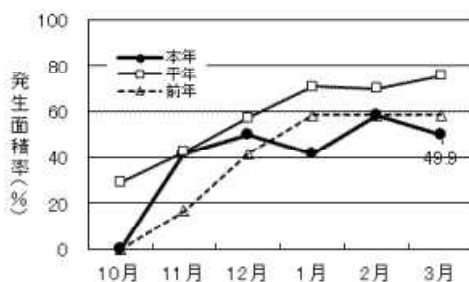


図11 発生面積率の推移

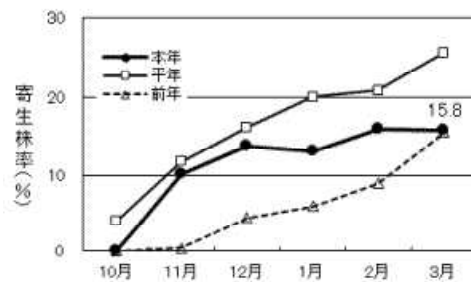


図12 寄生株率の推移

ヒラズハナアザミウマ（10月～3月の発生程度：平年並）

3月：発生面積率：0.0%（前年58.3%、平年24.2%）

寄生花率：0.0%（前年8.7%、平年4.2%）

平年よりやや少

平年よりやや少

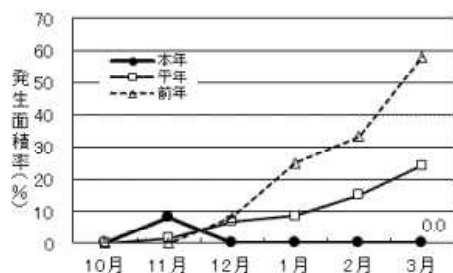


図13 発生面積率の推移

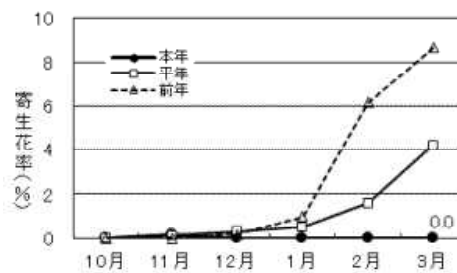


図14 寄生花率の推移

#### 4 防除上の注意

##### 1) アザミウマ類、コナジラミ類、ハダニ類

- ① いずれの害虫も薬剤感受性の低下が報告されるなど、栽培期間中の防除が困難となってきた。次作での発生を抑制するためには、栽培終了時の施設外への飛散を防止し、感受性低下個体群の野外への定着を防ぐことが重要である。
- ② 栽培終了時には、作物及び雑草は株を抜根し、すぐに施設を密閉して蒸し込みを行う。蒸し込み期間はアザミウマ類の蛹が羽化する期間を考慮して、少なくとも10日間以上を確保し、病虫害の拡散防止を徹底する。
- ③ ほ場周辺やほ場内の雑草は害虫の発生・増殖源となるので、ハウス内外、栽培地周辺の除草を徹底する。
- ④ ミナミキイロアザミウマが媒介するキュウリ黄化えそ病 (MYSV) の防除対策では、特に周辺へのウイルス拡散防止を目的に、栽培終了時には必ず防除と蒸し込みを行い、生き残ったミナミキイロアザミウマを死滅させる。具体的には、ミナミキイロアザミウマの防除を行ってから株を抜根した上で、施設を密閉して20日間蒸し込む。

##### 2) 土壌病虫害

- ① 作物残さは施設外に持ち出し適切に処分する。残さ処理の終わったほ場は、改良太陽熱消毒法などによりほ場の隅々まで土壌消毒を行う。天候不順などで、改良太陽熱消毒法の防除効果が十分に望めない時は、薬剤による土壌消毒を実施する。
  - ② 土壌病害が発生したほ場で、くん蒸剤などの土壌消毒剤を使用する場合は、残さを分解させた後に処理することで高い防除効果が得られる。
  - ③ 施設内で使用した資材・農機具などについても消毒を行うなど、徹底して病原菌や線虫など土壌病虫害の密度を減らすことが重要である。
- その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病虫害防除・肥料検査センターなど関係機関に照会してください。
  - 6月1日から8月31日までの3か月間、農薬危害防止運動を実施します。農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。

《連絡先》

宮崎県病虫害防除・肥料検査センター 椎葉、松浦  
 TEL : 0985-73-6670 FAX : 0985-73-2127  
 E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp  
 ホームページ : <http://www.jpnpn.ne.jp/miyazaki>

各関係機関の長 殿  
各病害虫防除員

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

## 令和2年度病害虫防除情報第4号

サトイモ疫病について、各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

**県内の本年作さといもほ場で疫病の発生が確認されました。  
地域の発生状況を踏まえて、適切な防除を実施しましょう。**

1 作物名 さといも

2 病害虫名 疫 病

3 発生状況等

- (1) 5月4半旬に県西部のさといもほ場において疫病の発生が今期初確認された(図1)。  
発生は1ほ場(品種:石川早生)で確認され、発病株率は低率であった。
- (2) 初確認の時期としては、前年より1か月程度早い。  
(初発時期) 本年:5月4半旬 前年:6月6半旬 前々年:6月3半旬
- (3) 向こう1か月(5月30日~6月29日)の九州南部の季節予報(鹿児島地方気象台5月28日発表1か月予報)では、平年に比べ曇りや雨の日が多く、気温が高くなると予想されており、本病の発生に好適な条件となる可能性があり、警戒が必要である。
- (4) 発病後は、例年7月から8月にかけて急速に蔓延する(図2)ことから、今後の発病の推移に注意が必要である。



図1 疫病の発病葉(上)と疫病菌の遊走子のう

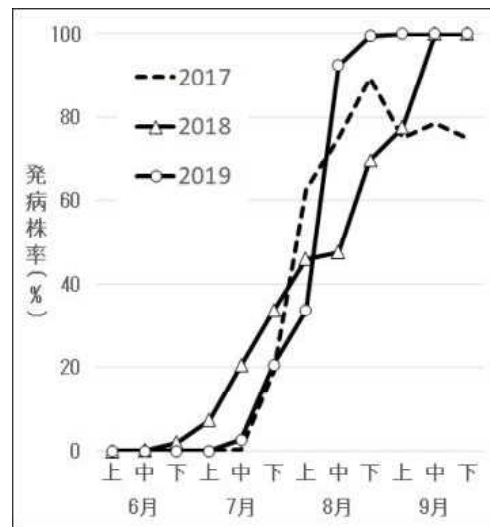


図2 過去の巡回調査における発病株率の推移

#### 4 本病の特徴

本病の病原菌である*Phytophthora colocasiae*は10～35℃で生育するが、27～30℃で最も良く増殖することから、夏期に曇雨天日が続くと急激に蔓延する。葉や葉柄上の病斑に形成した遊走子のうまたは遊走子が風雨により周囲へ飛散し、二次感染が起こる。

#### 5 防除上の注意

- 1) 発病前からの定期的な薬剤散布が防除効果を向上させる。  
ほ場をこまめに巡回し、発病前はマンゼブ水和剤による予防散布を実施する。発病後は治療効果のあるアミスルブロム・シモキサニル水和剤を散布し、その7日後にアズキシストロビン水和剤を散布する。台風の前後や長雨が予想される場合は、軟腐病予防と併せて炭酸水素ナトリウム・銅水和剤を散布する（表1参照）。
  - 2) 薬剤散布に当たっては、必ず展着剤を加用し、株元まで十分量を散布する（表1参照）。  
また、高温時の薬剤散布により薬害を生じることが確認されているので、日中の気温が高い時間の散布はできるだけ避ける。
  - 3) 排水不良のほ場では発生が助長されるので、ほ場害への排水を促すため、排水用の溝を必ず設置する。
  - 4) 防除法の詳細等については、「サトイモ疫病の薬剤による防除体系（2020年版）」を参照（宮崎県病害虫防除・肥料検査センターホームページ([www.jppn.ne.jp/miyazaki/](http://www.jppn.ne.jp/miyazaki/))）。  
また、各地域の防除対策については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、JA、総合農業試験場病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会する。
- 6月1日から8月31日までの3か月間、農薬危害防止運動を実施します。農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。

表1 サトイモ疫病に対する登録農薬（令和2年5月現在）

薬剤名	商品名	希釈倍率	散布液量	使用回数	使用時期
マンゼブ水和剤	ペンコゼブ水和剤	500倍	100-300 L/10a	2回以内	収穫7日前まで
アミスルブロム ・シモキサニル水和剤	ダイナモ 顆粒水和剤	2,000倍	100-300 L/10a	3回以内	収穫21日前まで
アズキシストロビン 水和剤	アミスター20 フロアブル	2,000倍	100-300 L/10a	3回以内	収穫14日前まで
炭酸水素ナトリウム ・銅水和剤	ジーファイン 水和剤	1,000倍	150-500 L/10a	—	収穫前日まで

《連絡先》 宮崎県総合農業試験場 病害虫防除・肥料検査課  
(病害虫防除・肥料検査センター) 椎葉・寺本  
TEL : 0985-73-6670 FAX : 0985-73-2127  
E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp



各関係機関の長 殿  
各病害虫防除員

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

## 令和2年度病害虫防除情報第5号

各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

### ハスモンヨトウが多発傾向です。

1 作物名 野菜・花き類

2 病害虫名 ハスモンヨトウ

#### 3 発生状況等

(1) 宮崎市、都城市、西都市、および国富町に設置しているフェロモントラップの誘殺数が6月4半旬から平年を上回り、急激に増加している(図1)。

(2) 直近1か月(6月4半旬～7月3半旬)の誘殺虫数は、宮崎市459頭(平年467頭)、都城市848頭(平年511頭)、西都市1,018頭(平年607頭)国富町522頭(平年415頭)と、平年比並から多であり、4地点合計の誘殺頭数は平年比多である(表1)。

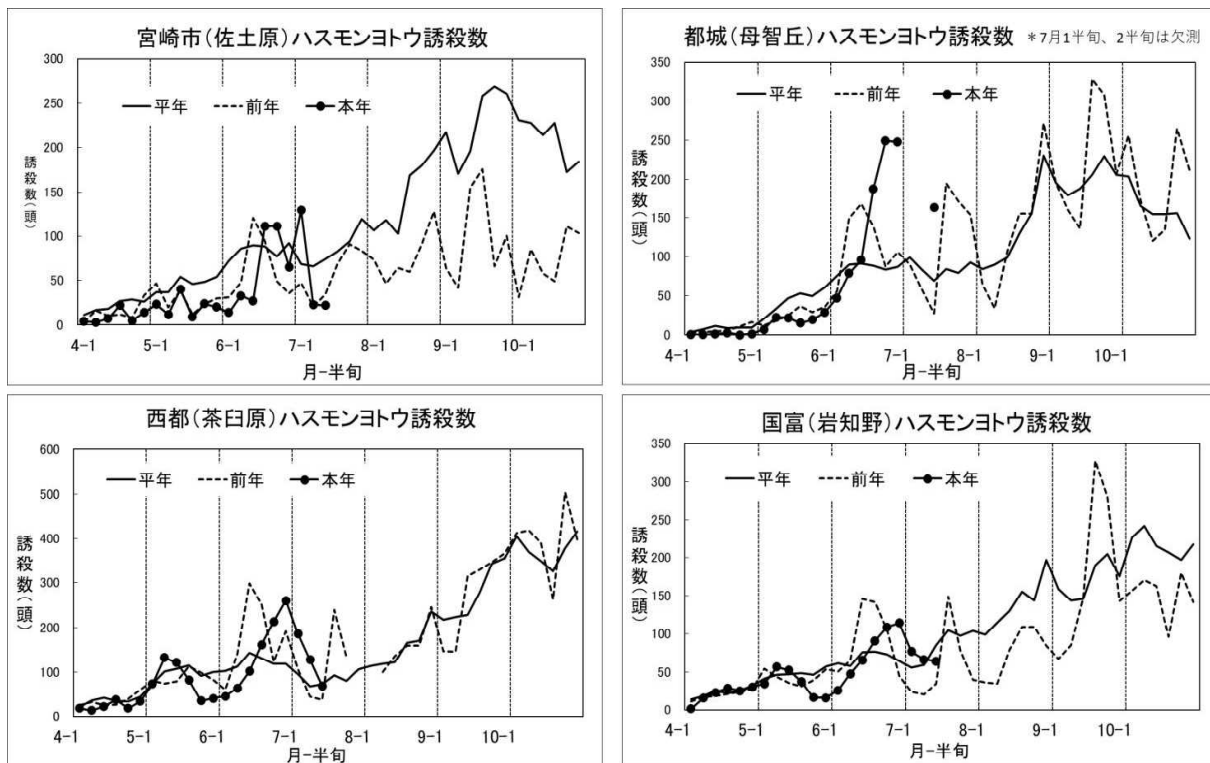


図1 県内4か所のフェロモントラップ誘殺虫数

表1 フェロモントラップへのハスモンヨトウ誘殺虫数および平年値との比較  
(直近1ヶ月：6月4半旬～7月3半旬)

	宮崎市	都城市	西都市	国富町	4地点合計
本年値	459	848	1,018	522	2,847
昨年値	280	508	756	372	1,916
平年値	467	511	607	415	2,000
平年比	並	多	多	やや多	多

#### 4 防除上の注意

- 1) ほ場を見回り、若齢幼虫分散前の白変葉の早期発見・除去に努める。
  - 2) 齢が進んだ幼虫では薬剤の効果が著しく低下するため、若齢幼虫期の防除が重要である。若齢幼虫は葉裏に群生することが多いので、葉裏まで薬液がかかるように散布する。なお、薬剤抵抗性の発達を防止するため、使用薬剤は異なる系統のものをを用い、同一系統の薬剤の連用は避ける。
  - 3) 施設栽培で、入り口やサイドなど開口部に防虫ネット(4mm目合い以下)を展張し、成虫の飛来・侵入を防止する。なお、防虫ネット上に産卵し、孵化した幼虫が施設内に侵入することがあるため注意する。
  - 4) ほ場内や周辺の雑草は増殖源になるので除草を行う。
- その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局(農業改良普及センター)、JA、総合農業試験場病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。
  - 6月1日から8月31日までの3か月間、農薬危害防止運動を実施します。農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。

《連絡先》宮崎県総合農業試験場 病害虫防除・肥料検査課  
(病害虫防除・肥料検査センター) 椎葉・寺本  
TEL : 0985-73-6670 FAX : 0985-73-2127  
E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp

6011-1429  
令和2年9月1日

各関係機関の長  
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

## 令和2年度病害虫防除情報第6号

茶のチャトゲコナジラミについて、各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

---

**茶園においてチャトゲコナジラミの発生が多くなっています。  
秋冬期の防除対策を徹底してください。**

1 作物名 茶

2 病害虫名 チャトゲコナジラミ

### 3 発生状況（経過）と防除の考え方

- 1) 本種は、平成25年2月にヒサカキで初確認後（平成24年度病害虫発生予察特殊報第1号）、茶園においても発生が認められ、現在は県内の茶栽培地域全域に発生が拡大している。
- 2) 本年は県内の茶園において、成虫（図1）及び幼虫（図2）が多発し、下位葉にすす（図3）を生じる事例が散見されている。
- 3) 翌年の春期の被害を減少させるため、秋期防除と冬期のマシン油防除の徹底が重要である。

### 4 防除対策

- 1) 園内をよく観察し発生状況を把握する。成虫は新芽（図4）、幼虫は茶園周縁のすそ部葉裏に寄生しやすい。また、下位葉にすす症状がみられる場合は発生している可能性が高い。
- 2) マシン油乳剤以外の農薬による防除適期は、若齢幼虫発生期（成虫の飛翔が少なくなる時期）であり、第3世代の防除適期は9月上～中旬頃と予想されるので、地域の発生時期を確認して適期に防除する。
- 3) 発生の多いところでは、ハダニ用ノズルを用いて、樹冠内部の葉裏にも薬剤が十分かかるように散布する。また、散布前にすす刈りを行うと、より効果的である。
- 4) 冬期は、ハダニ類の防除を兼ねて、マシン油乳剤の散布を必ず行い、越冬個体の密度低減を図る。



図1 成虫(体長0.9~1.3mm)



図2 幼虫



図3 幼虫が分泌する甘露により  
すそ葉に生じたすす症状



図4 新葉の葉裏に寄生する成虫

- その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場茶業支場、病虫害防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。
- 農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。

《連絡先》 宮崎県総合農業試験場 病虫害防除・肥料検査課  
（病虫害防除・肥料検査センター） 寺本  
TEL : 0985-73-6670 FAX : 0985-73-2127  
E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp

各関係機関の長 殿  
各病害虫防除員

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

## 令和2年度病害虫防除情報第7号

ヒラズハナアザミウマについて、各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

近年、県央部のピーマン産地において、ヒラズハナアザミウマの多発生ほ場が多く確認されています。

密度増加に伴い、果実への被害が懸念されますので、多発前に総合的な防除対策を講じ、低密度に維持しましょう。

- 1 作物名       ピーマン
- 2 病害虫名     ヒラズハナアザミウマ
- 3 発生状況（経過）

- 1) 前年の調査において、11月より急激に発生量が増加し、その後も増加傾向で推移した（図1、2）。前年は発生面積率および発生程度が過去10年で最も高かった。
- 2) 当課が実施した各種殺虫剤の感受性調査の結果、ピーマンから採集したヒラズハナアザミウマの個体群は、多くの殺虫剤において感受性が低下している。一方、殺虫剤の散布回数が少ないイチゴ個体群での感受性低下は一部の薬剤のみである（図3）。

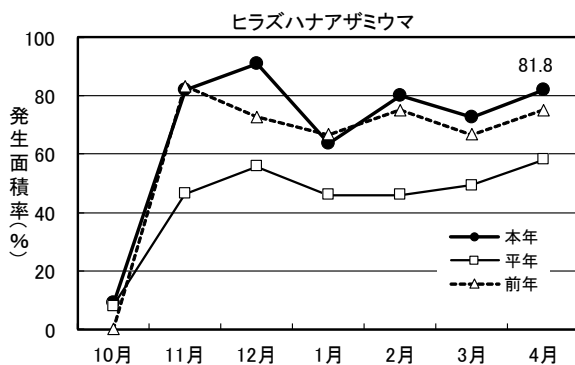


図1 発生面積率の推移

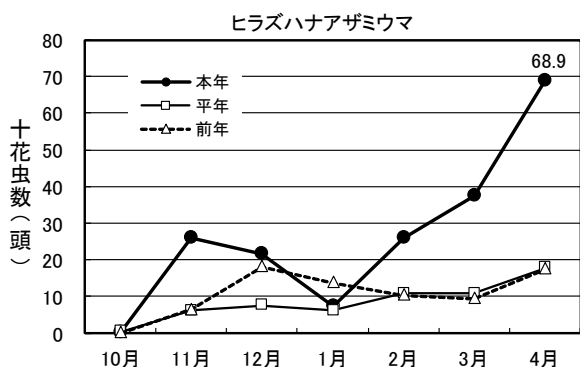


図2 発生程度（10花当たり虫数）の推移

#### 4 防除上の注意

- 1) ハウス周辺に開花している花からハウス内に侵入するため、周辺の除草を行う。
- 2) ピーマンの花数が減少する時期が防除適期となるので、時期を逃さず、防除の徹底を図る。

- 3) 青色粘着トラップを生長点付近に300～500枚/10a設置し、誘殺による密度低下を図る(図4)。ただし、株が繁茂する前に設置しないと効果が十分に得られないため、定植後1か月ごろまでに設置する。天敵カスミカメ類とは併用しない。
- 4) 主に花の内部に生息することから、薬剤防除は薬液が花の内部にしっかり付着するように行う。また花粉が薬液をはじくことから、薬剤の付着性を高めるために乳剤以外には必ず展着剤や気門封鎖剤を加用する。

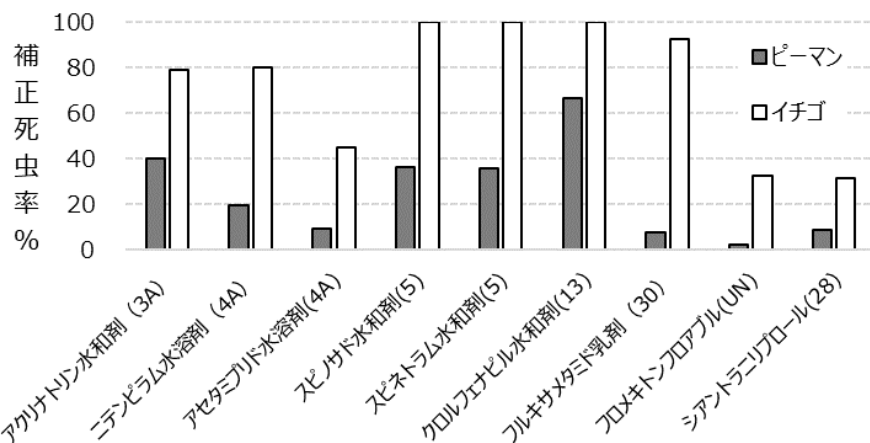


図3 2019～20年に実施したヒラズハナアザミウマ雌成虫に対する殺虫剤の効果  
 ※数値はピーマンは7個体群、イチゴは3個体群の結果の平均値  
 薬剤名の括弧内の数字はIRACコードを示し、同一文字は同系統の薬剤を示す

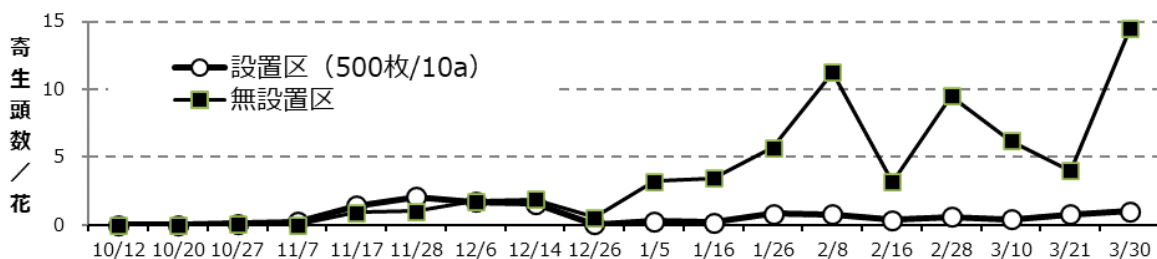


図4 青色粘着板大量設置によるヒラズハナアザミウマに対する防除効果  
 ※平成28年実施。9月上旬定植、9月下旬粘着板設置

《連絡先》 宮崎県総合農業試験場 病虫害防除・肥料検査課  
 (病虫害防除・肥料検査センター) 椎葉・松浦  
 TEL : 0985-73-6670 FAX : 0985-73-2127  
 E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp

各関係機関の長  
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

## 令和2年度病害虫防除情報第8号

タバココナジラミについて、各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

**タバココナジラミの発生が平年より多い状況が続いています。**

- 1 作物名 冬春ピーマン
- 2 病害虫名 タバココナジラミ

### 3 発生状況（経過）

- 1) 1月中旬の巡回調査において、タバココナジラミの発生面積率は36.4%（平年14.6%、前年36.4%）（図1）、100葉当たり虫数は2.3頭（平年0.6頭、前年2.8頭）（図2）でいずれも平年比多である。
- 2) 今後、気温の上昇とともにタバココナジラミの活動が活発化することが予想される。

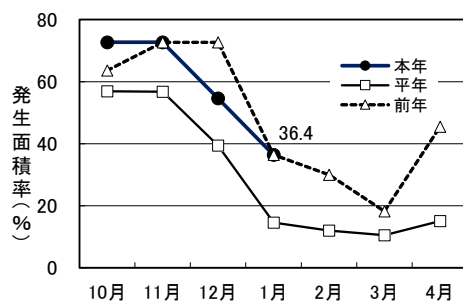


図1 発生面積率の推移

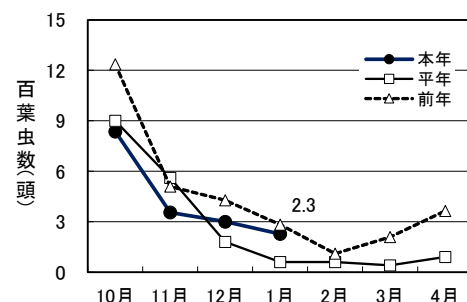


図2 100葉当たり虫数の推移

### 4 防除上の注意

- 1) 雑草はタバココナジラミの生息・増殖場所となるため、施設内及び施設周辺の除草を徹底する。特に暖房機の下や内サイドビニルと外ビニルの間などは見落としがちなので注意する。
- 2) 低密度のうちに防除を実施し、薬剤散布後は防除効果に注意を払い、必要に応じて適宜追加防除を行う。
- 3) 有効な薬剤に対する抵抗性の発達を回避する観点から、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を心がける。また、抵抗性発現の可能性が低い微生物農薬や物理的に窒息死させる気門封鎖剤を防除体系に組み込む。

《連絡先》宮崎県総合農業試験場 病害虫防除・肥料検査課  
(病害虫防除・肥料検査センター) 椎葉・松浦  
TEL : 0985-73-6670 FAX : 0985-73-2127  
E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp

## 2 特殊病害虫侵入警戒調査事業

### 1) ミバエ類侵入警戒調査

ミバエ類の侵入の危険性の高い地域（7地点）において、フェロモントラップ（ユーゲルアD8、メドフライコール）を設置し、ミバエ類の侵入警戒調査を実施した。また、中部・南那珂・児湯・東臼杵（南部・北部）の各農林振興局（普及センター）に委託し、気温が高い7～9月に計47地点で侵入警戒調査を実施した。

#### (1) 誘殺状況

トラップ設置場所	調査期間	誘 殺 数			調査機関
		チチュウカイ イミバエ	ミカンコ ミバエ	ウリミ バエ	
宮崎市 中部港湾事務所敷地内	4～12, 3月	0	0	0	防除・肥料センター
〃 総合農業試験場内果樹園	〃	0	0	0	〃
〃 清武町のミカン園	〃	0	0	0	〃
都農町 立野のミカン園	〃	0	0	0	〃
南郷町 谷之口のミカン園	〃	0	0	0	〃
日向市 高森山のミカン園	〃	0	0	0	〃
門川町 牧山のミカン園	〃	0	0	0	〃
宮崎市 赤江 共同利用施設浜畑センター内	〃	—	0	0	中部農林振興局
〃 折生迫 水産試験場内	〃	—	0	0	〃
〃 内海 内海神社付近	〃	—	0	0	〃
〃 内海 野島神社付近	〃	—	0	0	〃
〃 折生迫 青島小学校付近	〃	—	0	0	〃
日南市 油津港東岸壁手前公園	〃	0	0	0	南那珂農林振興局
〃 猪崎鼻公園駐車場	〃	0	0	0	〃
南郷町 虚空蔵島入口	〃	0	0	0	〃
〃 贅波神社境内	〃	0	0	0	〃
〃 亜熱帯作物支場入口	〃	0	0	0	〃
串間市 市木 石波海岸（幸島入口）	〃	0	0	0	〃
〃 宮之浦（漁港公園）	〃	0	1	0	〃
〃 都井港	〃	0	0	0	〃
〃 崎田（道路沿い雑木）	〃	0	0	0	〃
〃 新福島港	〃	0	0	0	〃
川南町 通浜（川南魚港周辺）	〃	—	0	0	児湯農林振興局
〃 〃	〃	—	0	0	〃
〃 〃	〃	—	0	0	〃
〃 〃	〃	—	0	0	〃
〃 〃	〃	—	0	0	〃



ト ラ ッ プ 設 置 場 所	調 査 期 間	誘 殺 数			調 査 機 関
		チチュウカ イミバエ	ミカンコ ミバエ	ウリミ バエ	
日向市 細島港みなとの森公園	〃	—	0	0	東臼杵農林振興局
門川町 庵川 庵川東公民館	〃	—	0	0	〃
〃 庵川 庵川神社	〃	—	0	0	〃
〃 尾末 門川漁協	〃	—	0	0	〃
〃 尾末 尾末神社	〃	—	0	0	〃
延岡市 浦城町 浦城養魚場付近旧道	〃	—	0	0	〃
〃 浦城町 浦城海水浴場付近	〃	—	0	0	〃
〃 須美江町須美江キャンプ場内	〃	—	0	0	〃
〃 熊野江 集落センター敷地内	〃	—	0	0	〃
北浦町 下阿蘇オートキャンプ場付近	〃	—	0	0	〃
対象病虫害の調査総回数	チチュウカイミバエ170回（10ヶ月×17か所） ウリミバエ・ミカンコミバエ740回（10ヶ月×月2回×37か所）				

## (2) 調査結果

令和2年8月17日、串間市宮之浦（漁港公園）に設置したフェロモントラップにおいて、ミカンコミバエ種群1頭の誘殺が確認された。その他のフェロモントラップでは、対象ミバエ類の誘殺は確認されなかった。

### 2) 串間市におけるミカンコミバエ種群の誘殺と対応について

#### (1) 誘殺経過の概要

令和2年8月17日、南那珂農業改良普及センターが串間市宮之浦（漁港公園）に設置したフェロモントラップにおいて、ミカンコミバエ種群1頭の誘殺が確認された。ミカンコミバエ種群の誘殺は県内で初めてである。

誘殺確認後、8月19日に現地対策会議が開催された。また、誘殺に伴うフェロモントラップの増設及び誘殺地点周辺の寄主果実調査を実施した。

初誘殺確認以降、ミカンコミバエ種群の新たな誘殺及び寄主果実への寄生は確認されていない。

#### (2) 現地対策会議について

ミカンコミバエ種群が確認されたことを受け、門司植物防疫所主催で、現地対策会議が開催され、今後の対応方針等について協議した。

日時：令和2年8月19日（水）

場所：串間市役所都井支所

協議内容

- ・発見経緯及び誘殺要因
- ・初動対応について（調査方法、調査範囲、調査スケジュール）
- ・今後の対応方針

## 参集

門司植物防疫所（鹿児島支所、細島出張所）、串間市役所、JA（はまゆう、大東）、NOSA I（南那珂センター）、南那珂農林振興局（農畜産課、普及センター）、県農業経営支援課（普及企画担当、専門技術指導担当）、県総合農業試験場（病虫害防除・肥料検査課）

### （3）初動対応について

#### ア.フェロモントラップの設置（増設）及び調査結果

##### フェロモントラップの設置（増設）

- ・発見地点から半径2km以内………17基（増設15基＋既設2基）
- ・発見地点から半径2～5km以内…… 6基（増設 6基＋既設0基） 計23基設置

調査時期：令和2年8月17日～令和3年7月2日（誘殺確認日から3世代相当期間終了まで）

##### 調査間隔

- ・発見地点から半径2km以内………調査開始後2週間は週2回、3～8週目は週1回、それ以降は2週間に1回実施。
- ・発見地点から半径2～5km以内……調査開始後8週間は週1回、それ以降は2週間に1回実施。

調査方法：各地点に誘引剤（増設トラップ：メチルオイゲノール単剤、既設トラップ：メチルオイゲノール・キュウレア混合剤）を入れたスタイナー型トラップを設置し、上記調査間隔で誘殺の有無を調査した。誘引剤は月1回交換した。

##### 調査結果

上記調査期間の調査において、全てのトラップでミカンコミバエ種群の誘殺は確認されなかった。

#### イ. 寄主果実調査

調査時期：令和2年8月19日及び9月3日の2回

調査範囲：発見地点から半径2km圏内

調査方法：調査範囲内に存在する野生及び栽培寄主植物を対象に、それらの果実を採取し、門司植物防疫所細島出張所において5日間以上保管後、全て切開調査を実施し、幼虫寄生の有無を確認する。

採取果実：イヌビワ、カンキツ類、ピーマン、ナス等

（1回目：65地点411果、2回目：61地点406果採取）

##### 調査結果

1回目及び2回目の調査いずれも、対象ミバエ類の果実への寄生は確認されなかった。

### 2) アリモドキゾウムシ侵入警戒調査

6月～10月にかけて、アリモドキゾウムシの侵入危険性の高い地域（29地点）にトラップ（アリモドキルアーⅡ）を設置し、本虫の侵入警戒調査を実施した。また、中部・南那珂・北諸県・児湯の各農林振興局（普及センター）に委託し、気温が高い7～9月に計47地点で侵入警戒調査を実施した。

## (1) 誘殺状況

トラップ設置場所	設置場所及びその付近の 植栽状況等	調査期間及び 調査回数	誘殺数	調査機関
宮崎市 新別府町前浜	阿波岐原森林公園付近	6～10月 10回	0	防除・肥料センター
〃 港	中部港湾事務所敷地内	〃	0	〃
〃 山崎町上ノ原	甘藷畑	〃	0	〃
〃 田野町白砂坂上	甘藷畑	〃	0	〃
〃 田野町乙	甘藷畑	〃	0	〃
〃 塩路	甘藷畑	〃	0	〃
〃 佐土原町下田島	甘藷畑	〃	0	〃
都城市 横市町	甘藷畑	〃	0	〃
〃 関之尾町	甘藷畑	〃	0	〃
〃 丸谷町	甘藷畑	〃	0	〃
〃 庄内	甘藷畑	〃	0	〃
〃 山之口町五反田	甘藷畑	〃	0	〃
都城市 山田町菓子野	甘藷畑	〃	0	〃
〃 〃 牧原	甘藷畑	〃	0	〃
〃 〃 山田	甘藷畑	〃	0	〃
三股町 宮村	甘藷畑	〃	0	〃
西都市 茶臼原児屋根	甘藷畑	〃	0	〃
〃 〃	甘藷畑	〃	0	〃
〃 〃	甘藷畑	〃	0	〃
新富町 日置池田	ヒルガオ自生地	〃	0	〃
〃 日置上日置	甘藷畑	〃	0	〃
川南町 川南	甘藷畑	〃	0	〃
高鍋町 南高鍋蚊口浦	酒造工場付近	〃	0	〃
〃 持田	甘藷畑	〃	0	〃
日南市 南郷町榎原	甘藷畑	〃	0	〃
串間市 大字奈留	甘藷畑	〃	0	〃
〃	甘藷畑	〃	0	〃
串間市 大字奈留(大束原)	甘藷畑	〃	0	〃
〃	甘藷畑	〃	0	〃
宮崎市 青島	県水産試験場	7～9月 6回	0	中部農林振興局
〃 大字郡司分	県消防学校	〃	0	〃
〃 大字恒久	県立宮崎農業高等学校	〃	0	〃
〃 佐土原町下田島	宮崎市佐土原総合支所	〃	0	〃

トラップ設置場所	設置場所及びその付近の 植栽状況等	調査期間及び 調査回数	誘殺数	調査期間
宮崎市 田野町甲	宮崎市田野総合支所	7～9月 6回	0	中部農林振興局
〃 高岡町内山	宮崎市高岡総合支所	〃	0	〃
国富町 大字岩知野	中部農業改良普及センター	〃	0	〃
〃 大字深年高田原	菊田製茶工場横	〃	0	〃
綾町 大字南俣	綾町有機農業開発センター	〃	0	〃
日南市 大字風田	風田国道220号線沿	7～9月 6回	0	南那珂農林振興局
〃 油津	油津港	〃	0	〃
〃 大堂津	大堂津港	〃	0	〃
〃 南郷町	目井津港	〃	0	〃
串間市 大字奈留	J A大束集荷場	〃	0	〃
〃 〃	J A大束育苗センター	〃	0	〃
〃 〃	アオイファーム	〃	0	〃
串間市 〃	仲別府公民館	〃	0	〃
〃 大平	J A大束集荷場	〃	0	〃
〃 大字北方	酒造会社付近	〃	0	〃
〃 大字西方	J Aはまゆう集荷場	〃	0	〃
〃 〃	酒造会社付近	〃	0	〃
〃 大字南方	福島港	〃	0	〃
〃 〃	福島港 串間第4児童公園	〃	0	〃
〃 大字都井	毛久保港	〃	0	〃
都城市 高木町	北諸県農業改良普及センター	6～9月 6回	0	北諸県農林振興局
〃 山田町	J A山田支所	〃	0	〃
〃 山田町	かかし館付近	〃	0	〃
〃 平塚町	茶園付近	〃	0	〃
〃 横市町	給水栓付近	〃	0	〃
〃 豊満町	茶園付近	〃	0	〃
〃 乙房町	茶園付近	〃	0	〃
〃 梅北町	給水栓付近	〃	0	〃
〃 大岩田	旧医師会病院付近	〃	0	〃
〃 高城町	石山貯蔵庫	〃	0	〃
〃 蓑原町	給水栓付近	〃	0	〃
えびの市 西長江浦	甘藷畑	6～9月 6回	0	西諸県農林振興局
〃 大明司	甘藷畑	〃	0	〃

トラップ設置場所	設置場所及びその付近の 植栽状況等	調査期間及び 調査回数	誘殺数	調査期間
小林市 堤	甘藷畑	6～9月 6回	0	西諸県農林振興局
〃 野尻町三ヶ野山	甘藷畑	〃	0	〃
高原町 後川内	甘藷畑	〃	0	〃
西都市 大字三宅 寺原	西都市運動公園付近	6～9月 6回	0	児湯農林振興局
〃 大字茶臼原	(株)サイトファーム付近	〃	0	〃
〃 都於郡町	都於郡地区南体育館付近	〃	0	〃
新富町 大字新田 十文字	春日神社付近	〃	0	〃
高鍋町 大字小並	小並バス停付近	〃	0	〃
〃 大字上江	新山いちご園付近	〃	0	〃
木城町 大字椎木 牧ノ内	茶臼原小学校付近	〃	0	〃
対象病害虫の調査総回数	572回（5ヶ月×月2回×29か所+3ヶ月×月2回×47か所）			

## （２）調査結果

アリモドキゾウムシの本県への侵入は認められなかった。

### 3) イモゾウムシ侵入警戒調査

10月26、27日に都城市（20ほ場）、串間市（20ほ場）で、収穫終了後の甘藷ほ場において1ほ場当たり50本程度の収穫残渣を切開及び目視により食害痕等を調査した（調査総回数40回（40か所））。

いずれの地域においてもイモゾウムシの本県への侵入は認められなかった。

### 4) ミカンキジラミ侵入警戒調査

4月～11月、3月において、県内のかんきつ園地18ほ場で調査したが、発生は確認されなかった（調査総回数162回（9ヶ月×18か所））。

### 3 その他の調査、検定等

#### 1) BLASTAMによる葉いもちの発生好適条件の判定と現地の発生状況

発生指標	? : 判定不能	- : 好適条件なし	4 : 準好適条件4	3 : 準好適条件3	2 : 準好適条件2	1 : 準好適条件1	● : 好適条件
------	----------	------------	------------	------------	------------	------------	----------

(早期水稻)

	宮崎	串間	高鍋	西都	赤江	日向
4月1日	—	—	—	—	4	3
4月12日	3	—	3	3	—	—
4月13日	—	—	3	3	—	—
4月16日	—	—	—	—	—	3
4月18日	—	—	4	—	—	4
5月3日	4	—	—	—	—	4
5月4日	1	—	1	1	—	1
5月10日	●	4	—	●	—	—
5月17日	—	—	—	4	—	4
5月18日	●	●	—	1	●	1
5月24日	—	—	—	—	—	1
5月27日	●	●	●	—	—	●
5月31日	●	—	●	4	4	●
6月1日	●	—	●	●	—	●
6月4日	—	—	—	—	—	●
6月5日	—	●	—	—	—	—
6月7日	●	●	●	—	—	—
6月9日	—	—	●	—	—	—
6月11日	—	●	●	—	—	●
6月15日	—	—	—	—	—	2
6月17日	—	—	—	—	—	?
6月18日	2	—	—	—	—	—
6月20日	●	●	●	—	—	●
6月26日	—	—	—	—	3	—
7月5日	—	●	—	—	—	—
7月9日	—	2	—	—	—	—
7月11日	—	—	—	—	—	●
7月12日	—	—	—	2	—	—
7月16日	—	2	—	—	—	—
7月17日	●	—	—	●	—	●
7月20日	—	—	—	●	—	●
7月24日	3	—	—	—	—	—
7月25日	—	—	—	—	—	—
7月26日	2	—	2	—	2	—

調査地点の発病株率の推移(7月中旬は発病穂率)

	宮崎	串間	高鍋	西都	赤江	日向
5月中旬	0	/	/	0		0
6月中旬	0			0	22	4
6月下旬	18			0	96	10
7月中旬	0			0.1	0.2	0

(普通期水稻)

	高千穂	鞍岡	延岡	神門	加久藤	小林	宮崎	都城
5月17日	4	4	—	4	—	—	—	—
5月18日	—	—	—	—	—	●	●	●
5月27日	1	?	●	1	●	●	●	●
5月31日	4	—	●	1	4	4	●	—
6月1日	—	—	●	4	—	—	●	—
6月2日	—	—	—	—	?	—	—	—
6月3日	—	—	—	—	—	—	—	●
6月4日	1	1	●	—	●	●	—	4
6月7日	—	—	—	●	—	—	●	●
6月10日	—	●	—	●	—	—	—	—
6月15日	—	—	—	●	—	—	—	—
6月16日	—	—	—	—	●	●	—	—
6月18日	—	—	—	●	—	●	2	—
6月19日	—	●	—	—	—	—	—	—
6月20日	4	4	—	—	—	—	●	—
6月25日	—	●	—	—	●	—	—	—
6月26日	—	—	—	—	3	—	—	—
6月27日	—	—	—	—	●	—	—	—
7月6日	—	●	—	—	—	—	—	—
7月7日	●	●	●	●	—	3	—	—
7月9日	—	—	—	—	—	—	—	2
7月11日	—	—	●	—	—	—	—	—
7月12日	—	—	—	●	3	3	—	—
7月16日	—	—	—	—	—	—	—	2
7月17日	—	—	—	●	●	—	●	—
7月20日	—	—	●	●	—	—	—	—
7月24日	—	●	—	—	—	—	3	—
7月26日	—	—	—	—	—	—	2	2
7月27日	—	—	—	—	3	2	—	—
7月28日	●	●	—	—	●	●	—	—
7月29日	—	—	—	—	—	●	—	—

調査地点の発病株率の推移(9月中旬は発病穂率)

	高千穂	五ヶ瀬	延岡	東郷	えびの	小林	国富	都城
6月中旬	0	0	0	0	0	0	0	0
7月中旬	1.0	0	0	96.0	0	0	0	0
7月下旬	1.0	72.0	0	80.0	0	0	16.0	0
8月中旬	3.0	70.0	0	8.0	0	6	0	0
9月中旬	0.7	4.8	0	2.3	0	0.1	0	0

## 2) 斑点米カメムシ類の発生状況調査

イタリアンライグラスでの斑点米カメムシ類の発生状況(6月)

※20回振り/1地点

地域名	地点数	ミナミアオカメムシ①			クモヘリカメムシ②			ホソハリカメムシ③		
		成虫	幼虫	合計	成虫	幼虫	合計	成虫	幼虫	合計
中部	26	0.5	0.1	0.6	6.5	0.0	6.5	1.4	0.1	1.5
南那珂	6	0	0	0	0	0	0	0.5	0.2	0.7
児湯	13	0	1.4	1.4	17.2	0.1	17.2	5.5	0.7	6.2
東臼杵	6	0	0	0	33.3	0	33.3	9.0	0.5	9.5
全 県	51	0.3	0.4	0.7	11.6	0.0	11.6	3.2	0.3	3.5

地域名	地点数	シラホシカメムシ④			アカスジカスミカメ⑤			4種合計(①+②+③+④)	4種平年値
		成虫	幼虫	合計	成虫	幼虫	合計		
中部	26	0.3	0.1	0.3	31.2	23.6	54.8	9.0	5.6
南那珂	6	0	0	0	23.7	7.7	31.3	0.7	10.7
児湯	13	0	0.4	0.4	30.0	19.6	49.6	25.2	10.3
東臼杵	6	0.5	0	0.5	64.2	10.8	75.0	43.3	8.8
全 県	51	0.2	0.1	0.3	33.9	19.2	53.1	16.2	8.2

数値を小数点第2位で四捨五入しているため、合計数値が一致しない場合があります。



3) ヒノキ毬果口針鞘数による果樹カメムシ類離脱予測

番号	普及センター名	採取場所	採取日	平均口針鞘数	離脱予想日	飛来日	備考
1	中部	宮崎市高岡町(高浜)	7月22日	0	9月5日	飛来なし	
2	南那珂	日南市(細田)	7月27日	0	9月10日	飛来なし	
3	南那珂	日南市(大窪)	7月27日	0.0	9月10日	飛来なし	
4	南那珂	日南市南郷町(笹ノ久保)	7月27日	0.5	9月10日	飛来なし	
5	西諸県	小林市①	7月28日	1.1	9月10日	飛来なし	
6	西諸県	小林市②	7月28日	0.0	9月11日	飛来なし	
7	児湯	西都市宝財原	毬果の着生なし			8月25日	
8	東臼杵南部	門川町牧山	7月31日	0	9月14日	飛来なし	
9	東臼杵北部	延岡市川島町	7月29日	0.1	9月12日	飛来なし	
10	防除センター	新富町	7月22日	0.1	9月5日		
11	防除センター	都農町	7月22日	0.0	9月5日		
12	防除センター	日向市	7月27日	0.1	9月10日		
13	防除センター	延岡市	7月22日	0.0	9月5日		

## 4) サツマイモ基腐病に関する調査

### 1 調査目的

2018年度から問題となっているサツマイモ基腐病について、防除対策を確立するため、県内の主要なサツマイモ産地において、栽培期間を通じた定点調査を行い、発消長を明らかにする。また、収量や貯蔵への影響についても明らかにする。

### 2 調査内容

- 1) 発消長調査
- 2) 収穫物及び収量調査
- 3) 貯蔵調査
- 4) 聞き取り調査

### 3 各調査方法

#### 1) 発消長調査

##### (1) 調査地域及びほ場数

南那珂地域：3ほ場（令和元年度から継続）

北諸県地域：3ほ場（令和2年度に育苗床で発生）

児湯地域：1ほ場（前年発病が確認されたほ場）

##### (2) 調査期間及び調査間隔

令和2年5月～9月、約2週間間隔

##### (3) 調査株数

1ほ場当たり50株×2か所の計100株を調査。

##### (4) 調査方法

基部黒変及びつるの黒変症状の有無を調査し、下記の発病程度別に発病株率を算出。

発病程度：健全、株元発病株、つるのみ発病株、地上部完全枯死株

#### 2) 収穫物及び収量調査

- ・基腐病の発生が確認されたほ場において、収穫前に地上部の発病程度別に5株ずつ掘取り、出荷可能割合や収量を算出。なお、北諸県地域の発生ほ場は発病株率が低率であったため、健全株のみ掘取りを行い、収量のみ算出。
- ・腐敗がみられるものや発芽イモは出荷不可、腐敗がないものやしょ梗が変色している程度のイモは出荷可能とした。

#### 3) 貯蔵調査

##### (1) インキュベーター貯蔵による健全イモの腐敗状況調査

南那珂地域の定点ほ場において、地上部が健全な株を5株ずつ掘取り、外観が健全であると判断したイモを農業試験場内のインキュベーター（温度：15℃、湿度：70%）で4ヶ月間貯蔵し、1か月ごとに腐敗の有無を調査した。なお、調査時

に外観に異常がみられるイモは切断し、腐敗状況を確認後、健全なものだけを再度貯蔵した。

#### (2) 現地における貯蔵イモの腐敗率調査

南那珂地域の定点ほ場の生産者に、慣行通り（収穫時点で腐敗しているイモは取り除く）貯蔵庫で貯蔵してもらい、2か月後と4か月後に1コンテナ（約20kg）ずつ回収し、腐敗状況を調査した。

#### 4) 聞き取り調査

南那珂の定点ほ場生産者に、サツマイモ基腐病対策について、どのような対策を実施したか聞き取った。

### 3 結果

#### 1) 発生消長調査

(1) 南那珂地域では、3月下旬に定植したほ場で、5月下旬（定植後約60日）には基腐病の発生を確認した（表1、図1）。

(2) その後6月下旬頃までは、病勢の進展は緩やかで発病株率は漸増する様相であった。しかし、7月中旬以降、降水量の増加に伴い急速に発病が拡大し、つるのみ発病株や地上部完全枯死株も確認されるようになった。7月中旬には発病株率が12～91%、収穫前には30～100%に達した（表1、図1）。

(3) 北諸県地域では、7月下旬に基腐病の発生を確認し、8月上旬頃からつるのみ発病株が確認され、収穫前の発病株率は3～12%となった（表1）。北諸県地域の定点ほ場は育苗床で発生が確認されたほ場であるが、本ほでの発生は比較的遅かった。

(4) 児湯地域の定点ほ場では、調査期間を通して、基腐病の発生は確認されなかった（表1）。

#### 2) 収穫物及び収量調査

収穫物調査の結果、南那珂地域では株元発病株及び地上部完全枯死株では、発芽もしくは腐敗しているイモ（出荷不可能イモ）が多く、減収率は10～61%（経営指針比）となった（表2、3）。また、北諸県地域では同様の症状を呈したイモはみられず、基腐病による減収はほとんどなかったと考えられる。

#### 3) 貯蔵調査

(1) 南那珂地域から採集した健全なイモをインキュベーターで貯蔵した結果、貯蔵1ヶ月後から腐敗症状がみられ、貯蔵4ヶ月後に0～61%の塊根に腐敗症状が認められた（表4）。このことから、基腐病が確認されたほ場では、収穫時は外観が健全なイモであっても、潜在感染していることが示唆された。

(2) 南那珂地域の定点ほ場の生産者が貯蔵したイモの腐敗状況を調査した結果、貯蔵2ヶ月後の腐敗率は11.4～60.3%、貯蔵4ヶ月後に22.9～78.1%となり、貯蔵期間が長いほど、また、ほ場での発病が多いほど腐敗イモが増加することが明らかとなった（表5）。

#### 4) 聞き取り調査

南那珂地域の定点ほ場生産者3名に対し、基腐病対策について聞き取り調査を行ったところ、A氏(甚発生圃場)では、残渣処理方法や苗の消毒方法に問題がみられ、前年に比べ発病株を抑えられなかったのに対し、B氏及びC氏では一連の対策(種芋消毒、苗消毒、土壌消毒、薬剤散布、排水対策等)が行われており、前年よりも発病株は抑えられていた(表6、図2)。このことから、対策を着実に実施すれば、発病は抑えられることが確認できた。

### 4 具体的なデータ

表1 発病株率の推移

#### 1. 南那珂地域

市町村名	地区名	生産者名	品種	定植時期		発病株率累計(%)								
						5/22	6/2	6/15	6/29	7/14	7/28	8/13	8/25	9/14
1 串間市	奈留地区	A	高系14号	4月中旬	発病株率(全体)	0	0	2※	4	19	91	91	91	100
					株元発病株	0	0	2	4	12	53	27	19	34
					つるのみ発病株	0	0	0	0	6	32	23	16	5
					地上部完全枯死株	0	0	0	0	1	6	41	56	61
2 串間市	大東地区	B	高系14号	5月中旬	発病株率(全体)	0	0	0	2※	4	12	16	30	-
					株元発病株	0	0	0	2	4	9	13	22	-
					つるのみ発病株	0	0	0	0	0	3	3	7	-
					地上部完全枯死株	0	0	0	0	0	0	0	1	-
3 串間市	大東地区	C	高系14号	3月下旬	発病株率(全体)	2※	2	2	4	14	49	49	52	-
					株元発病株	2	2	2	4	4	5	18	21	-
					つるのみ発病株	0	0	0	0	10	44	31	28	-
					地上部完全枯死株	0	0	0	0	0	0	0	3	-

※ 初発生株は抜き取り株元及びつるとともに発病している株は基部黒変株としてカウント。

#### 2. 北諸県地域

市町村名	地区名	生産者名	品種	定植時期		発病株率累計(%)							
						5/21	6/4	6/18	7/2	7/16	7/29	8/12	8/26
1 都城市	山田地区	D	コガネセンガン	5月上旬	発病株率(全体)	0	0	0	0	0	1※	2	3
					株元発病株	0	0	0	0	0	1	2	3
					つるのみ発病株	0	0	0	0	0	0	0	0
2 都城市	庄内地区	E	コガネセンガン	5月上旬	発病株率(全体)	0	0	0	0	0	0	0	-
3 三股町	宮村地区	F	コガネセンガン	5月上旬	発病株率(全体)	0	0	0	0	0	1※	5	12
					株元発病株	0	0	0	0	0	1	3	6
					つるのみ発病株	0	0	0	0	0	0	2	6

※ 初発生株は抜き取り株元及びつるとともに発病している株は基部黒変株としてカウント。

#### 3. 児湯地域

市町村名	地区名	生産者名	品種	定植時期		発病株率累計(%)							
						6/18	7/2	7/16	7/29	8/12	8/26	9/9	9/30
1 西都市	茶臼原地区	G	コガネセンガン	6月上旬	発病株率(全体)	0	0	0	0	0	0	0	0

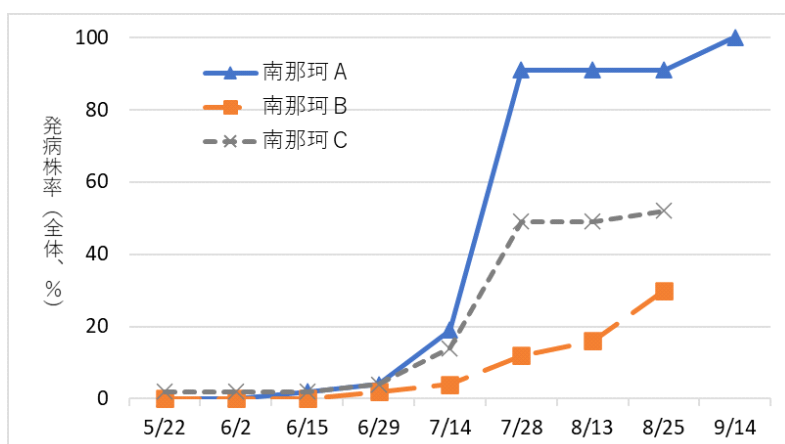


図1 南那珂地域定点3ほ場の発病株率（全体）推移

表2 収穫物調査結果（収量及び減収率）

地域名	市町村名	地区名	生産者名	収穫日	坪堀収量 (kg/10a)	減収率 (%)※
南那珂地域	串間市	奈留	A	9月中旬	3,225	61
		大東	B	8月下旬	1,808	36
		大東	C	8月下旬	3,164	10
北諸県地域	都城市	山田	D	8月下旬	3,333	—
	三股町	宮村	F	8月下旬	3,175	—

※経営指針収量（青果用普通堀：2,500kg/10a）より算出

表3 地上部発病程度別イモの出荷可能割合（南那珂定点3ほ場合計）

地上部発病程度	調査イモ個数	出荷可能割合 (%)	出荷不可割合 (%)
健全株	50	100	0
株元発病株	61	73.8	26.2
つるのみ発病株	42	83.3	16.7
地上部完全枯死株	34	26.5	73.5

表4 インキュベーター貯蔵による健全イモの腐敗状況調査結果

市町村	地区名	生産者名	塊根腐敗率 (%)			
			1ヶ月後	2ヶ月後	3ヶ月後	4ヶ月後
串間市	奈留	A	0	44.4	61.1	61.1
串間市	大東	B	0	0	0	0
串間市	大東	C	9.5	19.0	23.8	28.6

※調査時に腐敗しているものを切断し、腐敗状況を確認。健全なものだけを再度インキュベーターで貯蔵。  
貯蔵2～4ヶ月後の塊根腐敗率は累積腐敗塊根率。

表5 現地における貯蔵イモの腐敗率調査結果

			腐敗程度別							塊根腐敗率	平均重量	分離した菌株
市町村名	地区名	生産者名	腐敗程度別							塊根腐敗率 (程度2~5)	平均重量 (g/個)	分離した菌株
			0	1	2	3	4	5				
串間市	奈留	A	39.7	0.0	10.3	21.3	20.6	8	60.3	136 (n=135)	基腐病90%、フザリウム10% (n=10)	
串間市	大東	B	81.0	1.0	12.4	5.7	0.0	0	18.1	195 (n=105)	基腐病100% (n=10)	
串間市	大東	C	88.6	0	0.0	2.3	9.1	0	11.4	221 (n=88)	基腐病80%、フザリウム20% (n=10)	

単位：%

※腐敗程度別調査基準

- 0 病徴なし
- 1 しよ梗部変色
- 2 塊根腐敗（断面積1/2未満）
- 3 塊根腐敗（断面積1/2以上、全体には達して）
- 4 塊根腐敗（断面積全体）
- 5 崩壊

表6 聞き取り調査結果（南那珂定点生産者3名）

生産者名	育苗ほ				本ほ							
	育苗ほ消毒	種イモ	種イモ消毒	基腐病の発生	残渣処理		土壌消毒	苗消毒	排水		薬剤散布	発病株の抜根
					地下部	地上部			地下排水	表面排水		
南那珂A	キルバー（被覆）	県外産	○ (トップジンM水和剤)	有 (育苗ほの約2割)	持ち出し (処理方法に問題あり)	すき込み (分解ヘルパー+堆肥)	クローリン+キルバー 畝内処理	×	サブソイラ	溜まりやすい	×	×
南那珂B	陽熱	県外産	○ (トップジンM水和剤)	無	持ち出し	すき込み (分解ヘルパー+堆肥)	クローリン+キルバー 畝内処理	○ (トップジンM水和剤)	ブラソイラ	溜まらない	○ (Zボルドー3回)	○ (7月頃まで)
南那珂C	クローリン (鎮圧)	県外産	○ (ペンレート水和剤)	無	持ち出し	すき込み (分解ヘルパー+堆肥+満作)	クローリン+キルバー 畝内処理	○ (ペンレート水和剤)	ブラソイラ	一部溜まりやすいが、水はけは早い	○ (Zボルドー3回)	○ (8月頃まで)

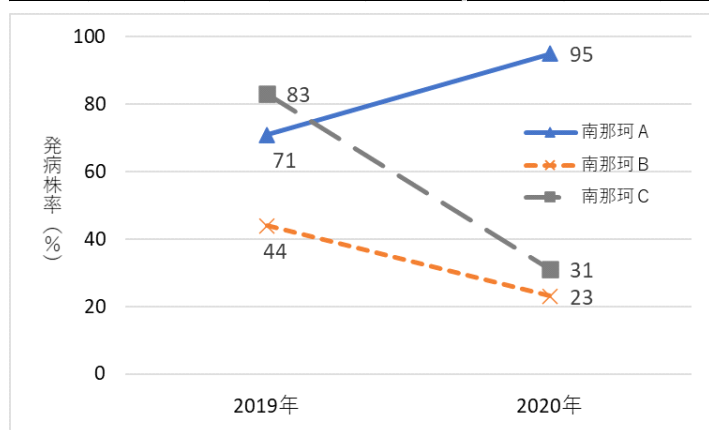


図2 南那珂定点3ほ場の発病株率年次推移  
(※発病株率は株元発病株と完全枯死株の合計)

## 5) 令和2年(2020年)におけるツマジロクサヨトウの発生状況

ツマジロクサヨトウは、2019年7月に宮崎県の飼料用トウモロコシおよびソルガムにおいて確認された(令和元年度病害虫発生予察特殊報第1号、第2号発出)。

県内6地点に設置したフェロモントラップによる、発生消長の調査では、4月14日に初めて誘殺が確認された(図1)。8月第6半旬以降、各地点とも誘殺数が急増し、12月10日まで誘殺が確認された。また、飼料用トウモロコシの主要産地である、北諸県、西諸県、児湯地域における早播きトウモロコシのほ場調査では、1作目(3月下旬~5月上旬播種)調査(7月上旬調査)ではチョウ目害虫による被害確認ほ場率は33.3%、ツマジロクサヨトウの幼虫が確認されたほ場率は23.8%であった(表1)。2作目調査(8月下旬~9月上旬調査)では、チョウ目害虫による被害確認ほ場率は100%、ツマジロクサヨトウの幼虫が確認されたほ場率は100%であった(表2)。

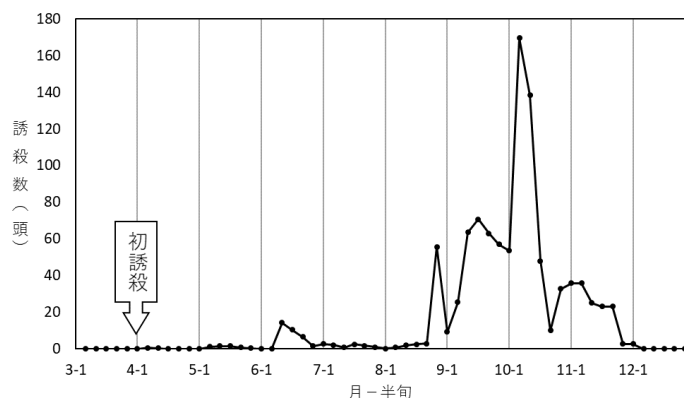


図1 ツマジロクサヨトウのフェロモントラップ誘殺数(県内6地点合計数)

表1 2020年 1作目飼料用トウモロコシにおけるツマジロクサヨトウの発生状況

	調査日	調査圃場数	チョウ目被害確認		被害株率%			ツマジロクサヨトウ幼虫確認ほ場数	ツマジロクサヨトウ幼虫確認ほ場率%	採取頭数	幼虫齢期割合%		
			ほ場数	ほ場率%	最大	最小	平均	老齢	中齢		若齢		
北諸県	7/2,5	36	8	22.2	4.5	0.0	0.8	7	19.4	17	88.2	11.8	0.0
西諸県	7/3	17	8	47.1	12.0	0.0	3.9	6	35.3	28	53.6	46.4	0.0
児湯	7/5	10	5	50.0	7.5	0.0	1.8	2	20.0	3	66.7	33.3	0.0
		63	21	33.3	12.0	0	2.2	15.0	23.8	48	60.1	30.6	9.4

・チョウ目発生ほ場数: シロイチモジヨトウ1、アワノメイガ1、アワヨトウ3

表2 2020年 2作目飼料用トウモロコシにおけるツマジロクサヨトウの発生状況

	調査日	調査圃場数	チョウ目被害確認		被害株率%			ツマジロクサヨトウ幼虫確認ほ場数	ツマジロクサヨトウ幼虫確認ほ場率%	採取頭数	幼虫齢期割合%		
			ほ場数	ほ場率%	最大	最小	平均	老齢	中齢		若齢		
北諸県	9/1	19	19	100	100	12.5	55.2	19	100	123	36.6	52.0	11.4
西諸県	8/31	17	17	100	96	4.0	45.7	17	100	89	58.4	27.0	14.6
児湯	9/3	11	11	100	93	7.5	62.5	11	100	62	45.2	48.4	6.5
		47	47	100	12.0	0	54.5	47	100	274	45.6	43.1	11.3

・チョウ目発生ほ場数: ハスモンヨトウ4、タバコガ1

## 6) ヒラズハナアザミウマの薬剤感受性検定

### 1 目的

近年、ヒラズハナアザミウマによるピーマン及びイチゴ果実の被害が問題となっている。これまでの調査において、いくつかの薬剤に対する感受性低下が明らかとなっているものの、新規登録剤の感受性や年次の違いによる感受性の変動は不明である。そこで効率的な防除対策確立のため、ピーマン及びイチゴから採集したヒラズハナアザミウマの薬剤感受性を明らかにする。

### 2 方法

#### 1) 供試虫

2019年11月から2020年5月において、冬春ピーマンより採集した6個体群及び冬春イチゴより採集した2個体群の雌成虫を供試した。感受性検定は採集翌日に実施した。

#### 2) 供試薬剤

ピーマン及びイチゴに登録のある9剤を供試した(表1、表2参照)。

#### 3) 薬剤感受性検定

検定法：マンジャーセル法によるインゲン葉片を用いた植物体浸漬法。

検定手順：各供試薬剤は予め展着剤トリトンX-100(0.05%)を添加した水道水で希釈。直径約50mmの円形に打ち抜いたインゲン葉を約10秒間浸漬し風乾後、インゲン葉の葉裏を上向きにし、穴あきアクリル板を上から被せ、穴の中に成虫を放飼後、蓋とともに四方をクリップで止め、接種面を上向きにして25℃、16L8Dの定温器内に静置した。72時間後に死亡虫数を調査し、Abbottの補正式により補正死虫数を算出した。また、苦悶虫は死亡虫とした。

各薬剤区の検定個体数は1処理につき8から27頭の3反復で実施した。

### 3 結果の概要

#### 1) ピーマン採集個体群

ピーマンより採集した6個体群のヒラズハナアザミウマ雌成虫に対して、クロルフェナピル水和剤の効果が最も高く、6個体群中4個体群に対して補正死虫率90%以上の高い殺虫効果が認められた。一方、2ほ場では70%未満の低い効果を示す個体群が確認された。

他の供試薬剤では、合成ピレスロイド系のアクリナトリン水和剤が新富町C及び国富町D-2の個体群で70%を超える効果を示し、スピノシン系のスピノサド及びスピネトラム水和剤は国富D-2の個体群で90%以上の高い効果を示した。しかしながら、他のほ場から採集した個体群は、全て70%未満の低い効果であった。また、他の5薬剤では、いずれの個体群に対しても70%以上の高い効果を示す薬剤は認められなかった(表1)。

#### 2) イチゴ採集個体群

イチゴより採集した2個体群に対して、スピノサド、スピネトラム水和剤、クロルフェナピル水和剤及びフルキサメタミド乳剤は90%以上の高い殺虫効果が認められた。アクリナトリン水和剤は、川南町G個体群に対して100%の殺虫効果が認められたが、川南町F個体群では36%



の低い殺虫効果であった。ネオニコチノイド系薬剤では、ニテンピラム水溶剤が、川南町F個体群に対して76%の殺虫効果を示したが、川南町G個体群では64%の低い効果であった。また、同系統のアセタミプリド水溶剤は、2個体群とも70%未満の低い殺虫効果であった。フロメキトン水和剤およびシアンニトラニリプロール水和剤は、供試した2個体群に対し、70%未満の低い効果であった（表2）。

### 3) 総括

ヒラズハナアザミウマ雌成虫の薬剤感受性の調査の結果、ピーマン個体群では、クロルフェナピル水和剤以外の薬剤は、感受性が低下した個体群が多いことが判明した。一方、イチゴ個体群は、ピーマン個体群と比べて多くの薬剤が高い効果を示し、採集作物により、感受性に差異がある結果となった。また、ピーマン個体群のクロルフェナピル水和剤は、6個体群中4個体群で高い効果を示したものの、2個体群の効果は低かったことから、採取ほ場によっても感受性の差が認められることが判明した。

今回、採集した全てのピーマンほ場では、ヒラズハナアザミウマに対して定期的に薬剤防除を実施する防除体系であった。一方、イチゴでは受粉にミツバチを導入していることから、3月頃までヒラズハナアザミウマ対象の防除は行われていなかった。そのため、薬剤防除回数の違いが、ピーマンとイチゴ個体群の感受性の差に影響を及ぼしたと推察している。今後、引き続き検定を行い、使用農薬等の影響について明らかにしていく。

表1 2019-2020年ヒラズハナアザミウマ雌成虫（ピーマン）の補正死虫率（%）

一般名	商品名	系統	IRAC コード	検定 濃度 (倍)	採集年・場所・作物						平均	
					2019.11		2019.12		2020.5			
					西都市 A	新富町 C	国富町 D-1	国富町 D-2	西都市 B	西都市 A		
1	アクリナトリン水和剤	アーデント水和剤	ピレスロイド	3A	1000	9	<b>73</b>	67	<b>78</b>	36	16	46
2	ニテンピラム水溶剤	ベストガード水溶剤	ネオニコチノイド	4A	1000	28	5	18	9	9	17	14
3	アセタミプリド水溶剤	モスピラン顆粒水溶剤	ネオニコチノイド		2000	17	0	12	16	22	3	12
4	スピノサド水和剤	スピノエース顆粒水和剤	スピノシン	5	5000	20	34	67	<b>93</b>	6	22	40
5	スピネトラム水和剤	ディアナSC	スピノシン		2500	22	48	30	<b>92</b>	17	9	36
6	クロルフェナピル水和剤	コテツフロアブル	クロルフェナピル	13	2000	54	62	<b>78</b>	<b>98</b>	<b>86</b>	<b>93</b>	<b>79</b>
7	フルキサメタミド乳剤	グレーシア乳剤	イソキサゾリン	30	2000	20	11	3	15	4	1	9
8	フロメキトンフロアブル	ファインセーブフロアブル	不明	?	1000	3	3	3	0	0	7	3
9	シアントラニリブロール水和剤	ベネビアOD	ジアミド	28	2000	4	0	10	17	5	16	9

検定はマンジャーセル法による薬液浸漬法を用いて行った。補正死虫率は、処理72時間後の結果。  
太字・下線は90%以上の高い効果、太字は70%以上の効果有りと判定。

表2 2019-2020年ヒラズハナアザミウマ雌成虫（イチゴ）の補正死虫率（%）

一般名	商品名	系統	IRAC コード	検定 濃度 (倍)	採集年・場所・作物		平均	
					2020.5			
					川南町 G イチゴ	川南町 F イチゴ		
1	アクリナトリン水和剤	アーデント水和剤	ピレスロイド	3A	1000	<b>100</b>	36	68
2	ニテンピラム水溶剤	ベストガード水溶剤	ネオニコチノイド	4A	1000	64	<b>76</b>	70
3	アセタミプリド水溶剤	モスピラン顆粒水溶剤	ネオニコチノイド		2000	32	42	37
4	スピノサド水和剤	スピノエース顆粒水和剤	スピノシン	5	5000	<b>100</b>	<b>100</b>	<b>100</b>
5	スピネトラム水和剤	ディアナSC	スピノシン		2500	<b>100</b>	<b>100</b>	<b>100</b>
6	クロルフェナピル水和剤	コテツフロアブル	クロルフェナピル	13	2000	<b>100</b>	<b>100</b>	<b>100</b>
7	フルキサメタミド乳剤	グレーシア乳剤	イソキサゾリン	30	2000	<b>91</b>	<b>92</b>	<b>92</b>
8	フロメキトンフロアブル	ファインセーブフロアブル	不明	?	1000	18	42	30
9	シアントラニリブロール水和剤	ベネビアOD	ジアミド	28	2000	3	34	19

検定はマンジャーセル法による薬液浸漬法を用いて行った。補正死虫率は、処理72時間後の結果。  
太字・下線は90%以上の高い効果、太字は70%以上の効果有りと判定。

## 7) マイナー作物農薬登録の推進について

### 1. 事業の目的

地域特産作物（マイナー作物）は農薬需要量が少ないことから使用可能な農薬が少ない又は全くない場合もあり、安定的な生産活動に支障がでる事が多々ある。そこで農水省が構築している都道府県、農薬メーカー間の調整を始めとするマイナー作物の農薬登録推進体制に基づき、地域から要望のあるマイナー作物の病害虫について農薬登録に必要な試験データを効率的に作成する。

### 2. マイナー作物とは

地域特産物として栽培される作物のうち、生産量が少ないもの（生産量3万トン以下）でメジャー作物や準メジャー作物に指定された農作物以外の農作物。宮崎県ではにがうり、マンゴー、レイシ etc.が該当する。農薬登録取得のための必要試験例数は薬効薬害試験、作物残留試験とも2例となっている。

### 3. 事業の進捗状況

表1 農薬登録試験の進捗と今後の予定（2021.3現在）

品目	対象病害虫	薬剤名	試験の内容	実施状況		登録への進捗
				1 例	2 例	
レイシ	カイガラムシ類	モスピラン顆粒水溶剤	薬効薬害	済(2018)	済(2018)	登録済 (2021.8.11)
			薬害（幼果期） <sup>1)</sup>	済(2019)	済(2020)	
			作残 <sup>2)</sup>	済(2017)	済(2020)	
レイシ	カイガラムシ類	ポタニガードES	薬効薬害	済(2018)	済(2018)	
			倍濃度薬害（幼果期）	済(2019)	済(2020)	
			作残	不要	不要	
にがうり	アブラムシ類	チェス顆粒水和剤	薬効薬害	済(2018)	済(2019)	登録済 (2020.9.9)
			倍濃度薬害 <sup>3)</sup>	済(2018)	—	
			作残	済(2018)	済(2019)	
レイシ	ハダニ類	スターマイトフロアブル	薬効薬害	済(2019)	済(2021.3)	
			薬害（幼果期）	済(2020)	済(2021)	
			作残	2021に実施予定	2022に実施予定	
にがうり	ウリノメイガ	ブレオフロアブル	薬効薬害	2021に実施予定	2022に実施予定	
			作残	不要	不要	
にがうり	ウリノメイガ	マトリックフロアブル	薬効薬害	2021に実施予定	2022に実施予定	
			作残	2022に実施予定	2023に実施予定	

1) レイシにおいては薬効薬害試験は果実がない時期になることが多いため、別途幼果期前後に薬害試験を実施した。

2) 作残試験はサンプル調整を病害虫防除肥料検査課が、残留分析を生産流通部が実施した。

3) 2019年から倍濃度薬害試験が不要になった。但し、ポタニガードにおいてはメーカーからの要望で倍濃度薬害試験を実施した。

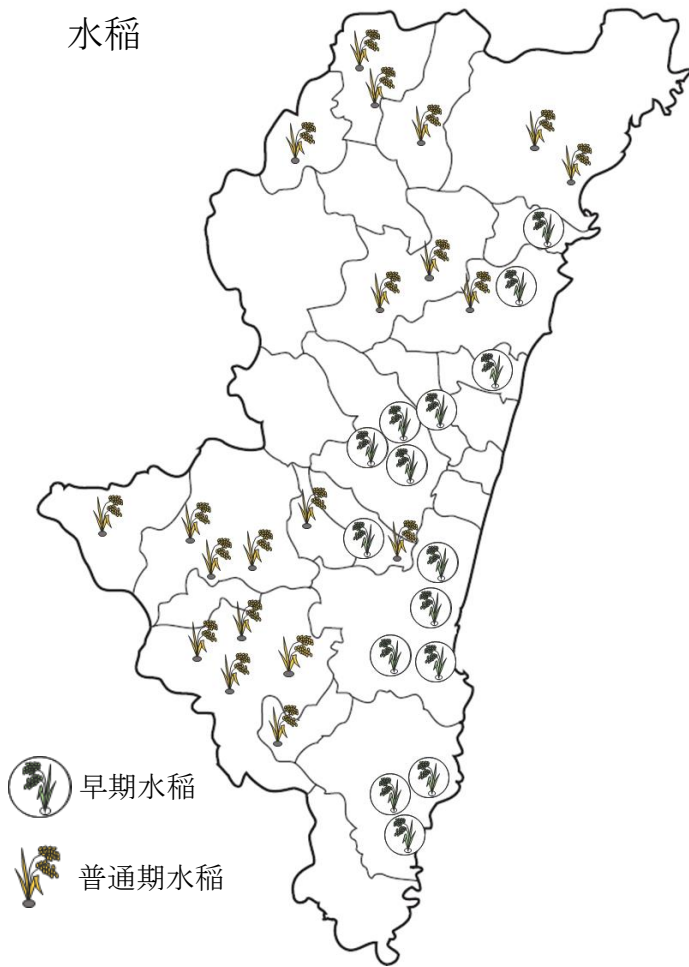
### Ⅲ その他

#### 1 病虫害防除員の設置状況

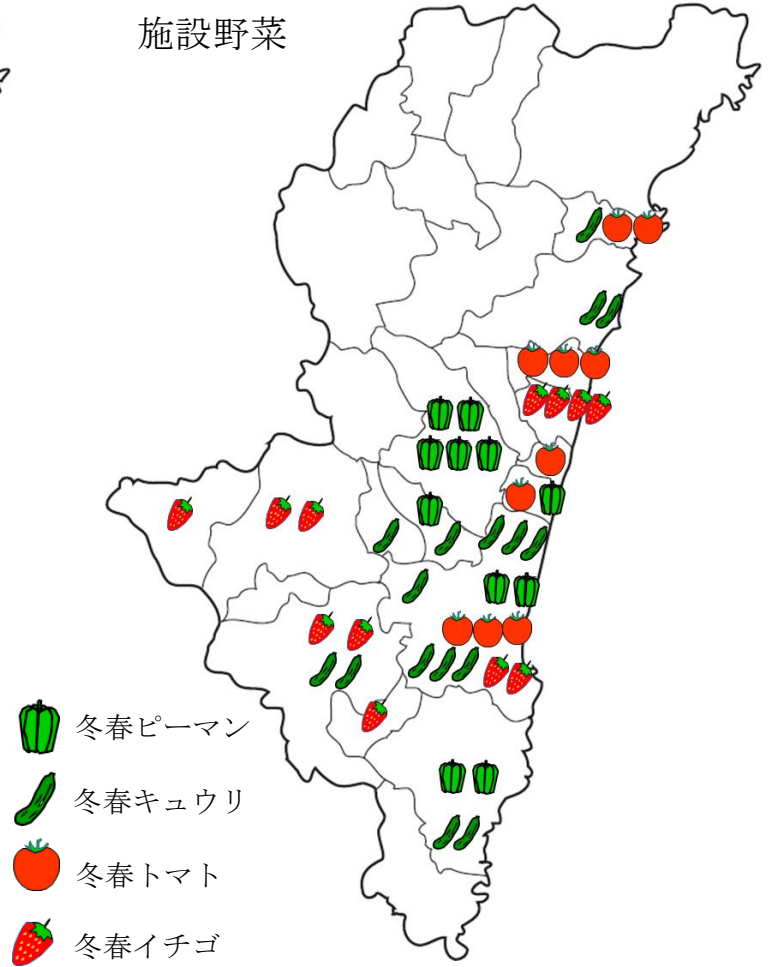
市町村	定数	水稻	果樹	茶	野菜	市町村	定数	水稻	果樹	茶	野菜
宮崎市	6	1	1		4	西米良村	1	1			
国富町						木城町	1				1
綾町						川南町	1				1
小計	6	1	1		4	都農町	1		1		
日南市	3	2	1			小計	5	1	1		3
串間市						延岡市	2	2			
小計	3	2	1			日向市	1	1			
都城市	5	4		1		門川町					
三股町	1	1				美郷町	1	1			
小計	6	5		1		諸塚村					
小林市	2	1		1		椎葉村					
えびの市	1				1	小計	4	4			
高原町						高千穂町	1	1			
小計	3	1		1	1	日之影町	1	1			
西都市	1				1	五ヶ瀬町	1			1	
高鍋町						小計	3	2		1	
新富町						合計	30	16	3	3	8

## 2 巡回調査ほ場の分布

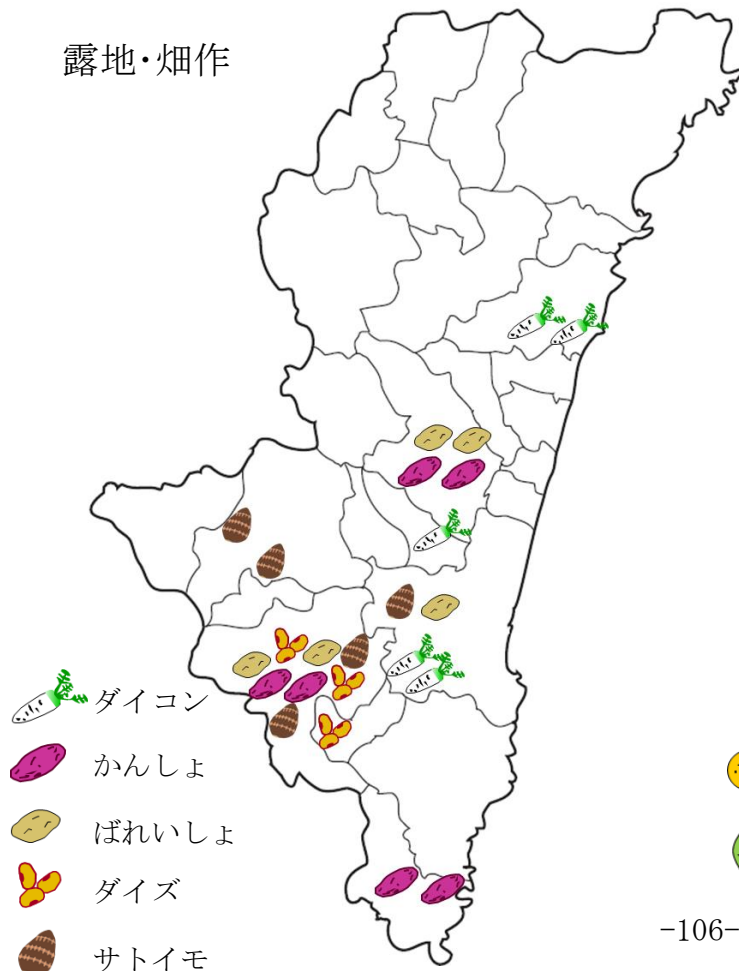
水稲



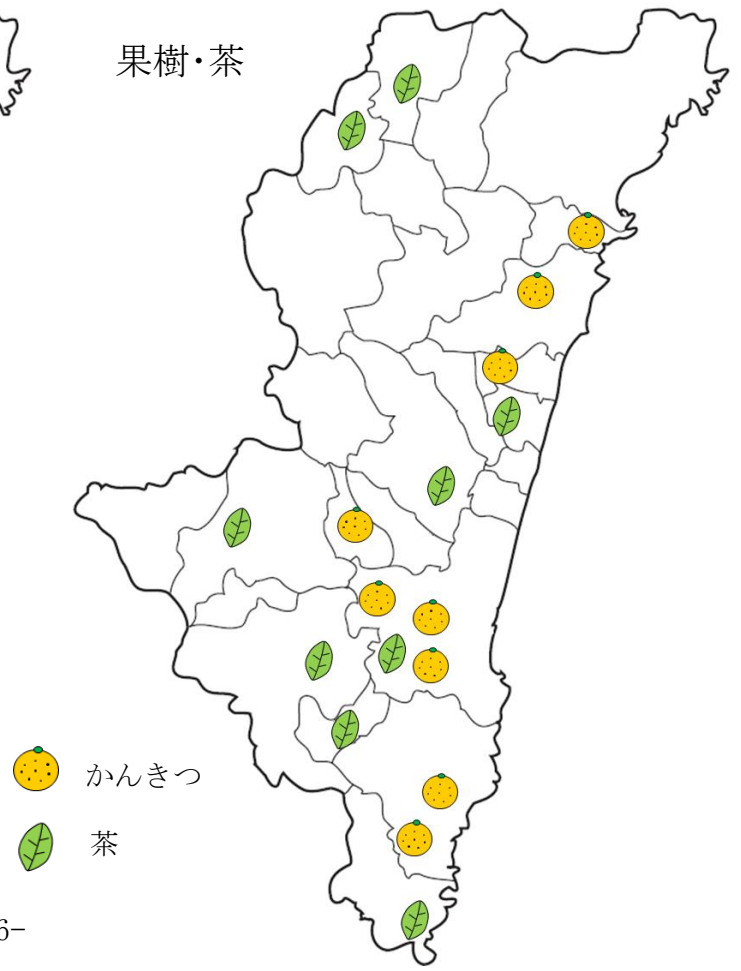
施設野菜



露地・畑作



果樹・茶



## IV 令和2年度気象概況

月別気象概況（宮崎地方気象台作成の気象月報から抜粋）

### ○4月

気圧の谷や湿った空気等の影響で曇りや雨の降った日もあったが、期間を通して、高気圧に覆われて概ね晴れた日が多く、少雨、多照の傾向となり、また、寒気の影響で気温が平年より低く推移した。このため、月降水量がえびの 143.0 mm、月平均気温が小林 13.5℃、月間日照時間が都城 236.4 h、古江 231.3 h、加久藤 229.4 h、油津 219.4 h、西米良 174.7 h となり、月降水量の少ない方からと月平均気温の低い方から及び月間日照時間の多い方から、それぞれ4月の極値を更新した。県内各地の月平均気温は平年差-2.1℃～-0.8℃で宮崎は平年より低く、他は平年よりかなり低かった。月降水量は 46.5 mm～143.0 mm（平年比 26%～51%）で全ての観測所で平年よりかなり少なかった。月間日照時間は平年比 121%～144%で鞍岡、神門、小林は平年より多く、他は平年よりかなり多かった。

### ○5月

高気圧に覆われて晴れた日もあったが、期間を通して、前線や湿った空気等の影響で曇りや雨の日が多く、日降水量が 100 mmを超える大雨となった日があった。このため、月降水量が加久藤で 538.0 mmに達し、月降水量の多い方からの5月の極値を更新した。県内各地の月平均気温は平年差+0.2℃～+1.2℃で油津、神門、西都は平年より高く、古江、日向は平年並で、他は平年よりかなり高かった。月降水量は 205.5 mm～538.0 mm（平年比 89%～229%）で西米良、加久藤、小林は平年よりかなり多く、宮崎、油津、日向、深瀬、串間は平年並で、他は平年より多かった。月間日照時間は平年比 91%～106%で全ての観測所で平年並だった。

### ○6月

今期間は、梅雨前線や湿った空気等の影響で曇りや雨の日が多く、日降水量が 100mmを超える大雨となった日もあったが、高気圧に覆われて晴れた日があった。そのため、暖かい空気の流れ込みや強い日射の影響で気温が平年より高く推移し、月平均気温が赤江 24.3℃、串間 24.0℃、都城 23.8℃、加久藤 23.3℃、小林 23.2℃、神門 22.4℃、高千穂 22.1℃、鞍岡 21.0℃を観測し、月平均気温の高い方からの6月の極値を更新した。また、月降水量が都農 378.5mmを観測し、月降水量の少ない方からの6月の極値を更新した。

県内各地の月平均気温は平年差+0.6℃～+1.4℃で油津、古江、日向、西米良、西都は平年より高く、他は平年よりかなり高かった。月間降水量は 261.0mm～1535.5mm（平年比 77%～180%）で都城、えびの、深瀬は平年よりかなり多く、西米良、加久藤、野尻、国富、串間は平年より多く、古江、日向は平年より少なく、他は平年並だった。月間日照時間は平年比 83%～113%で西都は平年より多く、他は平年より少ないか平年並だった。

### ○7月

期間を通して、梅雨前線や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多く、大雨となった日があった。

なお、九州南部は、28日ごろ梅雨明け（平年より14日遅く、昨年より4日遅い）したと見られる。

県内各地の月平均気温は平年差-1.7℃～-0.8℃で平年よりかなり低いか、平年より低かった。月間降水量は 436.5 mm～1578.0mm（平年比 152%～289%）で平年よりかなり多いか、平年より多かった。月間日照時間は平年比 62%～77%で平年よりかなり少ないか、平年より少なかった。

### ○8月

湿った空気等の影響で曇りや雨の日もあったが、期間を通して高気圧に覆われて晴れた日が多かった。また、暖かい空気の流れ込みや強い日射の影響で気温が平年より高く推移し、日最高気温が 35℃以上の猛暑日となった日が多く、多くの観測所で月平均気温の高い方からと月間日照時間の多い方からの8月の極値や観測史上1位を更新した。そのため「長期間の高温に関する宮崎県気象情報」を19日に発表し注意喚起を行った。

県内各地の月平均気温は平年差+0.8℃～+2.1℃で古江は平年より高く、他は平年よりかなり高かった。月降水量は 74.5 mm～257.5mm（平年比 19%～81%）で宮崎、諸塚、神門、西米良、西都、国富は平年よりかなり少なく、小林は平年並で、他は平年より少なかった。月間日照時間は平年比 128%～152%で全ての観測所で平年よりかなり多かった。

### ○9月

この期間は、高気圧に覆われて晴れた日もあったが、台風及び前線や気圧の谷などの影響で曇りや雨の日が多く、日降水量が 100mmを超える大雨や大荒れの天気となった所があった。また、日照時間が少なく、小林で月間日照時間の少ない方からの9月の極値を更新した。

県内各地の月平均気温は平年差-0.7℃～+0.4℃で宮崎は平年より高く、油津、日向、西米良、小林は平年より低

く、他は平年並だった。月降水量は 330.5mm～1080.5mm（平年比 104%～247%）で、宮崎、油津、古江、西都、国富は平年並で、西米良、えびのは平年よりかなり多く、他は平年より多かった。月間日照時間は平年比 63%～86%で鞍岡は平年並で、他は平年よりかなり少ないか平年より少なかった。

#### ○10月

この期間は、高気圧に覆われて晴れた日が多かったが、気圧の谷や湿った空気等の影響で曇りや雨の日もあった。また、台風や前線などの影響で、日降水量が 100mm を超える大雨や荒れた天気となつた所があり、22 日 08 時 30 分頃に、新富町で発達した積乱雲により、竜巻と推定される突風が発生した。

県内各地の月平均気温は平年差 $-0.4^{\circ}\text{C}$ ～ $+0.6^{\circ}\text{C}$ で全ての観測所で平年並だった。月降水量は 53.0mm～194.5mm（平年比 33%～108%）で延岡、日向は平年より多く、都城、古江、北方、加久藤、えびの、野尻は平年並で、他は平年より少なかった。月間日照時間は平年比 111%～127%で全ての観測所で平年より多かった。

#### ○11月

この期間は、気圧の谷や湿った空気などの影響で曇りや雨の日もあったが、高気圧に覆われて晴れた日が多かった。また、気温が期間の前半は平年より低く、後半は平年より高く推移した。

県内各地の月平均気温は平年差 $+1.0^{\circ}\text{C}$ ～ $+1.9^{\circ}\text{C}$ で延岡、都城、宮崎、油津、加久藤、串間は平年よりかなり高く、日向は平年並で、他は平年より高かった。月降水量は 62.5 mm～195.0mm（平年比 44%～153%）で高千穂、西米良、加久藤、西都、えびの、野尻、国富は平年より多く、他は平年並だった。月間日照時間は平年比 97%～120%で日向は平年より少なく、延岡、古江、神門、西米良、西都は平年並で、他は平年より多かった。

#### ○12月

この期間は、気圧の谷や湿った空気などの影響で曇りや雨の日もあったが、高気圧に覆われて晴れた日が多かった。また、期間の後半は冬型の気圧配置や寒気の流れ込みなどにより、気温が平年より低い日が多かった。

県内各地の月平均気温は平年差 $-1.1^{\circ}\text{C}$ ～ $-0.3^{\circ}\text{C}$ で都城、油津、串間は平年並で、他は平年より低かった。月降水量は 13.0mm～41.5mm（平年比 19%～65%）で小林は平年よりかなり少なく、油津は平年並で、他は平年より少なかった。月間日照時間は平年比 98%～137% で高千穂、古江、鞍岡、加久藤、小林は平年よりかなり多く、宮崎、油津、串間は平年並で、他は平年より多かった。

#### ○1月

この期間は、気圧の谷や湿った空気などの影響で曇りや雨の日もあったが、高気圧に覆われて晴れた日が多かった。期間の後半は気温が高い日があった。

県内各地の月平均気温は平年差 $-0.4^{\circ}\text{C}$ ～ $+1.0^{\circ}\text{C}$ で日向は平年より低く、油津、高千穂、古江、神門、西都では平年並で、他は平年より高かった。月降水量は 23.5 mm～64.0 mm（平年比 41%～78%）で鞍岡、小林は平年よりかなり少なく、延岡、古江、北方、日向は平年並で、他は少なかった。月間日照時間は平年比 105%～132%で油津は平年並で、他は平年よりかなり多いか平年より多かった。

#### ○2月

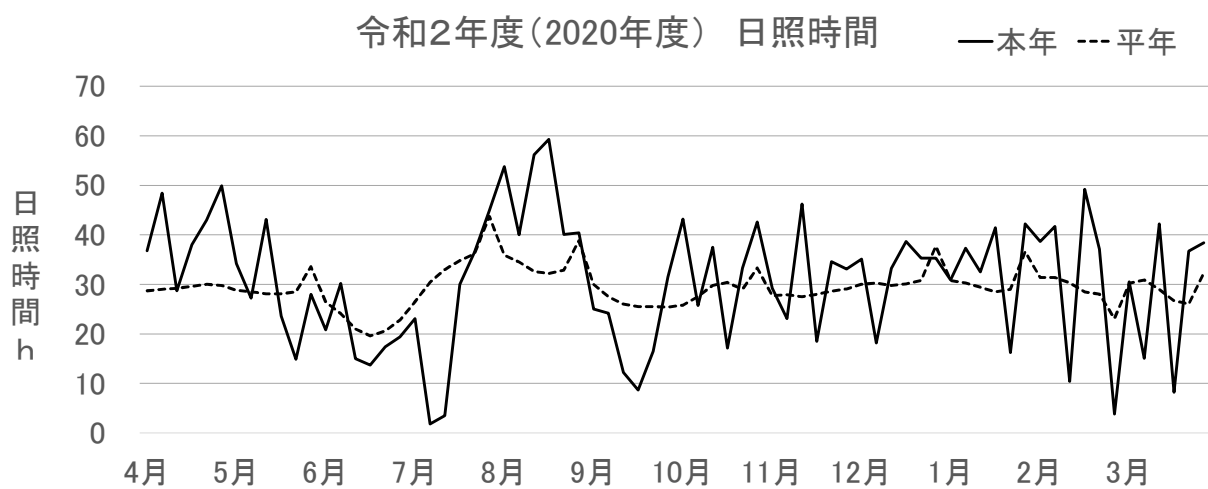
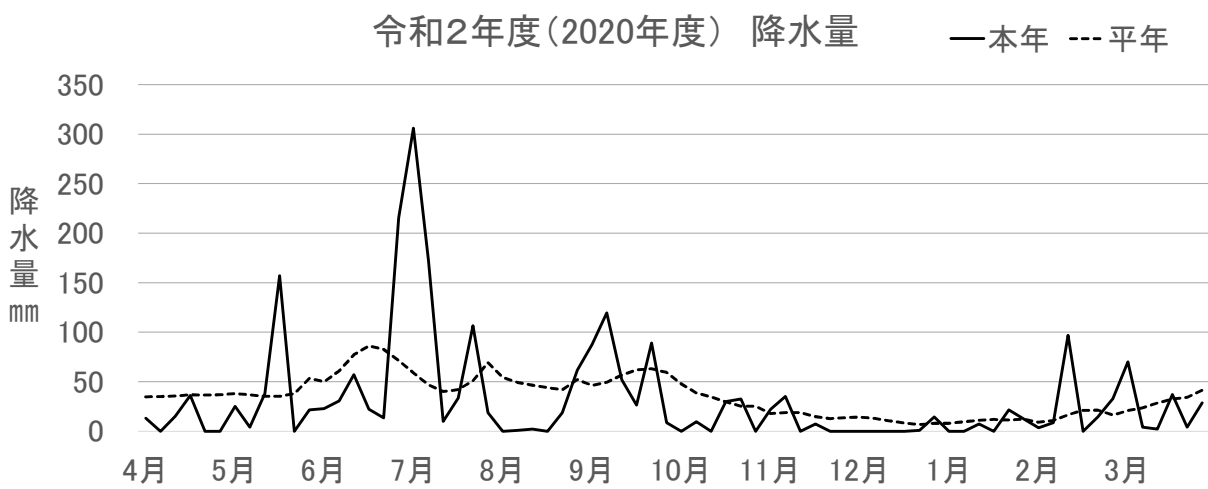
高気圧に覆われて晴れた日が多かったが、低気圧や前線、気圧の谷の影響で曇りや雨の日もあった。また、期間の中頃は、一時的に冬型の気圧配置となり、気温の低い日もあったが、そのほかの日は暖かい空気に覆われた日が多く、気温は平年より高く推移した。

県内各地の月平均気温は平年差 $+1.6^{\circ}\text{C}$ ～ $+2.7^{\circ}\text{C}$ で延岡、宮崎、串間は平年よりかなり高く、他は平年より高かった。月降水量は 76.0 mm～256.5 mm（平年比 59%～220%）で油津、北方は平年よりかなり多く、延岡、宮崎、古江、諸塚、日向、神門、西都、串間は平年より多く、えびのは平年より少なく、他は平年並だった。月日照時間は平年比 100%～115%で都城、高千穂、古江、鞍岡、西都は平年より多く、他は平年並だった。

#### ○3月

期間中は、高気圧と低気圧、前線や気圧の谷の影響を交互に受けたため、天気は短い周期で変化した。また、暖かい空気の流れ込みで 気温が平年よりかなり高く推移した日が多く、県内の全地点で月平均気温の高い方からの3月の極値を更新した。

県内各地の月平均気温は平年差 $+2.5^{\circ}\text{C}$ ～ $+3.5^{\circ}\text{C}$ で全地点で平年よりかなり高く、月降水量は 86.0 mm～275.5 mm（平年比 55%～131%）で高千穂、加久藤、国富では平年より少なく、鞍岡では平年よりかなり少なく、古江、串間では平年より多く、他は平年並だった。月日照時間は平年比 85～108%で古江、神門、小林では平年より少なく、他は平年並だった。





宮崎県総合農業試験場 病虫害防除・肥料検査課  
(宮崎県病虫害防除・肥料検査センター)

880-0212 宮崎県宮崎市佐土原町下那珂 5805 番地

TEL 0985-73-6670

FAX 0985-73-2127

E-mail : [byogaichu-hiryo @ pref.miyazaki.lg.jp](mailto:byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp)